令和4年第1回定例会

美郷町議会会議録

令和 4年 3月 8日 開会

令和 4年 3月 22日 閉会

美 郷 町 議 会

令和4年第1回定例会

美郷町議会会議録(第1号)

令和4年3月8日

美郷町議会

令和4年1回美郷町議会定例会会議録（第1日）

令和4年3月8日（火曜日）

◎開会日時 令和4年3月8日 午前10時00分 開会
◎散会日時 令和4年3月8日 午後2時00分 散会

◎出席議員（11名）

1番	若杉 伸児君	2番	早川 節夫君
3番	中田 武満君	4番	兒玉 鋼士君
5番	中嶋 奈良雄君	6番	川村 義幸君
7番	那須 富重君	8番	小路 文喜君
9番	甲斐 秀徳君	10番	川村 嘉彦君
11番	山本 文男君		

◎欠席議員 なし

◎欠員 なし

◎会議録署名議員 7番 那須 富重君 8番 小路 文喜君

◎事務局職員氏名 事務局長 小田 広美君 書記 森川 晴君

◎説明のための出席者職氏名

町長	田中 秀俊君	副町長	藤本 茂君
教育長	大坪 隆昭君	会計管理者	三榎 治君
総務課長	下田 光君	税務課長	甲斐 武彦君
企画情報課長	田常 浩二君	町民生活課長	田村 靖君
健康福祉課長	黒田 和幸君	建設課長	林田 貴美生君
農林振興課長	松下 文治君	政策推進室長	沖田 修一君
教育課長	石田 隆二君	地域包括医療局事務長	黒木 博文君
南郷地域課長	川野 一郎君	北郷地域課長	泉田 浩文君

◎会議の経過 別紙のとおり

令和4年第1回美郷町議会定例会 議事日程（第1）

令和4年3月8日

午前10時開議

- 日程第1 会議録署名議員の指名
7番 那須 富重 議員
8番 小路 文喜 議員
- 日程第2 会期の決定
3月8日 ～ 3月22日 15日間
- 日程第3 諸般の報告
(1)議長
(2)文教産業常任委員長
(3)総務厚生常任委員長
(4)入郷地区衛生組合議会議員
(5)宮崎県北部広域行政事務組合議員
(6)日向東臼杵広域連合議会議員
- 日程第4 選挙管理委員の選挙
- 日程第5 選挙管理委員補充員の選挙
- 日程第6 報告第2号 債権放棄の報告について
報 告
- 日程第7 諮問第1号 人権擁護委員候補者の推薦について
提案理由説明、質疑、討論、採決
- 日程第8 諮問第2号 人権擁護委員候補者の推薦について
提案理由説明、質疑、討論、採決
- 日程第9 同意第3号 副町長の選任について
提案理由、質疑、討論、採決（投票による方法）

日程第 10 同意第 4 号 監査委員の選任について
提案理由、質疑、討論、採決（投票による方法）

日程第 11 議案第 2 号 公の施設の指定管理者の指定について
（田代保育所）

日程第 12 議案第 3 号 公の施設の指定管理者の指定について
（うなま保育所）

日程第 13 議案第 4 号 公の施設の指定管理者の指定について
（みかど保育所）

提案理由説明

日程第 14 議案第 5 号 公の施設の指定管理者の指定について
（南郷歯科診療所）

提案理由説明

日程第 15 議案第 6 号 公の施設の指定管理者の指定について
（地蔵の里）

日程第 16 議案第 7 号 公の施設の指定管理者の指定について
（北の郷）

提案理由説明

日程第 17 議案第 8 号 小黒木辺地総合整備計画の策定について
提案理由説明

日程第 18 議案第 9 号 第 2 次美郷町総合計画後期基本計画の策定について

提案理由説明

日程第 19 議案第 10 号 町道路線の認定について

日程第 20 議案第 11 号 町道路線の廃止について

日程第 21 議案第 12 号 町道路線の認定について

提案理由説明

日程第 22 議案第 13 号 工事請負契約の締結について

提案理由説明

日程第 23 議案第 14 号 美郷町移住定住促進空き家活用住宅の管

理に関する条例

提案理由説明

日程第 24 議案第 15 号 美郷町過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法の適用に伴う固定資産税の課税免除に関する条例

提案理由説明

日程第 25 議案第 16 号 職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例

提案理由説明

日程第 26 議案第 17 号 美郷町議会の議員の報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正する条例

日程第 27 議案第 18 号 町長等の給料及び旅費に関する条例の一部を改正する条例

日程第 28 議案第 19 号 一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

日程第 29 議案第 20 号 美郷町第 1 号会計年度任用職員の報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例

提案理由説明

日程第 30 議案第 21 号 令和 3 年度美郷町一般会計補正予算（第 11 号）

提案理由説明

日程第 31 議案第 22 号 令和 3 年度美郷町国民健康保険事業特別会計補正予算（第 4 号）

日程第 32 議案第 23 号 令和 3 年度美郷町介護保険事業特別会計補正予算（第 3 号）

日程第 33 議案第 24 号 令和 3 年度美郷町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第 2 号）

日程第 34 議案第 25 号 令和 3 年度美郷町簡易水道事業特別会計補正予算（第 4 号）

日程第 35 議案第 26 号 令和 3 年度美郷町農業集落排水事業特別会計補正予算（第 4 号）

日程第 36 議案第 27 号 令和 3 年度美郷町国民健康保険診療所

- 日程第 37 議案第 28 号 事業特別会計補正予算（第 4 号）
令和 3 年度美郷町国民健康保険病院事業会計補正予算（第 5 号）

提案理由説明

- 日程第 38 議案第 29 号 令和 4 年度美郷町一般会計予算
日程第 39 議案第 30 号 令和 4 年度美郷町国民健康保険事業特別会計予算
日程第 40 議案第 31 号 令和 4 年度美郷町介護保険事業特別会計予算
日程第 41 議案第 32 号 令和 4 年度美郷町後期高齢者医療事業特別会計予算
日程第 42 議案第 33 号 令和 4 年度美郷町簡易水道事業特別会計予算
日程第 43 議案第 34 号 令和 4 年度美郷町農業集落排水事業特別会計予算
日程第 44 議案第 35 号 令和 4 年度美郷町国民健康保険診療所事業特別会計予算
日程第 45 議案第 36 号 令和 4 年度美郷町国民健康保険病院事業会計予算

施政方針の説明

会 議 録

令和4年3月8日
午前10時開議

【事務局長 小田 広美】

「一同起立・礼」・・・おはようございます・・・御着席ください。

【議長 山本 文男】

改めまして、おはようございます。

日差しが日増しに春めいてまいりました。3月2日、うれしいニュースが飛び込んできました。日本穀物検定協会は、2021年度産米の食味ランキングを発表し、西北中山間地区のヒノヒカリが3年連続で最上級の特Aを獲得するというものでした。さらなるブランド力向上に期待が高まります。

国内では、新型コロナウイルスによる第6波の混乱はいまだ先の見えない状況であり、3月6日を期限としていたまん延防止等重点措置も終了しましたが、予断を許せぬ状況にあるのは変わりありません。

そして、世界では、ロシアによるウクライナ侵攻により多くの尊い命が失われており、全世界が連携し早期の停戦と世界平和への実現を願っているところです。

国においては、2022年度予算案が2月22日に衆議院を通過し、24日からは参議院で審議されておりますが、一般会計の歳出総額が10年連続で過去最大の107兆5,964億円となり新型コロナウイルス対策にも5兆円の大規模予算が組まれております。

我が美郷町においても、令和4年度の主な当初予算としては、「交通弱者支援」「子育て支援」「高齢者福祉支援」「医療の充実」「商工業振興事業」「人口減少に歯止めをかけるための地域づくり事業」「農林業生産組織担い手の強化」「6次産業化の推進支援事業」等、多くの重要な施策が上げられております。

今定例会は新年度予算の審議という大きな案件がございます。

議員各位におかれましては、長丁場となりますが、十分な体調管理の上、活発な激論を期待したいと思います。よろしくお願いいたします。

以上で挨拶を終わります。

【議長 山本 文男】

ただいまの出席議員は11名であります。

【議長 山本 文男】

ただいまから、令和4年第1回美郷町議会定例会を開会します。

【議長 山本 文男】

これから、本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程表のとおりであります。

なお、本日の会議には、報道機関が取材のため傍聴しますので、あらかじめお知らせします。

また、カメラの持込、写真撮影も許可しましたので申し添えます。

【議長 山本 文男】

日程第1 会議録署名議員の指名を行います。

本定例会の署名議員は、会議規則第127条の規定によって、7番 那須 富重議員、8番 小路 文喜議員を指名いたします。

【議長 山本 文男】

日程第2 会期の決定を議題とします。

この件につきましては、議会運営委員会において検討がなされておりますので、委員長より報告をお願いします。

【議会運営委員長 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 山本 文男】

議会運営委員長 中嶋 奈良雄議員。

【議会運営委員長 中嶋 奈良雄】

令和4年第1回美郷町議会定例会について、議長より諮問を受けました会期及び日程につきまして、議会運営委員会は以下のように議長に答申いたしましたので御報告いたします。

会期日程については、本日から3月22日までの15日間とし、会期日程はお手元に配付してあるとおりとしたところです。

以上で、議会運営委員長の報告を終わります。

【議長 山本 文男】

委員長の報告が終わりました。

お諮りします。

本定例会の会期は、委員長の報告のとおり、本日から3月22日までの15日間としたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

異議なしと認めます。したがって、会期は本日から3月22日までの15日間に決定いたしました。

会期中の会議予定につきましては、お手元に配付の会期及び審議の予定表のとおりであります。

【議長 山本 文男】

日程第3 諸般の報告を行います。

本日まで受理しました請願・陳情は、お手元に配付いたしました請願・陳情文書表のとおりであります。

記載のとおり処理しましたので、報告します。

【議長 山本 文男】

地方自治法第235条の2第3項の規定により、例月出納検査の結果報告書が、お手元に配付したとおり提出されています。

朗読は省略します。

議長の報告は、お手元に配付の諸般の報告をもって報告とします。

【議長 山本 文男】

次に、入郷地区衛生組合議会議員、日向東臼杵広域連合議会議員、宮崎県北部広域行政事務組合議会議員からそれぞれ報告の申出があります。

まず入郷地区衛生組合議会議員及び日向東臼杵広域連合議会議員の2つの報告を中嶋 奈良雄議員より報告をお願いいたします。

【5番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 山本 文男】

5番、中嶋 奈良雄議員。

【5番 中嶋 奈良雄】

それでは、先般開催されました定例会の報告をいたします。

入郷地区衛生組合議会定例会報告書

1. 会 期 令和4年2月21日（月）1日間
2. 場 所 入郷地区衛生組合
3. 出席者 中嶋 奈良雄議員、甲斐 秀徳議員
4. 議案審議（管理者提出議案）

議案第1号 令和3年度入郷地区衛生組合一般会計補正予算（第2号）
について

- ・職員給与及び手当不足額更正
- ・委託料の追加（支障木伐採）等
（原案認定）

議案第2号 令和4年度入郷地区衛生組合一般会計予算について

歳入予算額 9,865万6,000円

歳出予算額 9,865万6,000円

（原案可決）

資料と予算の主なものについては、別紙のとおり
続きまして、先般、日向市にて開催されました定例会の報告をいたします。

日向東臼杵広域連合議会定例会報告書

1. 会 期 令和4年2月21日（月）1日間
2. 場 所 日向市 市議会議事堂
3. 出席者 山本 文男議長、中嶋 奈良雄議員
4. 議案審議

○広域連合長提出議案

議案第1号 令和3年度日向東臼杵広域連合補正予算（第1号）
（原案可決）

議案第2号 令和4年度日向東臼杵広域連合予算

(原案可決)

添付資料として、令和4年度第1回日向東白杵広域連合議会定例会の議案を参考にしてください。

以上で、報告を終わります。

【議長 山本 文男】

次に、那須 富重議員から、宮崎県北部広域行政事務組合議会の報告をお願いいたします。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

それでは、先般、延岡市におかれまして開催されました定例会の御報告をいたします。

宮崎県北部広域行政事務組合議会定例会報告書

1. 会 期 令和4年2月28日(月)1日間

2. 場 所 延岡市役所 議会大会議室

3. 出席者 那須 富重議員、兒玉 鋼士議員

4. 議案審議 (管理者提出議案)

議案第5号 令和3年度宮崎県北部広域行政事務組合
宮崎県北部ふるさと市町村圏事業特別会計補正予算

要旨 別紙参照
(原案可決)

議案第6号 令和4年度宮崎県北部広域行政事務組合一般会計予算

要旨 別紙参照
(原案可決)

議案第7号 令和4年度宮崎県北部広域行政事務組合
宮崎県北部ふるさと市町村圏事業特別会計予算

要旨 別紙参照
(原案可決)

議案第8号 監査委員の選任

要旨 別紙参照
(原案可決)

以上で、報告を終わります。

【議長 山本 文男】

以上で、諸般の報告を終わります。

【議長 山本 文男】

日程第4 選挙管理委員の選挙を行います。

本選挙については、選挙管理委員及び同補充員の任期満了に伴い行うもので、地

方自治法第182条の規定に基づき行うものです。

【議長 山本 文男】

お諮りします。

選挙の方法については、全員協議会でも確認いただきましたように、地方自治法第118条第2項の規定によって、指名推選にしたいと思います。

これに御異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

異議なしと認めます。

したがって、選挙の方法は指名推選で行うことに決定しました。

【議長 山本 文男】

お諮りします。

指名の方法については、議長が指名することにしたいと思います。

これに御異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

異議なしと認めます。

したがって、議長が指名することに決定しました。

【議長 山本 文男】

選挙管理委員には、
若田孝文さん
今西初子さん
國延明夫さん
稲村恭二さん
以上の方を指名します。

【議長 山本 文男】

お諮りします。

ただいま議長が指名した方を選挙管理委員の当選人と定めることに御異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

異議なしと認めます。

したがって、ただいま指名しました若田孝文さん、今西初子さん、國延明夫さん、稲村恭二さん、以上の方が選挙管理委員に当選されました。

【議長 山本 文男】

ただいま選挙管理委員に当選されました方には、会議規則第33条第2項の規定により、当選の告知をいたします。

【議長 山本 文男】

日程第5 選挙管理委員補充員の選挙を行います。
本選挙については、地方自治法第182条の規定に基づき行うものです。

【議長 山本 文男】

お諮りします。
選挙の方法については、地方自治法第118条第2項の規定によって指名推選にしたいと思っております。
これに御異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

異議なしと認めます。
したがって、選挙の方法は指名推選で行うことに決定しました。

【議長 山本 文男】

お諮りします。
指名の方法については、議長が指名することにしたいと思っております。
これに御異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

異議なしと認めます。
したがって、議長が指名することに決定しました。

【議長 山本 文男】

選挙管理委員補充員には、次の方を指名します。
第1順位 菊田正光さん
第2順位 奈須千之さん
第3順位 野村重光さん
第4順位 林田友藤さん
以上の方を指名します。

【議長 山本 文男】

お諮りします。
ただいま議長が指名しました方を選挙管理委員補充員の当選人と定めることに御異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

異議なしと認めます。

したがいまして、ただいま指名しました

第1順位 菊田正光さん、

第2順位 奈須千之さん、

第3順位 野村重光さん、

第4順位 林田友藤さん

以上の方が、順序のとおり選挙管理委員補充員に当選されました。

【議長 山本 文男】

ただいま選挙管理委員補充員に当選されました方には、会議規則第33条第2項の規定により、当選の告知をいたします。

【議長 山本 文男】

日程第6 報告第2号 債権放棄の報告について。

町長から報告があります。

これを許可します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

皆さん、おはようございます。本日から22日の15日間の日程で令和4年第1回美郷町議会定例会の開催ということで、長丁場になりますが、よろしくお願いを申し上げます。

先ほど、議長が申しましたように2021年産米が日本穀物検定協会の特Aを受賞したということで、2019年、2020年、2021年と3か年間にかけて特Aを受賞したと、本当に喜ばしいことでもあります。本当に農家の皆さんにお礼を言いたいと。

そしてまた、どうかして生産者のために、この米を高く売っていきたいと、そういうふうに思うところでもありますので、皆様方のお知恵をいただきながら頑張りたいと思っております。

また、3月5日が二十四節気の啓蟄という日でありました。心は春めいてきたんですが、議長も言いましたようになかなか、オミクロン株それと北京で冬季パラリンピックの開催中にロシアがウクライナに侵攻というような形の中において、晴れるものがないと。何か人間、ボタンの掛け違いをしてきているような気がしています。

平和を望む全世界の人たちが安全に暮らせるような体系を早く元に戻してほしい、そのように思うところでもあります。

それでは、報告第2号 債権放棄の報告について提案理由を申し上げます。

美郷町国民健康保険南郷診療所の診療負担金2件について、美郷町債権管理条例

第11条第1項の規定により、債権を放棄しましたので、同条第2項の規定により議会へ報告するものであります。

この債権につきましては、令和3年12月20日に開催した美郷町債権管理審査会の審査を経まして、本年1月25日に放棄の手続きをとらせていただきました。債権放棄の根拠につきましては、改正前の民法第170条第1号に基づく時効期間の満了であります。

以上で説明を終わります。

【議長 山本 文男】

以上で、報告第2号の報告を終わります。

【議長 山本 文男】

日程第7 諮問第1号 人権擁護委員候補者の推薦についてを議題とします。
町長より、提案理由の説明を求めます。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

諮問第1号 人権擁護委員候補者の推薦について提案理由を申し上げます。

御承知のとおり、人権擁護委員は国民の基本的な人権が侵害されることのないように監視し、もし、これが侵犯された場合には、その救済のため速やかに適切な処置を採るとともに、常に自由人権思想の普及高揚に努めることをもって、その使命とすることとされております。

現在本町では、4名が人権擁護委員として法務大臣より委嘱されておりますが、このうち2名が令和4年6月末をもちまして任期満了となります。

今回、現委員の北郷在住、岩倉恵子氏の6月末の退任に伴い、その後任として北郷在住、段和利氏を推薦したく提案するものであります。

段氏は、昭和56年6月から旧北郷村職員として勤務されて以来、公正忠実に職務を遂行され、平成31年3月に美郷町役場を退職されました。

段氏は、人格識見高く強い責任感をお持ちであり最適任者として考えますので、人権擁護委員法第6条第3項の規定により議会の意見を求めるものであります。

なお、委員の任期は3年となっております。

以上で説明を終わります。

【議長 山本 文男】

提案理由の説明が終わりました。

これから、質疑を行います。質疑を許します。

質疑はありませんか。

(「なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

質疑なしと認め、これで質疑を終わります。
これから討論を行います。
討論はありませんか。

(「なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

討論なしと認め、これで討論を終わります。

【議長 山本 文男】

お諮りします。
諮問第1号については、お手元に配付した意見のとおり答申したいと思えます。
これに御異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

異議なしと認めます。

したがって、諮問第1号 人権擁護委員候補者の推薦については、お手元に配付した意見のとおり答申することに決定しました。

【議長 山本 文男】

日程第8 諮問第2号 人権擁護委員候補者の推薦についてを議題とします。
町長より、提案理由の説明を求めます。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

諮問第2号 人権擁護委員候補者の推薦について提案理由を申し上げます。

諮問第1号でも申し上げましたが、本町の4名の人権擁護委員のうち2名が令和4年6月末をもちまして任期満了となります。

今回、現委員の西郷在住、平田幾次郎氏の6月末の退任に伴い、その後任として西郷在住、中田広喜氏を推薦したく提案するものであります。

中田氏は、昭和53年4月から旧西郷村職員として勤務されて以来、公正忠実に職務を遂行され、令和2年3月に美郷町役場を退職されました。

中田氏は、人格識見高く強い責任感をお持ちであり最適任者として考えますので、人権擁護委員法第6条第3項の規定により議会の意見を求めるものであります。

なお、委員の任期は3年となっております。

以上で説明を終わります。

【議長 山本 文男】

提案理由の説明が終わりました。
これから、質疑を行います。
質疑を許します。
質疑はありませんか。

(「なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

質疑なしと認め、これで質疑を終わります。
これから討論を行います。
討論はありませんか。

(「なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

討論なしと認め、これで討論を終わります。

【議長 山本 文男】

お諮りします。
諮問第2号については、お手元に配付した意見のとおり答申したいと思います。
これに御異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

異議なしと認めます。
したがって、諮問第2号 人権擁護委員候補者の推薦については、お手元に配付した意見のとおり答申することに決定しました。

【議長 山本 文男】

日程第9 同意第3号 副町長の選任についてを議題とします。

【議長 山本 文男】

ここで、地方自治法第117条の規定によって、藤本 茂副町長の退場を求めます。

(藤本 茂 副町長 退場)

【議長 山本 文男】

ただいま議題となっております同意第3号について、町長より提案理由の説明を求めます。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

同意第3号 副町長の選任について提案理由を申し上げます。

本案は、現副町長である藤本 茂氏の任期が令和4年3月31日をもって満了となるため、再度選任したく、地方自治法第162条の規定により議会の同意を求めらるるものであります。

藤本氏におかれましては、今後も副町長として長年培った行政運営の豊富な経験を生かしながら、美郷町のまちづくりに活躍いただける人材として高い見識を有していると認められることから、引き続き、副町長として任命したいので、御審議の上、御同意いただきますようお願い申し上げます。

なお、任期は令和4年4月1日から令和8年3月31日までの4年間となります。以上で説明を終わります。

【議長 山本 文男】

提案理由の説明が終わりました。

これから、質疑を行います。

質疑を許します。

質疑はありませんか。

(「なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

(「なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

討論なしと認め、これで討論を終わります。

これから同意第3号 副町長の選任について、採決を行います。

この採決は、会議規則第82条第1項の規定及び申し合わせにより、無記名投票で行います。

【議長 山本 文男】

議場の出入口を閉めます。

(議場の出入口を閉める)

【議長 山本 文男】

ただいまの出席議員数は10名であります。

表決の方法としての投票ですので、議長を除く10名で投票を行うこととなりま

す。

【議長 山本 文男】

次に、立会人を指名します。

会議規則第32条第2項の規定により、立会人に9番、甲斐 秀徳議員、10番、川村 嘉彦議員を指名します。

【議長 山本 文男】

投票用紙を配ります。

念のため申し上げます。

本案に賛成の方は「賛成」と、反対の方は「反対」と記載願います。

また、会議規則第84条の規定「白票の取扱い」にありますように、「賛否を表明しない投票」及び「賛否が明らかでない投票」は、「反対」として取り扱いますので、申し添えます。

(投票用紙の配付)

【議長 山本 文男】

投票用紙の配付漏れはありませんか。

(「なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

配付漏れなしと認めます。

投票箱を点検します。

(投票箱の点検)

【議長 山本 文男】

異常なしと認めます。

ただいまから投票を行います。

1番議員から議席順に投票願います。

(投 票)

【議長 山本 文男】

投票漏れはありませんか。

(「なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

投票漏れなしと認めます。

これで、投票を終わります。

【議長 山本 文男】

開票を行います。

9番、甲斐 秀徳議員、10番、川村 嘉彦議員、開票の立ち合いをお願いします。

(開 票)

【議長 山本 文男】

投票の結果を報告します。

投票総数10票、有効投票10票、無効投票ゼロ票。

有効投票のうち

賛成7票

反対3票

【議長 山本 文男】

以上のとおり、賛成が多数です。

したがって、同意第3号 副町長の選任については、原案のとおり同意することに決定しました。

【議長 山本 文男】

ここで、藤本 茂副町長の入場を許します。

(藤本 茂 副町長 入場)

【議長 山本 文男】

日程第10 同意第4号 監査委員の選任についてを議題とします。

本案について、町長より提案理由の説明を求めます。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

同意第4号 監査委員の選任について提案理由を申し上げます。

監査委員は、地方自治法第196条により、人格が高潔で、普通地方公共団体の財務管理、事業の経営管理、その他行政運営に関し、優れた識見を有する者、及び議員を議会の同意を得て選任するものとされております。

現在本町では、2名が監査委員としてその職務に従事されておりますが、このうち識見を有する者として選任されている峰村芳生氏の任期が令和4年3月31日をもって満了となるため、再度選任したく、地方自治法第196条第1項の規定により議会の同意を求めるものであります。

峰村氏は行政経験も豊富であり、地方公共団体の財務管理や行政運営に関して優れた識見を有すると認められ、人格高潔で最適任者であることから、引き続き、監査委員として選任したいので、御審議の上、御同意いただきますようお願い申し上げます。

げます。

なお、委員の任期は、令和4年4月1日から令和8年3月31日までの4年間となります。

以上で説明を終わります。

【議長 山本 文男】

提案理由の説明が終わりました。

これから、質疑を行います。

質疑を許します。

質疑はありませんか。

(「なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

(「なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

討論なしと認め、これで討論を終わります。

【議長 山本 文男】

これから同意第4号 監査委員の選任について採決を行います。

この採決は、会議規則第82条第1項の規定及び申し合わせにより、無記名投票で行います。

【議長 山本 文男】

議場の出入口を閉めます。

(議場の出入口を閉める)

【議長 山本 文男】

ただいまの出席議員数は10名であります。

表決の方法としての投票ですので、議長を除く10名で投票を行うこととなります。

【議長 山本 文男】

次に、立会人を指名します。

会議規則第32条第2項の規定により、立会人に1番、若杉 伸児議員、2番、早川 節夫議員を指名します。

【議長 山本 文男】

投票用紙を配ります。

念のため申し上げます。

本案に賛成の方は「賛成」と、反対の方は「反対」と記載願います。

また、会議規則第84条の規定「白票の取扱い」にありますように、「賛否を表明しない投票」及び「賛否が明らかでない投票」は、「反対」として取り扱いますので、申し添えます。

(投票用紙の配付)

【議長 山本 文男】

投票用紙の配付漏れはありませんか。

(「なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

配付漏れなしと認めます。

投票箱を点検します。

(投票箱の点検)

【議長 山本 文男】

異常なしと認めます。

ただいまから投票を行います。

1番議員から議席順に投票願います。

(投 票)

【議長 山本 文男】

投票漏れはありませんか。

(「なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

投票漏れなしと認めます。

これで、投票を終わります。

【議長 山本 文男】

開票を行います。

1番、若杉 伸児議員、2番、早川 節夫議員、開票の立ち合いをお願いします。

(開 票)

【議長 山本 文男】

投票の結果を報告します。

投票総数10票、有効投票10票、無効投票ゼロ票。

有効投票のうち

賛成票 10 票
反対票ゼロ票

【議長 山本 文男】

以上のとおり、全員が賛成です。

したがいまして、同意第 4 号 監査委員の選任については、原案のとおり同意することに決定しました。

【議長 山本 文男】

議場の出入口を開きます。

【議長 山本 文男】

日程第 1 1 議案第 2 号 公の施設の指定管理者の指定について（田代保育所）
日程第 1 2 議案第 3 号 公の施設の指定管理者の指定について（うなま保育所）
日程第 1 3 議案第 4 号 公の施設の指定管理者の指定について（みかど保育所）

【議長 山本 文男】

以上 3 件を議題とします。

本案について、町長より提案理由の説明を求めます。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

それでは議案第 2 号、議案第 3 号及び議案第 4 号の公の施設の指定管理者の指定については関連がありますので、一括して提案理由を申し上げます。

現在、美郷町立田代保育所、うなま保育所及びみかど保育所は、社会福祉法人 美郷町社会福祉協議会が指定管理者として管理運営を行っております。

指定期間が本年 3 月 31 日までとなっていることから、昨年 11 月に次期 3 か年度の指定管理候補者を公募したところ、3 保育所について、社会福祉法人 美郷町社会福祉協議会から申請がございました。

これを受け、昨年 12 月 16 日に指定管理候補者選定委員会を開催して審査を行い、議案書のとおり同協議会を候補者に選定しましたので、地方自治法第 244 条の 2 第 6 項の規定により、本案を提案するものであります。

以上で説明を終わります。

【議長 山本 文男】

町長の提案理由の説明が終わりました。

この件につきましては、第 4 日目の 3 月 11 日に総括質疑を行います。

【議長 山本 文男】

日程第 1 4 議案第 5 号 公の施設の指定管理者の指定について（南郷歯科診療

所)を議題とします。

本案について、町長より提案理由の説明を求めます。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

続きまして、議案第5号 公の施設の指定管理者の指定について提案理由を申し上げます。

現在、南郷歯科診療所におきましては、美郷町南郷歯科保健協会を指定管理者として委託し管理を行っておりますが、指定管理者の管理期間が令和4年3月31日をもって終了することから、このたび公募を行ったところ美郷町南郷歯科保健協会より申請がございました。

その後、指定管理候補者選定委員会による審査を経て、美郷町南郷歯科保健協会を指定管理候補者として選定致しましたので、地方自治法第244条の2第6項の規定により議会の議決を求めるものであります。

なお、指定期間は令和4年4月1日から令和7年3月31日までの3か年間であります。

以上で説明を終わります。

【議長 山本 文男】

町長の提案理由の説明が終わりました。

この件につきましては、第4日目の3月11日に総括質疑を行います。

【議長 山本 文男】

日程第15 議案第6号 公の施設の指定管理者の指定について（地蔵の里）

日程第16 議案第7号 公の施設の指定管理者の指定について（北の郷）

【議長 山本 文男】

以上2件を議題とします。

本案について、町長より提案理由の説明を求めます。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

それでは議案第6号及び議案第7号の公の施設の指定管理者の指定については、関連がありますので、一括して提案理由を申し上げます。

売店「地蔵の里」及び美郷町北郷農産物処理加工施設「北の郷」は、地域特産品

等を消費者に提供し、ニーズの把握等により農林業の活性化と観光の振興を図ることを目的として設置しており、指定管理者による管理運営を行っております。

なお、美郷町北郷農産物処理加工施設「北の郷」においては、農産物を加工販売することにより、付加価値を高め、農林家の所得向上に寄与するという目的も持っております。

その指定管理期間が、本年3月31日に満了を迎えることから、売店「地蔵の里」及び美郷町北郷農産物処理加工施設「北の郷」の管理及び運営について、リバースいすず合同会社を指定管理者として指定したいので、地方自治法第244条の2第6項の規定により議会の議決を求めるものであります。

なお、いずれの指定期間も、原則として令和4年4月1日から令和7年3月31日までの3か年間としますが、今後の指定管理者の動向や民間等の新たな指定先の検討も含めて単年度ごとに指定先の見直しを図ってまいります。

以上で説明を終わります。

【議長 山本 文男】

町長の提案理由の説明が終わりました。

この件につきましては、第4日目の3月11日に総括質疑を行います。

【議長 山本 文男】

日程第17 議案第8号 小黒木辺地総合整備計画の策定についてを議題とします。

本案について、町長より提案理由の説明を求めます。

【町長 田中 秀俊】

議案第8号 小黒木辺地総合整備計画の策定について提案理由を申し上げます。

交通条件や経済・文化的条件により一定の要件を満たす辺地において、公共施設等を整備する場合は、財政上の優遇措置が講じられることとなっています。

小黒木辺地に係る総合整備計画については、令和3年度末をもって計画期間が終了しますが、令和4年度以降も引き続き町道小黒木・山口線の改良整備を行うこととしており、新たに小黒木辺地に係る総合整備計画を策定する必要がありますので、辺地に係る公共的施設の総合整備のための財政上の特別措置等に関する法律第3条の規定により、議会の議決を求めるものであります。

以上で説明を終わります。

【議長 山本 文男】

町長の提案理由の説明が終わりました。

この件につきましては、第4日目の3月11日に総括質疑を行います。

【議長 山本 文男】

日程第18 議案第9号 第2次美郷町総合計画後期基本計画の策定についてを議題とします。

本案について、町長より提案理由の説明を求めます。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議案第9号 第2次美郷町総合計画後期基本計画の策定について提案理由を申し上げます。

第2次美郷町総合計画は、平成29年度から令和8年度までの10年間の基本構想と前・後期各5年間の基本計画から構成されており、令和3年度末をもって前期基本計画が終了することから、令和4年度からの後期基本計画を策定するために、美郷町総合計画策定条例第4条の規定により、議会の議決を求めるものであります。

以上で説明を終わります。

【議長 山本 文男】

町長の提案理由の説明が終わりました。

この件につきましては、第4日目の3月11日に総括質疑を行います。

【議長 山本 文男】

ここで、休憩とします。

11時10分から再開します。

(休憩：午前10時59分)

(再開：午前11時07分)

【議長 山本 文男】

休憩前に引き続き、会議を再開します。

【議長 山本 文男】

日程第19 議案第10号 町道路線の認定について

日程第20 議案第11号 町道路線の廃止について

日程第21 議案第12号 町道路線の認定について

【議長 山本 文男】

以上3件についてを議題とします。

本案について、町長より提案理由の説明を求めます。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

それでは、議案第10号 町道路線の認定について、提案理由を申し上げます。

本路線につきましては、地区住民の意向を受け、詳細調査を行った結果、町道の路線認定基準に関する規定第2条第1項第1号の「起点及び終点が町道に連結していること」に該当するため、道路法第8条第2項の規定に基づきまして、議会の議決を求めるものであります。なお、説明申し上げました路線につきましては、資料を添付してございますので、御参照ください。

議案第11号 町道路線の廃止について及び、議案第12号 町道路線の認定については関連がございますので、一括して提案理由を申し上げます。

町道下秋元線につきましては、町道下角・秋元線の道路改良工事が行われた際、重複して町道認定がなされたままとなっているため廃止したく、道路法第10条第3項の規定に基づきまして、議会の議決を求めるものであります。

また、町道下角・秋元線の改良工事の際、旧道が町道として認定されていなかったため、道路法第8条第2項に基づき、町道サレノツカ・長田線として認定するものです。なお、説明申し上げました路線につきましては、資料を添付してございますので、御参照ください。

以上で説明を終わります。

【議長 山本 文男】

町長の提案理由の説明が終わりました。

この件につきましては、第4日目の3月11日に質疑・討論・採決を行います。

【議長 山本 文男】

日程第22 議案第13号 工事請負契約の締結についてを議題とします。

本案について、町長より提案理由の説明を求めます。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議案第13号 工事請負契約の締結について提案理由を申し上げます。

この契約は、令和3年度3年災（8月豪雨災1号箇所）奥地林道空野・五郎ヶ峠線災害復旧工事であります。

去る2月15日、町内Aクラス7業者により指名競争入札を行った結果、議案書のとおり、株式会社 南郷開発 代表取締役 岩田進一と6,241万4,000円で工事請負契約を締結するものであります。

以上、今回発注いたしました工事につきましては、予定価格が5,000万円以上でありますので、地方自治法第96条第1項第5号及び美郷町議会の議決に付すべき契約及び財産の取得または処分に関する条例第2条の規定により、議会の議決を求めるものであります。

以上で説明を終わります。

【議長 山本 文男】

町長の提案理由の説明が終わりました。

この件につきましては、第4日目の3月11日に質疑・討論・採決を行います。

【議長 山本 文男】

日程第23 議案第14号 美郷町移住定住促進空き家活用住宅の管理に関する条例についてを議題とします。

本案について、町長より提案理由の説明を求めます。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議案第14号 美郷町移住定住促進空き家活用住宅の管理に関する条例の制定について提案理由を申し上げます。

この条例は、町内の空き家を活用し移住定住を促進することで、空き家の荒廃を防ぎ、また、人口増加を図ることを目的として制定するものです。

内容としましては、町が空き家の所有者から10年間を基本として無償で借り受けますが、この間の当該空き家にかかる固定資産税は減免といたします。

所有者より借り受けた空き家に対しましては、国及び県の補助金等により町が改修を実施し、比較的安い家賃で移住希望者等に賃貸するもので、改修の費用は、所有者の方の負担はございません。

また、所有者との賃貸期間10年を満了した家屋については、そのまま所有者にお返しするものであります。

以上で説明を終わります。

【議長 山本 文男】

町長の提案理由の説明が終わりました。

この件につきましては、第4日目の3月11日に総括質疑を行います。

【議長 山本 文男】

日程第24 議案第15号 美郷町過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法の適用に伴う固定資産税の課税免除に関する条例についてを議題とします。

本案について、町長より提案理由の説明を求めます。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議案第15号 美郷町過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法の適用に伴う固定資産税の課税免除に関する条例について提案理由を申し上げます。

過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法に基づいた過疎地域の支援制度の一つとして、地方税の減収補填措置があり、一定の事業用資産を取得した製造業、旅館業、農林水産物等販売業及び情報サービス業等に対して、条例に基づいて課税免除を行った場合、地方税の減収の75%が普通交付税で補填されるものであります。

これを受け、本町における設備投資や企業立地を促進し地域産業の振興を図るため、固定資産税の課税免除に関する条例を制定するものであります。

以上で説明を終わります。

【議長 山本 文男】

町長の提案理由の説明が終わりました。

この件につきましては、第4日目の3月11日に総括質疑を行います。

【議長 山本 文男】

日程第25 議案第16号 職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について、町長より提案理由の説明を求めます。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議案第16号 職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例について提案理由を申し上げます。

これまでの西郷病院の夜勤体制につきましては、当直医師1名と看護師3名でありましたが、令和4年度より当直医師1名と看護師2名及びオンコール看護師1名の夜勤体制にするものです。

これにより、特殊勤務手当に関する条例 別表（第3条関係）6看護手当を改正するものであります。

オンコールとは看護師が自宅及び所定の待機所に待機いただき、呼び出しがあった場合は出勤し、看護業務を行うことであります。

今回の改正はコンサルの調査によるもので、西郷病院は平均入院患者数は20名であり、その場合の夜勤看護師数は2名とし、1名は救急業務や外来患者の対応に限定したオンコール看護師1名が適切との指摘がありました。

また、オンコールを病棟看護師だけでなく外来看護師も含めた全看護師で実施することで、看護師の夜勤の負担軽減や経費節減を行います。

主な変更点につきましては、全看護師でオンコールを行いますので、「病棟に勤務する職員」を削除いたします。

また、1ページ下段から次ページにつきましては、正規の勤務時間以外の看護手当につきまして詳細に明記しました。

2のアにつきましては、「救急患者等に対処するため待機を依頼された場合」は、行動が拘束されることから、自宅待機が1,000円、指定された待機所での待機

の場合、1, 500円としました。

2のイにつきましては、「現に呼び出しを受け救急医療等に従事した場合」は、これまでは1時間以上勤務したときのみ、診療時間にかかわらず1, 240円としていましたが、コンサルや実際に勤務する看護師と協議し、深夜を除く時間帯では、1回につき1, 240円とし、1時間を超える場合は、1時間ごとに500円を追加することとしました。

また看護手当の上限ですが、現在午後5時から翌日の午後8時15分までに看護師は夜勤として勤務していますが、その場合1のアの深夜の全部を含む勤務であるので、一人当たり7, 300円を支給しています。まれですが、オンコールが3回を超える場合は、それを超える場合がありますので、7, 300円を上限としました。この単価については、コンサルが調査を行い平均的な単価を使用し、全看護師と協議を行い決定したところです。

これにより、時間外の救急や外来患者は1か月約10日から15日でありますが、年間約80万円から60万円の経費削減が見込まれます。

以上で、説明を終わります。

【議長 山本 文男】

町長の提案理由の説明が終わりました。

この件につきましては、第4日目の3月11日に総括質疑を行います。

【議長 山本 文男】

日程第26	議案第17号	美郷町議会の議員の報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正する条例
日程第27	議案第18号	町長等の給料及び旅費に関する条例の一部を改正する条例
日程第28	議案第19号	一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例
日程第29	議案第20号	美郷町第1号会計年度任用職員の報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例

【議長 山本 文男】

以上4件についてを議題とします。

本案について、町長より提案理由の説明を求めます。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議案第17号 美郷町議会の議員の報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正する条例、議案第18号 町長等の給料及び旅費に関する条例の一部を改正する条例、議案第19号 一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例、議案第20号 美郷町第1号会計年度任用職員の報酬、期末手当及び費用弁

償に関する条例の一部を改正する条例について、関連がございますので、一括して提案理由を申し上げます。

議案第17号及び議案第18号につきましては、特別職の職員の給与に関する法律の一部を改正する法律に基づいて期末手当の改定を行うものであります。

令和4年6月の期末手当から0.05月分の引き下げを行い、6月と12月の支給割合をそれぞれ1.625月に改定します。これにより、期末手当の年間総支給月数は3.35月分から3.25月分となります。

次に、議案第19号及び第20号につきましては、人事院の勧告に基づいて、期末手当の支給割合の改定を行うものであります。

また、会計年度任用職員につきましても、一般職に準じて規定してありますので、同様の改定を行うものであります。

一般職の期末手当の改定であります。民間の支給割合を考慮し、令和4年6月の期末手当から0.075月分の引き下げを行い、6月と12月の支給割合をそれぞれ1.2月に改定します。これにより、期末手当の年間総支給月数は2.55月分から2.4月分となります。

なお、会計年度任用職員は、一般職と同様の支給割合となりますが、再任用職員については、令和4年6月の期末手当から0.05月分の引き下げを行い、6月と12月の支給割合をそれぞれ0.675月に改定します。これにより、期末手当の年間総支給月数は1.45月分から1.35月分となります。

以上、申し上げましたように、令和3年8月の人事院勧告どおり、期末手当の支給月数を引き下げることとなりますが、令和3年度の引下げに相当する額については、令和4年6月の期末手当から減額することで調整を行うこととされております。

その調整額につきましては、令和3年12月に支給された期末手当の額に職員の区分に応じた割合を乗じて得た額となります。

以上で説明を終わります。

【議長 山本 文男】

町長の提案理由の説明が終わりました。

この件につきましては、第4日目の3月11日に総括質疑を行います。

【議長 山本 文男】

日程第30 議案第21号 令和3年度美郷町一般会計補正予算（第11号）を議題とします。

本案について、町長より提案理由の説明を求めます。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議案第21号 令和3年度美郷町一般会計補正予算（第11号）について提案理由を申し上げます。

今回の補正は、歳入歳出予算の総額から、それぞれ5,751万1,000円を

減額し、歳入歳出予算の総額を、それぞれ87億7,294万3,000円とするものであります。

主な補正の内容につきまして歳入から説明いたします。

初めに町税に1,437万8,000円を追加しました。固定資産税1,441万7,000円、市町村たばこ税277万5,000円の増額が主な理由です。

次に、地方譲与税に1,017万5,000円を追加しました。自動車重量譲与税に982万5,000円を追加、森林環境譲与税に35万円を追加しました。いずれも交付額の見込みによる補正であります。

法人事業税交付金に293万7,000円を追加しました。

次に、地方消費税交付金に3,724万5,000円を追加しました。地方消費税交付金のうち社会保障費分3,199万2,000円の増額が主な理由です。

地方交付税に1億1,638万円3,000円を追加しました。これは、国の第1次補正予算において国の歳出予算の増額による調整額の復活に伴い追加交付が決定されたものです。

次に、国庫支出金に7,789万8,000円を追加しました。これは衛生費国庫負担金のうち新型コロナウイルスワクチン接種対策等国庫負担金1,732万3,000円の追加、総務費国庫補助金のうち新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金4,541万1,000円の追加が主な理由です。

次に、県支出金に3,322万5,000円を追加しました。

各費目とも事業費の確定見込額による補正が主な要因ですが、うち林道施設災害復旧事業補助金3,299万5,000円の追加が主な理由です。農林水産業費県補助金のうち地籍調査費補助金については、国の第1次補正予算により795万6,000円の追加交付が決定されたものであります。

次に、基金繰入金から2億3,054万7,000円を減額しました。歳出全般の減額や、ふるさと応援基金繰入金の充当により、財政調整基金繰入金を減額したことが主な理由です。

最後に、町債から1億3,660万円を減額しました。事業費の確定見込みに伴う補正であります。

続いて、歳出について御説明いたします。

歳出につきましては、経常的経費及び各事業の見込額の確定による補正が中心であります。

初めに、議会費から296万9,000円を減額しました。議会活動費の不用額更正であります。

次に、総務費から全体で4,180万6,000円を減額しました。主なものとしては、一般管理費の職員人件費570万円の減額、企画費の地域おこし協力隊に係る地域おこし活動費316万8,000円の減額、ふるさと納税推進費1,124万円の減額、CATVセンター運営費438万1,000円の減額などであり、その他の項でも、経常的な経費の不用額更正等により減額となっております。

次に、民生費から2,362万2,000円を減額しました。児童福祉施設費の児童福祉施設管理運営費1,708万9,000円の減額などであり、その他の経費につきましても全般的に減額となりました。

次に、衛生費から970万5,000円を減額しました。保健衛生総務費の救急医療対策費140万3,000円の減額、一般職員人件費160万2,000円の減額、予防費の各種検診委託料175万3,000円の減額、各種予防接種委託料234万3,000円の減額などが主な理由であります。

次に、農林水産業費から5,546万6,000円を減額しました。農業振興費で2,701万1,000円の減額、農地費から637万9,000円の減額など、農業費全体で3,036万3,000円を減額しました。

林業振興費から1,248万1,000円の減額、林道整備費から1,135万4,000円の減額など、林業費全体で2,404万3,000円の減額とし、不用額の更正を行っております。

次に、商工費から2,943万4,000円を減額しました。商工振興費の感染症対策休業要請協力金1,083万円の減額、商工業振興資金貸付金500万円の減額、観光振興費の南郷温泉源泉ポンプ購入費550万円の減額、鉱害処理費の速日鉱山施設管理費189万5,000円の減額などが主な理由であります。

次に、土木費から1,518万8,000円減額しました。これは、河川砂防費の急傾斜地崩壊対策費572万6,000円の減額、自然災害防止急傾斜地崩壊対策事業850万円の減額などが主な理由です。

次に、消防費から130万4,000円を減額しました。非常備消防費52万4,000円の減額、防災無線施設費の防災無線施設管理費43万円の減額が主な理由であります。

次に、教育費から1,469万6,000円を減額しました。事務局費の特別職及び一般職員人件費126万円、幼稚園費の幼稚園教員人件費67万円、会計年度任用職員人件費270万円など人件費の減額に加え、コロナ禍の影響による社会教育総務費の国民文化祭実行委員会補助金121万円、保健体育総務費のロードレースイン百済の里補助金などスポーツ振興経費180万3,000円、体育施設費の社会体育施設管理費118万7,000円の減額などが主な理由であります。

次に、災害復旧費から4,077万9,000円を減額しました。事業費の確定見込みによる不用額更正であります。

次に、公債費から、元金及び利子合わせて1,300万円を減額しました。

最後に、諸支出金に1億9,045万8,000円を追加しました。特別会計繰出金のうち、国民健康保険特別会計繰出金から99万3,000円の減額、介護保険事業特別会計繰出金132万8,000円の減額、後期高齢者医療特別会計繰出金380万9,000円の減額がありましたが、歳入でありました普通交付税の追加交付分の一部を減債基金積立金へ4,174万4,000円追加、今後の公共施設等の大規模補修・改修に備えるために公共施設等整備基金積立金へ1億5,260万円を追加しました。

また、繰越明許費は第2表にあるとおりです。

コロナ禍により労務者や資材等の手配に不測の日数を要したことが事業の進捗に影響したことや、国の第1次補正予算に伴い、国からの追加配分が示されたことが主な繰越理由であります。

債務負担行為の補正については、第3表のとおりであります。

町では、町内の商工業者が近代化を推進するために、商工会を經由して設備投資に係る資金を政府系金融機関より融資を受けた場合に利子補給を行うこととしており、令和3年度から令和8年度にかけての利子に対する補助金19万9,000円を限度額とする債務負担行為を補正するものであります。

地方債の補正につきましては、第4表のとおりであります。

今回の補正により、令和3年度の一般会計予算の総額は、歳入歳出それぞれ87億7,294万3,000円となりました。

以上で説明を終わります。

【議長 山本 文男】

町長の提案理由の説明が終わりました。

この件につきましては、第4日目の3月11日に質疑・討論・採決を行います。

【議長 山本 文男】

日程第31	議案第22号	令和3年度美郷町国民健康保険事業特別会計
補正予算（第4号）
日程第32	議案第23号	令和3年度美郷町介護保険事業特別会計
補正予算（第3号）
日程第33	議案第24号	令和3年度美郷町後期高齢者医療事業特別会計
補正予算（第2号）
日程第34	議案第25号	令和3年度美郷町簡易水道事業特別会計
補正予算（第4号）
日程第35	議案第26号	令和3年度美郷町農業集落排水事業特別会計
補正予算（第4号）
日程第36	議案第27号	令和3年度美郷町国民健康保険診療所事業特別会計
補正予算（第4号）
日程第37	議案第28号	令和3年度美郷町国民健康保険病院事業会計
補正予算（第5号）

【議長 山本 文男】

お諮りします。

議案第22号から議案第28号までの7件を一括議題にしたいと思います。

これに御異議ございませんか。

（ 「異議なし」との声あり ）

【議長 山本 文男】

異議なしと認めます。

したがって、7件を一括議題とすることに決定しました。

7件につきまして、順次、町長より提案理由の説明を求めます。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議案第22号 令和3年度美郷町国民健康保険事業特別会計補正予算（第4号）
について、提案理由を申し上げます。

今回の補正は、歳入歳出から、それぞれ118万4,000円を減額し、歳入歳
出予算の総額を歳入歳出それぞれ10億6,253万円とするものであります。

まず、歳入予算につきましては、国庫支出金に42万8,000円を追加してお

ります。これは、新型コロナウイルス感染症の影響により収入が減少した被保険者への国民健康保険税の減免措置に対する国からの財政支援である災害等臨時特例補助金として、追加するものでございます。

続いて、県支出金及び繰入金につきましては、特定健康診査等負担金や保険基盤安定繰入金などの算定額に応じて、それぞれ補正するものでございます。

次に、歳出予算につきましては、レセプト審査手数料や会計年度任用職員の報酬など、現予算の執行状況により、それぞれ減額補正するのが主なものでございます。

以上で説明を終わります。

続きまして、議案第23号 令和3年度美郷町介護保険事業特別会計補正予算(第3号)について提案理由を申し上げます。

今回の補正は、歳入歳出予算の総額から、歳入歳出それぞれ3,872万6,000円を減額し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ10億5,357万4,000円とするものです。

今回の補正の主な理由は、令和3年度における各サービスの支出状況を踏まえて年度末までの歳入歳出見込みにより過不足を調整するものです。

補正の主な内容は、歳出につきましては、保険給付費及び地域支援事業費として年度末までの各サービス費の過不足を調整した結果、当初のサービス見込量より大幅に減少したため、総額で800万円減額いたしました。

歳入につきましては、令和3年度交付決定に伴い国庫支出金については1,495万5,000円の増額、支払基金交付金については4,384万円の減額、県支出金は71万3,000円を減額いたしました。年度末までの歳入歳出見込みを踏まえ、財政安定化基金からの貸付を受けないことから800万円を減額しました。

以上で説明を終わります。

続きまして、議案第24号 令和3年度美郷町後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第2号)について提案理由を申し上げます。

今回の補正は、歳入歳出の総額から歳入歳出それぞれ380万9,000円を減額し、予算の総額を歳入歳出それぞれ2億3,442万2,000円とするものです。

補正の主な理由は、年度末を迎え宮崎県後期高齢者医療広域連合への各種負担金が決定したため、予算額を調整するものであります。補正の主な内容は、歳出において広域連合納付金を380万9,000円減額するものであります。

歳入におきましては、一般会計繰出金を380万9,000円減額し、受託事業実績見込みによる財源構成を行いました。

以上で説明を終わります。

続きまして、議案第25号 令和3年度美郷町簡易水道事業特別会計補正予算(第4号)について提案理由を申し上げます。

今回の補正は、歳入歳出予算の総額から、歳入歳出それぞれ397万円を減額し、歳入歳出それぞれ1億4,719万7,000円とするものであります。

歳入につきましては、現年度使用料から370万5,000円と一般会計繰入金から26万5,000円それぞれ減額しました。

歳出につきましては、水道水質検査料の入札執行残330万円と、施設電気料70万円をそれぞれ減額し、庁用車燃料費に3万円を追加しました。

以上で説明を終わります。

議案第26号 令和3年度美郷町農業集落排水事業特別会計補正予算(第4号)について提案理由を申し上げます。

今回の補正は、歳入歳出予算の総額から、歳入歳出それぞれ70万円を減額し、歳入歳出それぞれ9,866万4,000円とするものであります。

歳入につきましては、現年度使用料から203万円を減額し一般会計繰入金を133万円追加しております。

歳出につきましては、需用費から30万円、委託料から10万円、工事請負費から30万円をそれぞれ減額しております。

以上で説明を終わります。

議案第27号 令和3年度国民健康保険診療所事業特別会計補正予算（第4号）について提案理由を申し上げます。

今回の補正は、歳入歳出予算の総額に、歳入歳出それぞれ18万円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ1億8,835万6,000円とするものであります。

歳出補正の主なものは、地域包括医療局内の人事異動に伴う一般職員人件費18万円の増額であります。

歳入補正の主なものは、一般職員人件費の増額に伴う一般会計繰入金18万円の増額であります。

以上で説明を終わります。

続きまして、議案第28号 令和3年度美郷町国民健康保険病院事業会計補正予算（第5号）について提案理由を申し上げます。

今回の補正は、資本的支出につきまして、11万1,000円減額するものであります。

資本的支出の11万1,000円の減額につきましては、医師研修医住宅改修工事の入札において、事業費が確定したことに伴う減額として12万1,000円、企業債償還金の元金における増額として1万円の増額であります。

以上で説明を終わります。

【議長 山本 文男】

町長の提案理由の説明が終わりました。

この件につきましては、第4日目の3月11日に質疑・討論・採決を行います。

【議長 山本 文男】

ここで、休憩とします。

13時に再開します。

(休憩：午前11時43分)

(再開：午後12時55分)

【議長 山本 文男】

休憩前に引き続き、会議を再開します。

【議長 山本 文男】

日程第38 議案第29号 令和4年度美郷町一般会計予算

日程第39 議案第30号 令和4年度美郷町国民健康保険事業特別会計予算

日程第40 議案第31号 令和4年度美郷町介護保険事業特別会計予算

日程第4-1	議案第3-2号	令和4年度美郷町後期高齢者医療事業特別会計予算
日程第4-2	議案第3-3号	令和4年度美郷町簡易水道事業特別会計予算
日程第4-3	議案第3-4号	令和4年度美郷町農業集落排水事業特別会計予算
日程第4-4	議案第3-5号	令和4年度美郷町国民健康保険診療所事業特別会計予算
日程第4-5	議案第3-6号	令和4年度美郷町国民健康保険病院事業会計予算

【議長 山本 文男】

お諮りします。

議案第29号から議案第36号までの8件を一括議題にしたいと思います。

これに御異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

異議なしと認めます。

したがって、8件を一括議題とすることに決定しました。

8件につきまして、町長より提案理由の説明を求めます。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

今回、令和4年度の美郷町施政方針ということで、説明をさせていただきます。

ちょっと長丁場になりますので、マスクを外して説明していいかなと。といいますが、ずっと話してると何か息苦しくなってくるということがありますので、申し訳ございませんが、マスクを外して説明させていただきます。

本日、令和4年第1回美郷町議会定例会の開会に当たり町政運営に臨む私の初心と主要施策の概要を申し上げ、町民の皆様並びに議員各位の御理解と御協力を賜りたいと思います。

本町は、急速な少子高齢化や人口減少の進行により、後継者・担い手不足による農林業や商工業の衰退など多くの課題が山積しております。併せて、「新たな日常」への社会の構築が加速する中で、ウィズコロナ、アフターコロナの社会では、これまでの経験を生かした広い視点と現場感覚を併せ持った自治体経営が求められる中であって、本年2月に執行されました美郷町長選挙において、町民の皆様への御信任を賜り、引き続き町政を担わせていただくことになりました。

改めて「すべては町民のために」の下、厳しい財政状況ではありますが気候変動による災害対応や世界的に感染拡大している新型コロナウイルス感染症など、直面する課題と向き合い、将来を見据えた行政運営に全力で取り組んでまいりたいと思います。

また、私の政治信条であります『町民とつくる対話と協働の町政』『信義誠実で透明性のある町政』『スピード感のある町政』を基本理念に、

- ①町民目線のまちづくり
- ②持続可能なものづくり
- ③思いやりのあるまちづくり
- ④人財づくり
- ⑤住みたいまちづくり

以上の5点を目指す政策として、私に託された役割と責任をしっかりと果たしていく所存でございます。

国においては、令和3年12月3日に閣議決定された令和4年度予算編成の基本方針では、先行き不透明な中、喫緊かつ最優先の課題である新型コロナウイルス感染症対応に万全を期し、「成長と分配の好循環」と「コロナ後の新しい社会の開拓」をコンセプトとした新しい資本主義を実現すべく精力的に取り組んでいくこととされています。

令和4年度予算編成に向けては、「経済財政運営と改革の基本方針 2021」における令和4年度予算編成に向けた考え方に基づいて、新型コロナウイルス感染症の克服に向け、国民を守る医療提供体制や検査態勢の確保、変異株を含む新たなリスクに対する万全の備えのためのワクチン・治療薬等の研究開発、雇用・事業・生活に対する支援等を推進し、また、「コロナ後の新しい社会」を見据え、成長と分配の好循環を実現するため、各地の災害からの復興・創生や防災・減災、国土強靱化等に対応する。

併せて、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえつつ、いわゆる「16か月予算」の考え方で、令和3年度補正予算と令和4年度当初予算を一体としてメリ張りの効いた予算編成としています。

その中で、国の令和4年度一般会計総額は、高齢化に伴って年金や医療といった「社会保障費」が大幅に膨らみ、今年度より4,393億円増加して3兆6,735億円となったことや、新型コロナウイルス感染症への対応として「予備費」を5兆円を計上したことにより、今年度当初予算を9,867億円上回って1兆7兆5,964億円となり10年連続で過去最大となりました。

歳入では、日本経済が苦境に陥ってる中、コロナ禍からの景気回復で企業業績が上向き、法人税や所得税などの税収を見込み6兆5,350億円となり7兆7,870億円増加しています。

新規国債の発行額は、歳入不足を補うための赤字国債が3兆6,750億円、建設国債が6兆2,510億円、合わせて3兆9,260億円に上りますが、税収が増加したことに伴い6兆6,710億円減少しています。

歳入全体に占める国債の割合は34.4%となります。

歳出では、社会保障費が今年度の当初予算より4,393億円増えて3兆6,735億円と過去最大となり歳出の33.8%を占めています。

地方財政対策においては、新型コロナウイルス感染症の影響により地方税等が大幅な減収となる中、地方公共団体が行政サービスを安定的に提供しつつ、防災、減災、国土強靱化の推進などの重要課題に取り組めるよう、地方税、地方交付税等の一般財源総額は2兆3億増（微増）の6兆2兆1兆35億円を確保しています。

その中で、まち・ひと・しごと創生事業費(地方創生関連予算)については、引き続き1兆円が確保されています。

また、一方で地方交付税については、3.5%増の1兆8兆5兆38億円となりました。

さて、美郷町では令和2年3月に「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を

策定しました。これは、行政、町民、地域、団体、企業など町全体で、人口減少という最大の課題に取り組むものであります。

その中で「子育て支援」「地域づくり」「しごとづくり」「移住・定住支援」を軸として、令和4年度にかけて、各地域において地域の課題と対策を考えていただき「美郷町地区別定住戦略」を策定し実践していただきます。これが本町の将来のためには不可欠であり、世界的な社会の目標であるSDGsを考え方として捉えながらの事業展開が必要になると確信しております。

また、令和3年度に策定された「第2次美郷町総合計画後期基本計画」及び「美郷町過疎地域持続的発展計画」を着実に推進していくために、計画の進行管理を適切に実施するとともに、計画を町民共有の指針として、様々な機会や手段を通じて、町民にわかりやすく計画の趣旨や内容を積極的に周知し、町民、企業、行政などのあらゆる主体間による協働のまちづくりを推進します。

コロナ禍で社会が今までと異なった流れになるかもしれません。このことを逆に好機と捉え、次の世代にとってスリムで無駄のない美郷町の構築が必要です。

依然として国及び地方を取り巻く課題は山積していますが、積み残した課題を一つ一つ丁寧に取り組み解決を図ることが大事であります。コロナ禍の中で町民の皆様との双方向のコミュニケーションが従前より困難になっており、その声を反映するためには創意工夫と想像力も要する状況となっておりますが、これからも町民の皆様との「対話と交流」を実践し、町民の皆様「声」を意思決定や政策遂行に反映させることを常に意識し町政を運営していきます。

私たちの町は、人口の半分以上を高齢者が占めています。一人一人が安心して暮らせる環境づくりが重要であります。そのためにも高齢者の知恵や経験を生かした経済活動や6次産業化の推進を基盤に、町全体の交通体系や情報網の充実を図り、福祉・介護・医療の連携による生活丸ごとの支援体制、また、まち全体で子供と子育てを支えていくという価値観を広げるとともに、切れ目ない支援体制の強化や教育環境の整備などを充実させなければなりません。そして「誰一人取り残さない」温かい地域づくりを進めてまいります。

今後も「対話と協働」を基本姿勢とし、町と議会と町民とが心の絆をしっかりと結び、田舎の原風景を守りながら、お互いが支えあう地域づくりを目指して精進していくことで美郷町はきっと良くなると確信しています。この予算は、骨格予算ではなく、肉づけも含めた当初予算として提案をしていきます。

以下、主な施策につきまして、その概要を御説明申し上げます。

1. 農林業の振興

本町の基幹産業である農林業の振興は最重要課題であり、重点的に取り組んでまいります。特に地方創生の柱でもある農林業の担い手の確保と育成対策の充実を図り、農林業の振興と地域活性化を推進します。

①日本型直接支払制度、農業人材力強化総合支援事業等、国、県の農業政策を有効活用し、農家の経営安定を図るとともに、担い手の育成強化を推進することにより、新規就農者の確保を図り、農業生産活動が継続できる体制づくりに努めます。

なお、農業生産活動が継続できる体制づくりについては、農作業受託組織や集落営農組織の支援を図りながら、町の役割を整理してまいります。

②美郷町総合計画に定めた作物を中心とした生産目標達成に向け、生産組織等の強化育成を支援し、栽培面積の維持、拡大・栽培技術の向上を図ります。

③耕畜連携を推進するとともに、畜産農家や関係機関と連携を図り、増頭対策並びに、防疫対策を推進します。

また、飼料用米等の推進により遊休農地化を抑制します。

④森林整備計画に基づき、森林整備や素材生産の振興を図ります。

また、森林経営管理法に基づく、森林所有者への意向調査を行います。

さらに、経営計画を実行するために素材生産事業体の強化、施業従事者となる後継者・担い手の確保、人材育成推進のため、宮崎県林業技術センター等関係機関と連携を密にし、今後もみやざき林業大学校を支援していきます。

⑤標準伐期による施業を基本に、集約化による除間伐や長伐期施業等により、適切な森林整備を推進します。

また、植栽未済地の発生を抑制するため、再造林の推進を強化していきます。

さらに、県内でも発生している誤伐・盗伐に関しまして、県、警察、森林組合、関係機関と連携し、耳川流域からの発生を防止します。

⑥水源の涵養や山地災害の防止など、森林の持つ多面的な機能を発揮させ、本町が目指す資源循環利用の森林づくりによる健全な森林資源の維持造成のため、保安林整備を推進します。

⑦椎茸、木炭等の特用林産物の品質とブランド力を高め、価格の向上安定を図るとともに、安定経営のための支援を行います。

さらに、後継者の確保、育成に努め産業及び文化の継承に取り組んでまいります。

⑧鳥獣被害対策につきましては、関係機関や団体と連携して捕獲による個体数削減や防護施設の設置等による対策を強化し、被害軽減を図ります。

また、捕獲した鳥獣につきましては、ジビエ解体施設の稼働充実を推進し、「ジビエ肉」等として新たな地域資源となるよう有効活用を図ります。

⑨6次産業化は、「美郷町地域ぐるみで取り組む6次産業化基本構想」の基本方針である、栗での一点突破を図るため、「まずは、栗でPRして、栗で外貨を稼ぐ」「そして全体の6次産業化へつなげる」ため、耕作放棄地を活用した栗生産の省力化や栗加工の充実に取り組んでまいります。

また、産地型商社と連携して、「飲食・観光に付随する物販等で外貨獲得を目指し、外貨獲得に必要な産業は可能な限り本町で賄う」ことを実践してまいります。

2. 商工業、観光の振興

商工業の振興につきましては、商工業活性化の中心的な役割や地域コミュニティ機能を担う商工会への支援をはじめ、中小企業育成、意欲ある法人・個人等が行う新規起業や経営拡大などの各種支援制度によって継続的に支援します。特に喫緊の課題である後継者不足については、商工会や県事業承継・引継ぎ支援センターと連携して事業承継の支援を行い、地域経済への影響を最小限に抑えます。

今後も商工業の維持活性化のため商工会との連携を密にしながら、地域の特徴を踏まえ各種事業を展開してまいります。

また、コロナ禍で影響を受けている、商工業事業者への支援につきましても、国や県の支援策と歩調を合わせながら、地域の実情に沿った支援に努めます。

観光振興につきましては、これまで地区毎に展開してきた里づくり事業を生かしながら、それらを集約する新たな観光ブランド「DRIVE TO MISATO」のプロモーション活動を継続して実施してまいります。そのことにより、町内に点在する観光景勝地への周遊機会の創出が図られるほか、今後の観光ルート造成等についても、統一のコンセプトを持って展開することが期待できます。

また、設立された一般社団法人 美郷町観光協会に、民間であることの特性を生かした活動を担わせ、民間ならではの発想やネットワークで「稼ぐ観光」「経済の循環」の実現を目指してまいります。

併せて、旅行業を活用したツアーの開発や地域固有の資源を活用した体験型、交流型の要素を取り入れたツーリズムの推進を図るとともに、スポーツ系や文化系の合宿を誘致し交流人口・関係人口の拡大に取り組んでまいります。

その他、町内には重要文化財など歴史的な文化財や豊かな自然が残されていることから、今後もこれらの適正な保全に努める一方、唯一無二の観光資源として広く活用してまいります。

さらに、温泉施設をはじめとする各観光施設の適正な維持管理に努め、健全運営を目指し、どのような形態での運営が望ましいか分析を進め、民間活力も視野に入れた新たな指定管理者制度を模索し、検討を行ってまいります。

併せて、ウィズコロナ、アフターコロナを見据え、ホームページやSNSなど、多様な媒体を活用した情報発信に努め、観光の振興につなげてまいります。

3. 道路環境・交通体系の整備

地域の基礎的な社会資本である道路整備につきましては、適正な維持管理を行うことにより道路施設の長寿命化に努めます。

また、生活の利便性向上や交通の安全性を確保するために、国、県の補助事業及び過疎対策事業などを活用し再整備に努めてまいります。

国道388号につきましては、美郷町役場本所と南郷支所を結ぶ全線が2車線となり、本町全体の一体感、連帯感の醸成に重要な役割を果たしています。

また、国道446号の代替路も担うことになり、道路整備の立遅れている本町において、道路ネットワークの効果を実感したところでもあります。現在、南郷鬼神野と椎葉村を結ぶ区間においては、牛山工区の完了に続き南郷新屋敷工区が新規着手したところでもあります。

今後も引き続き北郷舟方工区の早期完了、南郷新屋敷工区の早期の工事着手をお願いするとともに、門川町松瀬工区の早期の完了、北郷黒木側への早期の事業着手についても、これまで同様に関係機関と連携しながら要望活動を行ってまいります。

県道につきましては、西都・南郷線、宇納間・日之影線、東郷・西都線等、計画的な整備が進められていますが今後も継続して要望活動を行ってまいります。

また、地域公共交通対策につきましては、通院や通学、買物など、町民の多様な移動ニーズに対応するための重要な施策の一つです。

現在、交通空白地帯の解消と高齢者福祉の観点から、コミュニティバスを運行しており、主に通院を目的とした利用があることから、引き続き地域の移動手段として持続可能な体制を整備してまいります。

また、本町と近隣自治体とを連絡する地域間幹線系統については、町外への貴重な移動手段として位置づけられているため、その存続と路線維持に努めるとともにニーズに応じたダイヤの改正や車両の小型化など、運用システムの抜本的な見直し検討を進めてまいります。

さらに、今後は、町内交通事業者と連携しながら、利便性と経済性を兼ね備えた交通システムの構築に向け検討を進めるほか、自家用有償旅客運送や地域内互助輸送などの新たな取り組みに対しても柔軟に対応してまいります。

4. 水道施設・生活排水処理施設の整備

町の管理する簡易水道施設は、日常生活に欠かすことのできない基盤であり、安全な飲料水を安定して供給するため、適切な施設の改修・更新と維持管理に努めてまいります。

また、地域・個人管理の給水施設につきましては、全ての地域で安定的な水の供給ができるよう技術的指導や整備方法の助言を行うとともに、施設の維持管理や整

備改修の支援に努めてまいります。

5. 環境衛生の充実

今日の環境問題は、消費生活の多様化により全国的にごみの排出量が著しく増加しており、深刻な問題であります。本町を含む5市町村で構成する日向東白杵広域連合と連携して、圏域での統一した環境行政に取り組むとともに、資源循環型社会への転換を推進するため分別収集の啓発を重点的に行い、ごみ減量化・資源化に積極的に取り組みます。

また、不法投棄防止の啓発やパトロール等による監視に継続して取り組みます。生活排水処理につきましては、快適な生活環境づくりや自然環境の保護のため、町内6か所の農業集落排水処理施設の適切な改修及び維持管理を行うとともに、合併処理浄化槽の新設や維持管理を推進し、生活排水処理率の向上に努めてまいります。

6. 環境保全の推進

本町は、緑豊かな山林や小丸川・耳川及び五十鈴川の三本の美しい河川が流れる自然資源に恵まれた地域であります。この豊かな緑や清流を保護するため、各水系汚濁防止協議会と連携した啓発活動を行ってまいります。

また、「節電・省エネの推進」「脱温暖化行動の推進」を実現するため、美郷町地球温暖化対策推進協議会と連携を図り、町民・事業者・行政のそれぞれの立場からお互いが協働して地球温暖化防止に向けた実践活動を積極的に推進してまいります。

7. 住宅環境の整備

既存の町営住宅につきましては、公営住宅等ストック総合改善事業等による改修・改善工事を計画的に進めるとともに適正な維持補修に努め、住宅の長寿命化と居住環境の向上を図ります。

また、政策空き家や耐用年数の経過した町単独住宅につきましては、取壊しや売却などを行い維持管理費の削減に努めます。

さらに、第2期美郷町まち・ひと・しごと創生総合戦略「未来発創」の中に位置づけられている「移住・定住支援」の中から「住宅施策」について重点を置き「単身者用住宅」「空き家サブリース」の整備を年次的に行ってまいります。一般住宅につきましては、町民の生活環境の向上、定住促進、経済活性化、木材振興等を目的に、町産材または流域材を活用することを条件として、新築・増改築を行う町民を支援してまいります。

8. 移住・定住の推進

移住・定住につきましては、お試し滞在宿泊施設を活用した就業体験や田舎暮らし体験の実施や国県の移住支援金の活用、住まいの情報発信を行い、移住定住の促進を図ってまいります。

また、住まいにつきましては、官民一体となって空き家等情報バンク登録数の増加を図り、紹介できる住宅の確保に努めてまいります。雇用につきましては、「ハローワーク」や「ふるさとみやざき人材バンク」と連携しての情報提供に努めてまいります。また、特定地域づくり事業による人材派遣事業を検討してまいります。

9. 情報通信基盤の整備

地域情報化対策につきましては、CATVネットワーク網が町内全域にわたり整備されています。自主放送の充実を含め、その安定運営と維持管理に取り組むこととします。

また、北郷地区におけるネットワーク光化事業も完了し、町内全域で4K放送及び高速通信に対応できる光ネットワークが整備され、町内の放送・通信環境格差是正が図られ、基盤強化がなされました。全ての町民が情報通信技術（ICT）の恩

恵を享受できるよう、今後も地域情報化の推進に取り組んでまいります。

また、庁内情報化対策につきましては、住民情報や税情報等の自治体クラウドシステムを利用していますので、住民サービスのための事務の効率化・迅速化と安定運用に努めます。

さらに、マイナンバーを利用して国や地方公共団体間との情報連携が可能となり、公的サービスがよりスムーズになりました。

今後、国や地方自治体が管轄している個人情報が多く共有されることから、さらにセキュリティ対策を強化してまいります。さらに、Society 5.0時代を迎え、5GをはじめとするICTインフラ整備と利活用の促進が叫ばれている中、令和3年9月に国にデジタル庁が新設され、各種分野において一気にデジタル化が推し進められることから、デジタル庁をめぐる動きに注視するとともに、今まで以上に新たな情報化の推進に向けて取り組んでまいります。

10. 保健・福祉の充実

① 保険及び保健事業の充実

健康づくりは町民生活に直結する重要な課題であるだけでなく、地域活性化の要でもあります。そのためこれまで特定健診を始めとする各種健診の受診率を高めることに努めてきました。

本町の国民健康保険事業における一般医療費につきましては、1人当たりの医療費が県内でも高額になっており、生活習慣病の占める割合が増加傾向にあることが憂慮されますことから、特定健診の事後フォローを継続的に取り組むとともに、医療費の高い疾患のリスクが高い方を中心に栄養士・保健師により個別訪問による重症化させない支援体制を構築し、被保険者の皆様の理解と協力を得ながら、医療費の適正化と健全な財政運営に努めてまいります。

母子保健については、妊産婦健診や乳幼児健診等の充実により、母子の健やかな成長を支援するとともに、不妊に悩む方に対する助成制度を継続するなど母子保健対策の充実を図ってまいります。

また、令和3年3月より、本庁内に「美郷町子育て世代包括支援センター」を開設したことにより、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行ってまいります。

新型コロナウイルス感染防止対策としては、重症化予防が期待される新型コロナウイルスワクチン予防接種を国の指導の下に、ワクチンに関する情報や予防接種の受け方等町民への説明を行い、安全に安心して接種が受けられるようさらに取り組んでまいります。

歯科診療所につきましては、休診していた西郷歯科診療所を令和3年10月に開所し、西郷・南郷・北郷の3診療所で町民の歯の健康づくりに努めてまいります。

② 社会福祉の充実

少子高齢化・超高齢化が進む中、誰もが住み慣れた地域で安心して生活できることが求められています。そのためには町政による福祉施策の充実はもとより、美郷町社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会並びに民間福祉団体等と協働・連携しながら福祉の町としての環境づくりをさらに進めてまいります。

③ 児童福祉の充実

町民が安心して子供を産み育てる環境整備のため、本町の施策として実施しています出産奨励祝い金の支給、中学生までの子ども医療費の無料化、保育料の無償化・減免、子育て支援センターの充実などの「美郷町の子育て支援」を継続し推進してまいります。

また、DV（ドメスティック・バイオレンス）や児童虐待が大きな社会問題となっている現在、要保護児童対策地域協議会を中心とした関係機関の連携強化と体制整備を充実させ、積極的に確立し虐待防止に努めます。

また、子育て世代包括支援センターの設置・運営により関係機関との連絡調整を強化させ、虐待要因の早期発見と予防に努めながら家庭相談（支援）を積極的に推進し、幼児・児童の権利擁護と育成環境の整備に努めてまいります。

④ 高齢者福祉の充実

令和3年12月1日現在、本町における住民基本台帳での65歳以上の高齢化率は51.2%であり、依然として県下トップの状況が続いています。高齢者が安心して地域で暮らせるためには、気軽に相談できる体制が必要です。そのため引き続き独居高齢者等への個別訪問事業を継続し、高齢者の困り事や福祉ニーズに速やかに対応します。

また、独居高齢者及び高齢者世帯の増加に伴い、食材の確保や調理が困難となる方が増えてきています。このため、在宅高齢者の生活を支援する上で、配食サービスの充実が重要であり、需要に応じた供給体制の整備に努めます。これまで「百歳でも元気に暮らせる町づくり」を理念として、高齢者自らが健康寿命延伸に努め、生きがいを持って暮らせることを目指してきましたが、高齢者の自主的運動教室の取組を進めた結果、介護予防・医療費抑制それぞれの面において、徐々に効果が現れてきていると考えるところです。また、運動だけでなく高齢者の居場所づくりとしても非常に有効に機能すると期待しており、さらなる推進に努めます。

高齢者の多くは住み慣れた自宅での生活を望んでおり、その高齢者が支援や介護が必要な状態になっても、可能な限り住み慣れた地域で安心して生活を送ることができるよう、医療・介護・予防・生活支援・住まいのサービスを一体化して提供し、高齢者を地域全体で支えていくための「地域包括ケアシステム」の構築を継続し、地域の実情を踏まえた介護サービス基盤の整備・拡充を推進します。

この地域包括ケアシステムを実現させるための重要な一手法である「地域ケア会議」は、高齢者個人に対する支援の充実とそれを支える社会基盤の整備を同時に推進するものであり、会議の定期開催と充実を図るとともに、令和3年度からの3か年計画で策定した第8期介護保険事業計画を基に介護保険事業特別会計の適正な運営を図ります。

さらに、令和2年度から実施している高齢者の保健事業と介護予防の一体的事業を充実させ、高齢者の健康づくり、生きがいづくりの拡充を図ります。後期高齢者医療事業特別会計につきましては、高齢者が安心して医療が受けられる体制を堅持していきませんが、団塊の世代が移行してくる年度となることから、医療状況を注視しながら適正な運営に努めてまいります。

⑤ 障がい者福祉の充実

障がい者の日常生活や社会生活を支援するため、引き続き、自立支援給付や地域生活支援事業を適切に実施するほか、関係機関や当事者団体等との連携を図りながら、障がい者が住み慣れた地域で社会と共生できるよう努めます。

また、令和元年度から、様々な地域課題の解決に向けて、障がい児・障がい者支援事業所「そうだんサポートセンターみさと」が開設され、さらに、令和2年度に、地域全体で支援する協力体制づくりを目的とした地域生活支援拠点整備として「日向市・東臼杵郡基幹相談支援センター」が開設されたことから、両センターと協力して手厚い個別支援や支援体制づくりの強化を進めてまいります。

また、令和3年度から3か年で策定した第6期障がい福祉計画、第2期障がい児

福祉計画に沿って事業を進めてまいります。

⑥ひとり親家庭支援の充実

近年の母子・父子家庭等をめぐる情勢が変化する中で、ひとり親家庭等の自立促進と児童の健全な成長を確保することが重要な課題となっています。そのため、子供の養育や経済面・健康管理など多くの困難を抱えているひとり親世帯に対し、経済的に自立できるための就業相談や医療費の助成などを実施してまいります。

⑦消費生活の安定と向上

訪問販売や通信販売等における消費者トラブルなど、若者から高齢者まで幅広い年齢層での消費生活トラブルが多発している中、地域や関係機関等との連携を深めながら悪質商法や詐欺行為を排除するとともに、相談窓口の機能強化や消費トラブルの未然防止に向けた消費者教育と啓発活動を強化・推進して、町民の消費生活の安定・安全と向上を図ってまいります。

1 1. 医療の充実

国保病院及び診療所事業につきましては、地方公営企業法とそれに準じての独立採算を目指しながら、同時に地域住民の保健、医療、福祉を担うという政策医療機関の立場にもあります。今日まで一貫して、医療はもとより保健、福祉の面においても中核的な役割を担う施設として、地域包括ケア及び在宅医療の推進に努めてきたところです。

安心安全な医療の提供を目指し、働き方改革への対応や医師の就労環境の改善など多くの課題を解決するため、医療提供体制の変更をして新しい形で令和2年4月からスタートしたところです。この医療提供体制を県から評価をいただき、令和4年度も継続して5名の医師を派遣いただくことになっています。

今後、新たな町の医療提供体制を確かなものにするため、さらなる医師確保を進めるとともに、電子カルテシステムの導入など医療機器を充実させ、また宮崎大学医学部との連携を密にした研修学生の受け入れ強化などを行うことで、若い医師やスタッフ・地域住民にとって魅力ある医療施設となるよう努めます。

また、町内の3つの医療施設を総括する「地域包括医療局」を軸として、福祉を含めた医療と介護の連携体制の強化を図りつつ、感染症対策にも十分に力を入れ、町として安定した継続できる医療提供体制の充実を進めてまいります。

1 2. 防災対策の充実

本町は、地理的・自然的条件により台風や梅雨時期等の集中豪雨等による風水害や土砂災害が発生しやすい状況にあります。近年では「数十年に一度の大雨」などといった報道も珍しくなくなり、「命を守る行動をとってください」という新たな防災情報の発信がなされるなど、改めて異常気象に注意を払う必要があると感じています。

このことから美郷町地域防災計画や美郷町国土強靱化地域計画など各種計画に基づき、災害から町民の命と財産を守り、迅速に復旧・復興が可能となるよう「強さ」と「しなやかさ」を持った美郷町を目指します。

また、国、県、町、及び町民全員が参加する自主防災組織、事業者が連携し、防災・減災、国土強靱化の取組の加速化を図ってまいります。

1 3. 消防・救急体制の充実

非常備消防自治体の本町では、消防団が唯一の消防機関であり、地域防災の要であります。

本町としましても、「地域密着性」「要員動員力」「即時対応力」の特性を生かしながら、消防施設の充実や団員の確保、活動環境の整備など、消防力の向上に取り組

みます。

救急業務につきましては、搬送（運転手・補助者）に関する業務の一部を民間に委託することに加え、救急救命士が同乗する救急搬送体制にしております。救急救命士による救急救命の専門業務が担保されたことにより、現場での傷病者観察や一部処置が可能となり、病院へ搬送するまでに傷病者の状態や状況を病院側への確に伝えることができ、病院側も受け入れ態勢の充実が図られております。また、救急救命士によりドクターカーやドクターヘリ、防災ヘリの要請判断を実施しており、いち早い医療介入にもつながっております。

本年度も引き続き町内全域に救急救命士の手が届く体制を構築し、町民が安全で安心できるサービスの充実を図ります。また、3台配備している高規格救急車で広域的な救急救命業務を行いながら、関係機関との連携の強化、施設の整備や従事者への教育・講習等を実施し、業務の充実に努めてまいります。

14. 治山・砂防・河川対策の充実

治山・砂防対策につきましては、自然災害から町民の生命・財産を守るため、国、県の対策事業の積極的な導入に向けて、これまで同様に要望活動を行いながら計画的な対策を講じてまいります。

河川対策につきましては、自然災害から町民の生命・財産を守るため、洪水災害の原因となる河川の堆積土砂の撤去について県へ積極的な要望活動を行うとともに、土砂処分場の確保に努めてまいります。

15. 防犯対策の充実

防犯対策につきましては、警察や駐在所連絡協議会と連携し町民の防犯意識の高揚を図るとともに、防犯灯の整備のため、蛍光灯機器故障時におけるLED化の推進や未整備箇所における新規設置を図るなど、犯罪の未然防止に努めてまいります。

16. 交通安全対策の充実

交通安全対策につきましては、警察や交通安全協会、交通指導員会等の関係機関団体と連携を図りながら、町民一人一人に交通安全思想の普及を図るとともに、特に高齢者ドライバーの交通安全の意識向上と高齢者の交通事故防止を図るため「みさと安全運転」の推進、交通安全教育を実施します。

また、交通安全施設や通学路の点検・改善も行ってまいります。

17. 教育の振興

本町の教育全般の振興を図るため、教育基本法の理念及び宮崎県教育基本方針を踏まえ、人間尊重の精神を基本とし、一人一人が豊かな人間性を培い、変動する社会に創意工夫と生きがいを持って対応できるよう、「たくましい体」「豊かな心」「すぐれた知性」を備え、郷土並びに国家の有為な形成者として、心身ともに調和のとれた人間形成を目指して、教育の振興を図ります。

生涯学習の推進につきましては、真に町民が期待する各種学級、講座、教室等の効果的な運営、図書館を中心とした生涯学習施設の役割の充実と利用の促進、スポーツ・レクリエーションを気軽に親しめる環境づくりに努めます。

また、学習内容に地域課題の解決に関する講座を設けるなど、町民が主体的に学び、その学びを地域に生かせる体制の整備を行います。

学校教育の充実につきましては、本町の教育資源を生かし「ふるさとを愛する心と豊かな国際感覚を育み、確かな学力を身につけ、自分に自信と誇りが持てる、心豊かな人材を育成する」ことを目標とした「美郷ならでの教育」の推進を目指し、就学前教育の充実を図り、義務教育への指導の流れを一貫したものとし、小学校（義務教育前期課程）以降の生活や学習がスムーズになるよう努めます。

特に、義務教育期の教育につきましては、児童生徒一人一人の個性や能力を最大限に伸ばし、「知・徳・体」の調和のとれた健やかな児童生徒の育成を目指し、施設一体型幼小中一貫教育のさらなる推進と教育用タブレットなど、ICT機器の活用を充実させてまいります。

また、より一層の学力向上と授業改善及び各個人に応じた特別支援教育の推進、児童生徒一人一人を大切にする生徒指導の充実、町独自の研修会等による教職員の指導力・資質向上に努めてまいります。

社会教育の推進につきましては、町民が生きがいを持って過ごせる学習社会を構築し、青少年から高齢者まで一人一人が社会貢献できる教育の場を町立図書館を核に積極的に提供し推進を図ります。

特に、青少年交流事業や子供の体験活動推進事業を継続的に、また積極的に推進するなど、健全な青少年教育をはじめとして、成人や女性、高齢者教育についてもICT機器の活用を行うなど、さらなる充実と振興に努めます。

また、各種ボランティアの養成を支援し、各種活動に取り組む意識の高揚や活動の促進に努めます。

さらに、人権教育の充実や国際理解推進のための研修、情報教育の強化を図ります。

家庭教育の推進につきましては、「生きる力」「心の教育」の基盤を確立するため、全ての教育の出発点（根底）であるとの認識を深めるとともに、家庭が本来果たすべき役割を見据え、各家庭の教育力の向上と地域による家庭教育支援体制の整備充実に努めてまいります。

18. 地域コミュニティ対策

地域住民の活動や交流の場となる自治公民館の有効利用や整備充実に努めることにより、社会教育関係団体等が活発な活動を行うことができ地域活力の促進につながります。

さらに地域コミュニティの活性化を図るため、その核となる自治公民館の活動に対する支援体制の強化と学校を核とした地域づくりを目指し、地域人材の幅広い参画を得て、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う「コミュニティ・スクール事業」「地域学校協働活動事業」を推進してまいります。

19. 伝統文化の継承と活用

美郷町の各地には古くから地域に根差した民俗文化があり、地域住民の手によって大切に継承、伝承されています。これらの民俗文化は、地域文化の振興を図る上で貴重な資源でありますので、伝統芸能等の保存、継承、活用を図るために後継者や指導者の育成を積極的に支援します。

また、伝統芸能等の発表の場としてのイベントを開催し、地域文化の発信と伝統文化に触れる機会を充実させることに努めてまいります。

20. 国内外交流の推進

沖縄県豊見城市と行っている姉妹都市交流は、子ども会育成連絡協議会等を介しての人事交流と産業・経済・行政の多様な交流により友好の絆は確実に、より固く結ばれています。今後もさらに行政間相互の人事交流を含め、あらゆる世代で積極的に交流を深めてまいります。韓国扶餘邑(プヨユウ)や林川(イムチョン)中学校との国際交流事業につきましては、この2年間、新型コロナウイルスの世界的な流行により中止せざるをえませんでした。昨年は中学生によるオンライン交流を実施しましたが、人の往来を伴う交流事業は状況を見ながらの実施になると思われます。

今後も扶餘邑(プヨユウ)との絆を生かした交流を続けるとともに、町民レベルで

の交流や、韓国からの国際交流員によるハングル講座、幼児・児童・生徒への国際理解教育、異文化紹介などの事業をさらに充実、発展させてまいります。

また、「百済王族にまつわる伝説等を生かした取組に関する協定」を生かした地域活性化や伝統文化・文化財の継承、PR事業などに取り組み、関係市町と歴史文化や観光などについて、多方面で協力をして活動を行ってまいります。

小・中・義務教育学校の交流事業では、姉妹校である韓国林川（イムチョン）中学校との交流事業をはじめ、国内外にある友好都市との親善交流を充実し、国際感覚を身につけた青少年の育成に努めてまいります。

21. 住民参加の促進

① 広報広聴の充実

地方分権が推進されている今日、地域の特性に応じた施策を実現する環境が整備されてきました。地域の特性を生かした住み良い地域社会の形成には、町民の声を施策に反映させることが重要です。

私の公約でもある「町民とつくる対話と協働の町政」の下、本年度も引き続き、町政懇談会を開催し、町民の町政に対する意見や提案を広く収集できるよう、そして、町民の声を町政に生かせるよう努めてまいります。

また、まちづくりに関心を持ってもらうため、町政に関する広報を充実させ、あらゆる媒体を活用し町民が様々な情報を得られるよう努めてまいります。

② 町民との協働の推進

地方分権に基づく住み良い地域社会の形成には、町民と行政との良好なパートナーシップが重要です。そこで、職員が地域を知り、地域との情報共有のために「まちづくり地域サポーター制度」を設けているのですが、昨年度は新型コロナウイルス感染症対策のため実施を控えさせていただきました。

本年度につきましては、引き続き体制は整えつつ、感染状況を考慮しながら実施することにより、地域と行政が一体となって地域の課題に取り組む住民参画型の協働のまちづくりを推進してまいります。

さらに、地方創生への協働での取組として、令和2年度から開始した「第2期美郷町総合戦略」の基本目標を実現するために、国や県、他市町村との連携を図るとともに、町内各種団体とも連携・強調を図り、住みやすさを追求した「住み続けたい」「住んでみたい」と思えるようなまちづくりを目指してまいります。

その上で、主要な柱の一つである「地域づくり」の計画実現に向けて、令和2年度から3か年計画で、町内24行政区単位での地区別定住戦略策定に向けた未来会議を実施しております。先行して実施している15行政区は、徹底した人口分析や地域体制・資源の診断を基に、住民自らが話し合い、定住や人口減少対策のための目標や戦略を、地域住民が主人公となったボトムアップ型の取組を行っており、ここでの検討内容を生かした「地域みんなで支えるまちづくり」を推進してまいります。

③ 男女共同参画社会づくりの推進

あらゆる分野の計画の策定や事業の運営等、まちづくりに積極的に町民の声を反映させるため、各種審議会、委員会、協議会などを活用しながら、町民の参加機会の拡大を図ります。各種委員の登用に当たっては、新たな人材の発掘と、女性委員の登用に努め、積極的に男女共同参画社会の形成に取り組んでまいります。

22. 行政運営の充実・強化

① 効率的な行政基盤の確立

本町では、町政施行後に美郷町行政改革大綱を策定し、限られた資源を有効に活

用することで、本町の基盤づくりに努めるとともに、厳しさを増す財政状況に対応してきました。

引き続き、早急に対応しなければならない山積する課題に対して、安定した行政運営ができる体制の確立を図るため、令和2年1月に策定した「第5次美郷町行政改革大綱」に基づき、今後も本町を取り巻く環境に対応したスピード感を持った行政サービスの提供と、住民と行政が一体となった行政改革に取り組みます。

中でも、育児・介護休暇の取得促進等、男女ともに職員が働きやすい職場環境の整備に努めるとともに、事務処理における無駄の削減、事務事業の見直し、職員数の適正管理による行政コストの縮減、将来の行政需要を精査し資産の適正管理を図るなど、身の丈にあった行政運営に努めます。

また、行政組織の体制について今後も検証を行いながら、引き続き簡素で効率的な組織運営により多様化する行政需要への迅速・適格な対応に努めてまいります。

②職員資質の向上

時代の変化を敏感に感じ、常に創意・工夫を持って組織の効率化と、業務の品質向上を目指すとともに、町民の声に謙虚に耳を傾け、町民から協働のパートナーとして信頼を得られる職員の育成に努めます。

その一環として、地域と行政が一体となって地域の課題に取り組む「協働のまちづくり」を推進することを目的に「まちづくり地域サポーター制度」をスタートさせました。昨年度も新型コロナウイルス感染症のため、地域に出向くことができなりましたが、職員が地域を知り、地域と行政をつなぐパイプ役となるものとし、継続して取り組みます。

そして、人事管理や職場環境、組織育成や職員研修をはじめ、職員の健康管理体制の一層の充実を図るための組織づくりを一体的に推進します。

また、本町に適した職員数で新たな行政課題や多様なニーズに的確に対応するため、各種研修を積極的に推進するとともに、県や民間企業への派遣研修を行い、様々な専門的な技術や知識の習得、及び人脈づくりを通じて、職員の資質向上を図ります。さらに、町民の立場に立った窓口手続きの簡素・効率化や窓口サービスの充実に努めてまいります。

23. 財政運営の充実・強化、地籍調査事業

①財政運営の充実・強化

健全な財政運営と財政基盤の強化につきましては、最大の課題と位置づけ、今まで以上に自主財源の確保と節減合理化を進めてまいります。

そのため、町税の適正で公平な課税と徴収に努め、自主財源の確保を行い、地方交付税など国の動向に左右されるものは、その動きを常に注視し、適正に本町の財源へ反映できるよう努力するとともに、事務事業を単に前例踏襲するのではなく、より効果的・効率的なものとなるよう検証・見直しを行ってまいります。

②ふるさと応援寄附金

本町のふるさと応援寄附金につきましては、今後も返礼品を充実させるとともに、寄附者への感謝の気持ちを伝えるため、寄附金の使い道を公表し、貴重な自主財源確保に努めてまいります。

③地籍調査事業

地籍調査事業につきましては、令和3年度に一筆地調査を実施しました南郷の山三ヶ2区域13.30平方キロメートルの地積（面積）測定、認証請求業務を実施することとしています。また、西郷の登記未了地区6.45平方キロメートルにつきましても、地積（面積）測定、認証請求業務を実施することとしています。

令和3年度をもって町内全ての一筆地（現地）調査が完了しましたので、進捗率としましては100%となりました。しかし、全ての登記が完了した時点が事業完了となりますので、早期完了を目指して事業を進めてまいります。

（むすび）

むすびに、本町の令和4年度予算の編成に当たっては、財政状況が厳しくなりつつある中でも、まちづくりは挑戦を意識し萎縮してはなりません。

一方、積極的な行政運営を行うためには、新たな財源確保の手段を検討する必要があることから、令和3年度の普通交付税の一本算定結果を精査した上で、自主財源の確保に努め、ふるさと応援寄附制度、及び企業版ふるさと納税制度等の取組を一層、強化するなど、あらゆる事業の財源について積極的な確保を図るものとし、財源確保に最大限努力するものとし、

併せて各課事務事業及び補助金等の見直しなどを継続して実施し、予算の選択と集中を行い、効果的かつ効率的に諸施策を推進するべく、美郷町独自の振興策を実現する実行予算を編成しました。

結果、一般会計予算で総額が80億4,205万1,000円となり、令和3年度との比較では、1億3,860万8,000円、1.7%の増額となりました。

まず、歳出での主な計上額につきましては、総務費が14億5,273万7,000円、民生費が9億4,364万4,000円、農林水産業費が9億7,958万4,000円、土木費が7億7,324万4,000円、教育費が4億8,188万1,000円、公債費が10億8,486万6,000円、諸支出金に12億1,259万5,000円を計上いたしました。

歳入では、地方交付税が34億9,570万円で全体の43.5%、町税が7億566万4,000円、国県支出金が併せて9億3,625万9,000円となり、基金繰入金としましては、3つの特定目的基金から1億209万6,000円、財政調整基金から10億4,471万2,000円、併せて11億4,680万8,000円の繰り入れとしました。町債は、総額で6億1,680万円とし、主なものとしては過疎対策事業債3億910万円、合併特例事業債1億230万円を計上いたしました。

次に、特別会計では、国民健康保険事業特別会計が10億602万6,000円、介護保険事業特別会計が9億9,172万円、後期高齢者医療特別会計が1億9,796万5,000円、簡易水道事業特別会計が1億7,574万円、農業集落排水事業特別会計が1億995万1,000円、さらに国民健康保険診療所事業特別会計が1億9,710万5,000円となりました。また、国民健康保険病院事業会計の収益的収支と資本的収支は、8億4,028万円を予定しており、医業収益は4億7,377万円を見込んでいます。

このことから、6つの特別会計の予算額が併せて26億7,850万7,000円、病院事業会計の予算額が8億4,028万円となり、一般会計と併せた令和4年度的美郷町予算総額は、115億6,083万8,000円となりました。

以上、令和4年度の施政方針と予算規模について述べましたが、「豊かで活力ある安全・安心な郷づくり」の実現を目指して、全力を尽くしてまいります。町民の皆様と議員各位のなご一層の御支援と御協力をお願いして、提案理由といたします。

よろしく願いいたします。

【議長 山本 文男】

町長の提案理由の説明が終わりました。

この件につきましては、第4日目の3月11日に町長に対する総括質疑を行います。

【議長 山本 文男】

以上で、本日の日程は、全部終了しました。

明日3月9日水曜日は、定刻午前10時に本会議を開きます。時間をお間違えないようにお願いいたします。

本日は、これで散会いたします。

【事務局長 小田 広美】

「一同・起立・礼」・・・お疲れさまでした・・・。

(散会：午後 2時00分)

令和4年第1回定例会

美郷町議会会議録(第2号)

令和4年3月9日

美郷町議会

令和4年1回美郷町議会定例会会議録（第2日）

令和4年3月9日（水曜日）

◎開会日時 令和4年3月9日 午前10時00分 開会
◎散会日時 令和4年3月9日 午後2時40分 散会

◎出席議員（11名）

1番	若杉 伸児君	2番	早川 節夫君
3番	中田 武満君	4番	兒玉 鋼士君
5番	中嶋 奈良雄君	6番	川村 義幸君
7番	那須 富重君	8番	小路 文喜君
9番	甲斐 秀徳君	10番	川村 嘉彦君
11番	山本 文男君		

◎欠席議員 なし

◎欠員 なし

◎会議録署名議員 7番 那須 富重君 8番 小路 文喜君

◎事務局職員氏名 事務局長 小田 広美君 書記 森川 晴君

◎説明のための出席者職氏名

町長	田中 秀俊君	副町長	藤本 茂君
教育長	大坪 隆昭君	会計管理者	三榎 治君
総務課長	下田 光君	税務課長	甲斐 武彦君
企画情報課長	田常 浩二君	町民生活課長	田村 靖君
健康福祉課長	黒田 和幸君	建設課長	林田 貴美生君
農林振興課長	松下 文治君	政策推進室長	沖田 修一君
教育課長	石田 隆二君	地域包括医療局事務長	黒木 博文君
南郷地域課長	川野 一郎君	北郷地域課長	泉田 浩文君

◎会議の経過 別紙のとおり

令和4年第1回美郷町議会定例会 議事日程（第2）

令和4年3月9日
午前10時開議

日程第1 一般質問

6番 川村 義幸 議員

1. 栗での一点突破について
2. 町道の維持、管理と今後の整備計画について

9番 甲斐 秀徳 議員

1. 中山間地域の諸問題について

8番 小路 文喜 議員

1. 南郷診療所の有床化について
2. 各種選挙権の行使について

4番 兒玉 鋼士 議員

1. 美郷町農業振興対策について

会 議 録

令和4年3月9日
午前10時開議

【事務局長 小田 広美】

「一同起立・礼」・・・おはようございます・・・御着席ください。

【議長 山本 文男】

改めまして、おはようございます。

本日は、一般質問であります。傍聴人も見えておられます。

私たちの議会活動を直接見ていただくことは、大変ありがたいことです。傍聴の方に対しまして敬意と感謝の意を表します。

定例会二日目であります。本日もよろしく願いいたします。

【議長 山本 文男】

ただいまの出席議員は11名であります。

【議長 山本 文男】

これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程はお手元に配付の議事日程表のとおりであります。

なお、広報用の写真撮影の申出がありましたので、これを許可しました。

【議長 山本 文男】

日程第1、一般質問。

今回、一般質問の通告のありました議員は6名であります。

本日は4名の一般質問を行い、残り2名の方の質問は明日、行います。

通告順に一般質問を行います。

なお、本議会より、質問と答弁を合わせて1時間以内となっております。終了前にはブザーが鳴りますのでよろしくお願いいたします。

通告順に質問を許します。

6番、川村 義幸議員の登壇を許し、1問目の発言を許可します。

【6番 川村 義幸】

議長。

【議長 山本 文男】

6番 川村 義幸議員。

【6番 川村 義幸】

1番バッテリーということで非常に緊張しております。失礼なことも時々出るかと思いますが、その辺のところよろしく願いしたいと思っております。

私は栗の一点突破について、お伺いします。

まずその前に、美郷町の栗について少し述べさせていただくと、美郷町の栗は西

郷村時代に、当時、大正時代ですかね、最初に出荷したのが等米袋とかに入れて出荷したのが始まりだそうです。

その後、昭和5年頃から出荷が始まり、昭和15年から16年頃には日向西郷栗として京阪神方面に出荷されたと記されております。そして、昭和10年代に峰区の方が2反余り丹波栗を植えつけし、そして経営としてやっていることが残っております。

また、昭和40年からパイロット事業により、峰区内野の現在の林業センター付近なんですが、ここに11ヘクタールの栗園を造成、その後、昭和42年には山瀬栗園が13ヘクタール、同じく昭和42年に小川地区に11ヘクタール、西の八峡に14ヘクタールと昭和48年には100ヘクタールを超えるほどの面積となっております。

また、昭和61年頃には100戸あまりの農家で170ヘクタールとなり、収穫量も100トンとなっております。最高では昭和58年には142トンの収穫があったとも書いてあります。そこでいくと、現在は60トンくらいの収穫量ですが、もう一度、せめて100トンくらいの収穫量を目指した栗への取組をしていただけたらと思っております。

町長は、「栗の一点突破を目指す」と言っておられますが、それについていろいろと質問したいと考えておりました。

ところが、昨日、施政方針を聞く中で、施政方針の農林業の振興策の中で、「美郷町総合計画に定めた作物を中心した生産目標達成に向け、生産組織の強化育成を支援し、栽培面積の維持、拡大・栽培技術の向上を図ります」と②の中に残しております。

また、⑨の中には、「6次産業化は、美郷町地域ぐるみで取り組む6次産業化基本構想の基本方針である栗での一点突破を図るため、まずは栗でアピールして、栗で外資を稼ぐ、そして全体の6次産業化へつなげるため、耕作放棄地地区を活用した栗生産の省力化や栗加工の充実に取り組んでいく」とおっしゃっています。

そこで、私がちょっとお聞きしたいのは、生産拡大をするためにはパイロット事業とまではいかないと思いますが、もう少し面積の拡大とかいろいろな対策があるかと思えます。どのくらいの対策を細かく練っておられますか、その辺のところをお聞きしたいと思えます。

【議長 山本 文男】

町長の答弁を許します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

おはようございます。今日から明日にかけて6名の議員の方々の一般質問ということでございますが、丁寧に答弁していきたいというふうに思っております。

しかし、分からないことも多々ありますので、そのときは各課長に振りたくと思っておりますが、御了承をお願いしたいと思っております。

この栗一点突破ということで、栗が一番、6次産業化をなしている作物ということで考えております。

令和2年度に策定された美郷町栗部会産地プランに基づき、令和6年度までの計画が示され、現在取り組んでいるところでありますが、これまでの議会との協議により、計画の前倒しや新たな計画も策定したところです。このプランの取組により、令和6年度には平均反収150キロを超えることを目指しております。この150キロでいいのかという問題も多々ありますが、まずそこを目指すということであり

ます。

本年度まだ実施中ではございますが、園地マップ・園地台帳を作成し、同時にアンケートを実施し情報収集を行っているところであります。

今後、そのアンケートで第三者への継承が可能な園地につきましては、栗園地バンクとして情報発信を行い、担い手を募集していきます。

また、本年度補助要件を緩和しました苗木購入補助金については、想定以上の要望がありましたので、今後も継続して取り組んでまいります。これまで推奨してきた低樹高栽培の普及に加え、令和2年度から取り組んでいる主幹形密植栽培の実証のほか、休耕田での栽培技術確立を目指す取組を行ってまいりたいと思っております。

また、生産者の生産意欲を高めるため、園地台帳で生産者ごとの栽培規模が整理できた段階で、何とか生産意欲を高めるために、奨励金とかそういう形につなげていければなあというふうには思うところであります。

さらに令和4年度より栗栽培支援隊として地域おこし協力隊を任用し、関係機関と連携して活動を行うこととしております。

今回は、栗と完熟きんかんの複合で年間を通じた栽培技術を身につけていただきまして、町内での独立自営就農を目指してもらおうこととしております。

また、町では「美郷町地域ぐるみで取り組む6次産業化」を掲げて、産業振興に取り組んでいるところでございます。

6次産業化は、町内の農家の安定した手取りを確保するために、町内で生産された作物を活用した、2次と3次産業の加工販売事業に取り組み、また、そのことで町内の経済が活性化することを目的としております。

そのため、加工販売事業は町内で生産された作物をなるべく多く、そして市場よりも高くで買い取ることを目標とする必要がありますので、利益確保がなかなか難しい事業になってまいります。

そこで、加工販売の施設整備は、町が最大限の支援を行う、その運営は多くの農家が参加した組織が行うことが6次産業化を推進する上で最も有効だと考えておるところであります。

町では、栗加工施設がこの形態で6次産業化を達成している、唯一の施設であります。

成果としては、令和元年までの5年平均で、キロ単価で市場より123円高く買取り、出荷経費では、キロ当たり88円節減ができております。併せてキロ当たり211円、年間約60トンの取扱いをしていますので、年間合計で約1,200万円の農家手取り向上に貢献しているところであります。

また、秋には栗の商品を求めまして多くの観光客が町に訪れ、ふるさと納税の返礼品としても需要が高いので、地域の経済効果や町の収入に大きな貢献をしているものと考えております。

これからも、栗を町の6次産業化のモデルとして、また、栗のさらなる振興が町

全体の6次産業化に大いに寄与すると思っておりますので栗の振興に力を入れて、さらにはほかの農産物の振興につなげていきたいと、そのように考えておるところであります。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【6番 川村 義幸】

議長。

【議長 山本 文男】

6番、川村 義幸議員。

【6番 川村 義幸】

ありがとうございます。本当に前向きに進めてもらっているのかなというふうに感じております。

ただ、先ほど言いましたキロ単価の120円がよそよりか高く買い取っているということに甘んじず、もっともっと高く買えるような体制にしてほしいと思います。

先ほど言ったかどうか分かりませんが、パイロット事業とまではいかななくても、もう少し農家の方たちを指導しながら、もっと拡大を本当に真剣に取り組んでいく方法を考えてほしいなと思います。

そのためには、職員の中に栗栽培技術、例えば、センター肥培管理、全てができるような職員を、農家の方に指導できるような技術を持った職員を育てるのも1つの手ではないかなと思いますが、その辺のところはどうでしょうか。

【議長 山本 文男】

町長の答弁を許します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

確かに以前からもやはり職員の中にそういう職員を育ててほしいという要望が出ております。

ですので、今さっきいいましたように地域協力隊の募集をしまして、まずそこからということもありますが、今、農業改良普及所、それとJA、それと担当という形でしっかりと技術の講習をしておりますので、そこら辺りでしっかりとしたものがないかというふうに思っております。

そしてまた、結局、異動というものがついでまいますので、もしそういう技術者を育てるとすれば、やはりもう固定的にそういう人たちを採用するしかないのかなあというふうに思うところであります。ですので、農業大学校を卒業したとか農

業高校を卒業したそういう専門の子供たちをしっかりと職員として採用してそれに当たらせるということが、一番重要なこと。

今、農協自体もいろいろな専門の技術員がいますけど、なかなか職員数が少なくなっていてやはり目が届かないところが出てきたという部分がありますので、そこをどうカバーしていくかが今後のその技術員といますか、そういう部分の育て方になるのかなあというふうに思っておりますので、もう少しそこ辺はほかの、1回そういう技術員としてそこに固定をされると、なかなか異動ができないということになりますので、今後のやはり職員数とそういう兼ね合いがありますので、そこ辺で検討していきながら、今後の方向性は見つけていきたいというふうに思うところです。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【6番 川村 義幸】

議長。

【議長 山本 文男】

6番、川村 義幸議員。

【6番 川村 義幸】

その職員が専従でずっとおるわけにはいきませんからその辺は難しいかと思いますが、でも専従の職員がおって技術指導、昔、私が感じたのは養蚕にしても何にしてもずっとその人に頼るといふかそういう職員がいたんですよ。多分、今日、傍聴に来られている甲斐さんなんかそうじゃなかったのかな。養蚕を始めた頃なんか、一生懸命、それ専従みたいな職員でやっていたような気がしますし、やはりそういう方がどうしても必要になると。

農業普及所もあるし農協もあるんですけども、やはり農業普及所とか農協を頼りだけではなく、本当に取り組むのであれば、やはり役場としてもそういう専従職員を1人、2人は育てていくべきじゃないかなあと、私は思っております。

それからもう一つ、昨年、いろいろと問題になりました栗の付加価値をつくるための栗の栗餡製造工場、加工場なんですけど、これに対してももう一度、考え直す、「考え直す」ということではないんですけど、もう少し前を向いて一生懸命、これに取り組んでいただければ、栗の単価ももっともっと上がっていくし、また農家の栗生産農家の意欲も湧いてくるんじゃないかと思うんですけど、そこら辺のところはどうでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

おっしゃるようにやはりその技術員という部分では検討していきたいというふうには思います。

がしかし、やはり生産者が技術というスキルを高めていくということが一番現場で働いていることですので、自分の経験からすると、やはりその園地、牛でいえば当たったほどということですが、やはりそういう形がそういう生産物のよしあしにつながってくるのではなからうかと思っております。

ですので、上の方というか経験豊富な方々が下の方々を指導していくという形が、今の部会ではできてるのではなからうかというような気がしております。ですので月に1回のそういう集まりをして、園地でいろいろな形で見えていくと。栗園でこうということはこういう形でやっていこう、こういう方法がいいですよという話だろうと思っておりますので、そういう形でしていければいいかなあと。

それと、後のほうの栗加工場の話になりますが、これはやはり議会のほうが、加工場が先なのか、それとも生産高というか量が先なのかという話の中でいろいろな話をされてきましたが、その中で、やはり量を増やさんことには話にならないのではなからうかということでありましたので、まず量を増やしていきたいと。その中で、国も県も以前、こうしようとした加工場のことはそれを持って不利益扱いはしないということを聞いておりますので、もしそれがまた出てきたということであれば、またそれは粛々と国も県も進めていきたいというふうにおっしゃっていただきましたので、機会があれば、また皆さんとそれこそ提案をして、しっかりと議論をしていきたいというふうに思っております。

この件に関しては3回の臨時議会を開催いたしまして、結果的には否決されたということになっております。

がしかし、栗の振興をするためにはやはり栗餡の工場がないと6次産業化が図れないという大きな問題もあります。それが町がそれだけ出していいものかという話の中にもなってきましたけど、産業振興って何だろうかという話になってきます。

ですので、いろいろな形で大きな、例えば、木材素材生産業者に1,000万円のお金を出す。高性能機械を買ったときにそういうことで補助金を出しておりますが、そういうことと、今回の、今回というか前のことなんですけど、その補助をするということ自体がどういう違いがあるのかという部分は、今ずっと思っておるところであります。

ですので、この件に関してはまた議員の皆様方に機会があればというか、機会を設けてやっていきたいというふうに思っております。それよりか先に、やはり生産量を上げるということに特化したいと思っております。

ですので、パイロット事業がどうのこうのということも調査をしながらやっていきたいと。でもそこに生産者がいなければという話になりますので、やはり高齢化した園地がそのままになるというよりか、担い手をどうかこうか見つけて、事業承継しながら生産拡大に努めていきたいと、一生懸命そこ辺はやりたいと思っておりますので、いろいろな提案があればまたいろいろ御享受をお願いしたいというふうに思うところです。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【6番 川村 義幸】

議長。

【議長 山本 文男】

6番、川村 義幸議員。

【6番 川村 義幸】

本当に国・県の考え、ありがたいことだと思っております。あれをそのまま棒に振られたら本当に残念なことだなあと思っておりましたが、そうやったまだ残していただけるということは、本当に我々にとってはありがたいなあと思っております。

この加工場が先か生産が先か、本当に難しいところだと思うんですね。

でも、6次産業をつなげるためにはやはり加工場は必要ですし、加工場がなくては栗の単価が上がらない、栗の単価が上がらなければ農家の方の意欲が湧かない。その辺のところどうやって意欲を持たせていくか、本当に難しいことだと思っておりますが、やはり先ほど、町長が言われたように100トンから160トンかな、目指すということであれば、本当に作付面積を増やす、その技術指導それから農家の育成、その辺をしっかりと取り組んでいただかないと、この目標には届かない。

というのは、もう高齢者化して本当に難しいんですね。農家の方も高齢化して栗生産農家もだんだん減っていくのかなあと。だから先ほどから町長が言うように、後継者を見つけて担い手を見つけてつないでいかないといけない。この辺を本当にしっかりとやっていただきたいなあと思っております。

それから、私の経験からいくと、やはり栗を買い取る単価を上げることによって、栗農家の意欲、ある業者の方は1つの村をまとめ上げて、そのまとめ上げた栗の単価を全て1年間同じ単価で買いますよと。そのかわり私たちの指導の下にそれを生産してくださいというふうなことでやっております。そういう方法もありますので、やはりそういうしっかりとした指導方法を考えていただければ、栗農家の方も安心して続けていただけるかと思っておりますので、その辺も力を入れていただきたいなと思っております。その辺のところ、町長、どう考えますでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

できればそういう形の中で生産量を増やしていくということが理想だと思っております。

ですので、今の園地、100丁歩くらいあると思っておりますけど、本当にしっかりとした管理がなされているかという話にもなってきます。その100丁歩をしっかりと管理をしたとき、生産性が生産量がどのくらい上がるのかと。

先ほど言いましたように園地のマップを作って、しっかりとした情報を集めて、今後それに対応していきたいというふうに思っております。

苗木のほうも非常に申込が多いということで、今後、増えていくのではなかろうかと。加工場のほうは1粒でも持ってきてくださいよという話で頑張っておりますので、そう形で県のほう、それと農協そして町という形で頑張りたいと思っております。

昨日、栗きんとん はな恵さんから、「2月28日で今期といいますか2021年

産の栗のおはぎと、栗きんとんですかね、これの出荷が終わりましたと。ありがとうございます。」ということで、量が少なかったということもありますが、なかなか好評を得てますということでありますので、やはりそういうことを考えれば、今後しっかりとした生産体制をつくっていただき、栗部会と協議をしながら、町が何をすべきかと、そして何が足らざるかということをしっかり検証してまいりたいと。議員おっしゃるようにその方向で進みたいというふうに思っております。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【6番 川村 義幸】

議長。

【議長 山本 文男】

6番、川村 義幸議員。

【6番 川村 義幸】

ありがとうございます。本当に前向きに考えていただいているということでありがたいなと思っております。ぜひともよろしく願いをしておきます。

今、昨年も1店舗できたように、だんだんと栗に特化したお菓子を作って売り出そうという業者さんもおられますので、その辺から外資を稼ぐという中に入っていくのかなあと思っていますので、今後ともよろしく願いしたいと思っています。

また、我々も協力できる部分はしっかりと協力していかななくてはいけないのかなあと思っておりますので、その辺は覚悟しておりますのでよろしく願いします。

続きまして、次の2番目に行きたいと思っておりますがよろしいでしょうか。

【議長 山本 文男】

2問目の発言を許します。

【6番 川村 義幸】

栗のほうはよろしく願いしておきまして、次に、町道の維持管理について、お伺いいたします。

町内をずっと回ってみますと、結構、路肩部分がへこんでいて危険というか、通行上はちょっと危険ですよね。そういう部分が結構、目立つし、もしこれが崩壊した場合に、事故等につながるんじゃないかと思っております。

そういう箇所というのは、町のほうではどのくらいあるか、確認はできているのでしょうか。

【議長 山本 文男】

町長の答弁を許します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

そういう箇所は非常に多いというふうに認識をしております。

建設課のほうはその数とかはしっかりと確認していると思いますが、建設課のほうがいろいろな現場に行くときに見たり、そしてまた建設業者、いろいろな形で委託してますので、その報告、そしてまた町民の報告等を全て台帳に記載して、全部見てるといふふうに認識をしております。

報告の中で損害賠償ということで報告をさせていただきますが、道で、町道でも、こちらの不備で車が傷んだと、そして修理が要るといふことで、うちの保険を使って直すといふことで、議会の皆さんにこういうことがありましたという話になると。

また車の損傷だけならいいんですけど、これが命につながるということになると、非常に町の責任といふことで、本当に取返しのつかないことになる可能性が非常にあるといふことでありますので、そこ辺は建設課長以下、職員しっかりと認識していただいておりますので、その中で早急にやらなければならないこと、そして、簡単に応急処置といふかそういう部分に関しても適切に対処していきたいというふうに思っておりますので、そういう形でその危険箇所といひますか、そういう部分は把握してると、そういうふうに認識をしているところであります。

以上です。

【6番 川村 義幸】

議長。

【議長 山本 文男】

6番、川村 義幸議員。

【6番 川村 義幸】

本当はかなりあるんですよ。あちらこちら通ってみると危険場所が。

危険な場所の中でも、何とかコーンなんかで表示して「危ないですよ」という表示をしておる箇所もあれば、ない場所も目立つような気がしたんですよ。やはりそこら辺のところはきちっとやっていかないといけないのかなと思います。

そしてまた、この厳しい財政の中で修復するのも結構、厳しいのかなと思いますけども、先ほどから言いますように交通事故につながってからは本当、間に合わないのかなと思いますので、とにかく順番を得ながらになるかと思っておりますけども、交通量の多いところなんかは特に早くやってほしいなと思います。

また、こういうところに限ってほとんどが山間部なんですよ。こういう場所というのが。だから山間部の方たちは本当、夜でも帰る途中で事故でもあったら大変かなと思っておりますので、そこ辺の修復を考えて、どういうふうな考えで、どういふような順番で修復していくような考えがあるのであれば、ちょっとお聞きしたいと思っております。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

やはり救急に直さないといかん、そういう部分で建設課のほうがある程度、順位をつけて整理していると思いますので、そこ辺は建設課長のほうにお願いしたいと思います。

結局、維持補修で町道林道なんですけど、年平均、大体8,800万円くらい使っているということでもあります。これでも間に合わないということでもありますので、足しげく行って、その町民の方々からの聞き取り等をしてやっていく必要があると思っております。

ですので、時々やはり離れたところといいますか、そこ辺を走ってみると、やはり危ないなと感じるところがありますので、そこ辺まで目が届いてないというか、手が届いてないという気がしますので、しっかりと対応していきたいと思っております。

その優先順位という話ではありますが、建設課長のほうで答弁をさせますのでよろしくをお願いします。

【建設課長 林田 貴美生】

議長。

【議長 山本 文男】

建設課長。

【建設課長 林田 貴美生】

順位についてですが、まず、区長や町民の皆様から情報をいただいたものに関しましては、現地の調査を行っておりまして、建設課の中では要望受付処理簿を作成しまして、パソコンのほうで保存をし、情報の共有は職員と行っております。

それと、令和3年度に調整懇談会17地区行わせていただいたんですけども、その中で出たものも合わせて、現地を全部、踏査しまして、令和4年度に関しましては、例年は10か所くらいなんですけど、29か所予算要求をさせていただいて、緊急度があるところについては職員が現地に行つての目視点検によって整備を行いたいと思っております。

以上です。

【6番 川村 義幸】

議長。

【議長 山本 文男】

6番、川村 義幸議員。

【6番 川村 義幸】

ありがとうございます。ぜひとも早目に順番に取り組んでいただいたらありがたいなと思っております。

住民からのそういう連絡とかは十分に受け付けているということで安心しました

が、区長会とかでいろいろ出てくる分に関しては、本当によろしくお願ひしたいと思ひます。

昨年までいろいろと私のほうも直接、行って、こういうところ、ああいうところ、お願ひしたところを見てもらったり、やってもらったりしてるところはありがたいなと思ひておりますので、引き続き、よろしくお願ひしたいと思ひます。

あと、もう少し気になるのが最近、人口減少になりまして、集落の戸数がかなり減ってきてる集落というのがあるんですよね。昔10軒ほどあった集落でも、今行ってみると3軒とか2軒とか、ひどいところなんかもう1軒くらいしかないような集落もあります。そういう方たちの集落道路というか生活道路に関しては、自分たちで、今まで集落で一生懸命、管理してきた部分が戸数が減ったことによって管理が大変になってきたという意見を聞きます。

ここら辺の集落に対しての管理の援助というか、その辺はどういうふうにお願ひしますか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

確かに町が管理する道路、そして地域が管理する道路ということで分けておりますが、議員おっしゃるようにどんどんどんどん戸数も減り、そこにおける地区人口も減りということでなかなか管理が難しくなってきたと。

ですので、ボランティアというか、今までのような形をとっていただきたいというのは前提にあるんですが、やはりそれでも足りない部分が出てくるということで、少しやはり考え方を変えなければならぬかなというふうにお願ひしております。今まではできたことが、もう今はできないという現状が出てきておりますので、そこ辺をどういうふうにも維持管理していくのがベストなのかということをお願ひの中にも考えていきたいと思ひております。

議員がおっしゃるのは当たり前かなあというふうにお願ひするところでありますので、ボランティアといいますか、道路愛護デーといいますか、その日をしっかりと守っていただきながら、足りない部分を町が手助けをしていくという形がいいかなと思ひております。

極端に言えば、今度は公民館単位にこちらが補助金をやってというか、道路の清掃の、それで運営ができないとか、いろいろな考え方ができると思ひますので、どうしてもマンパワーが足りないということから、そういう部分を補うために何が必要かということをお願ひさせていただきますので、よろしくお願ひします。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【6番 川村 義幸】

議長。

【議長 山本 文男】

6番、川村 義幸議員。

【6番 川村 義幸】

本当、公民館単位の支援というか、それが一番いいのかなと思っております。

私の地区なんかでも、平成10年に帰ってきた当時は本当に何人もいて道路愛護デーでしっかりやってたんですけども、本当、最近、私の地区でさえも出てこれない状態が続いております。そういうことで、山間部は本当に1軒、2軒の方たちは大変だなあというのが目についておりますのでお伺いしたところであります。

特に、山間部に行きますと、道路もさることながら側溝ですよ、側溝に山の枯れ葉、砂利が落ちてきて側溝が詰まってしまって、台風時期はもう通るのが大変だよ、という話も聞いております。

その中で昨年、町道担当の方にお聞きしたところ、「地区の方にお金を出して、それでやってもらってる部分もありますよ」ということもありましたので、その辺はしっかりとやっていただきたいなあと考えております。

もう一つ、今度は和田地区の舟戸・ナバ田線間の町道についてお伺いしたいと思っております。

この町道に関しては、西郷村時代からの懸案でありまして、当時、西郷村時代に村政座談会ごとにお願いと、ちょこちょこちょここと舗装はしてもらっていたようであります。

ところが、あまりにもちょこちょこだったものですから、「これ、村政座談会のたんびに出さないとやってもらえないのか」ということを問いましたところ、当時の村長さんは、「それじゃあ分かりました。今後、計画をきちっと立てて全てをやります」というような返事をなされたみたいなんですけど、ちょっとそこは確信は取れていないんですけども、村の地区の人に聞いたらそんな返事でした。

ところが、「その後は全然、つながって行ってなくて、舗装ができないんですよ」ということです。この道路も結構、利用価値がある、舟戸からナバ田間の近道でもありますし、また栗園等の作業道としても使える道でもあります。また、災害時、八峡の方たちが災害に遭って抜け道がない場合、一応、レイクランドと和田方面とはあることはあるんですが、やはり数があったことに越したことはないと思うんですよ。

この辺の舗装整備は何とかならないか、ちょっとお考えがありましたらお聞きしたいと思っております。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

町道舟戸・ナバ田線ではありますが、今、議員がおっしゃいましたようなことはちょっと聞いてないというか、順次、改良していくとかそういうことは聞いておりませんでしたけど、もし、そういうことであったならば、保護にしているということかな

あとというふうに思っております。

それはそれとして、町道舟戸・ナバ田線は直接、町道と接続する人家はありませんので、栗生産者や山林管理者が主に利用する路線だと思われます。路線の状況は起点側の急峻な区間と終点側、約200メートルは舗装が施され、未舗装区間は町道維持管理により路面の補修等を行っている状況です。

このことは、平成24年11月に、当時の区長と地元議員より「町道舟戸・ナバ田線の生コン舗装の整備（特に悪い箇所のみ）」の要望が提出され、現地調査の結果として「当分の間は重機による路面補修で対応可能と判断されますので、生コン舗装は見合わせる」と回答しており、現在に至っております。

要望された部分的な生コン舗装事業には補助事業がなく、町の単独工事費となりますので、現在まで整備に充当した維持管理委託料の合計額と舗装要望区間の工事費を対比しまして、今後の整備の検討と地元の方々との立会も行いたいと考えております。

ですので、場所的といいますか、和田のほうに行く道そしてレイクランドのほうにつながる道、それとこの真ん中を通るこの舟戸・ナバ田線でありますので、これをしっかりしたほうがいいに越したことはないと思っておりますが、所有者とかいろいろな人たちともっと話して、何回か通って見たんですけど狭いところもあるということであります。起点側と終点側はある程度、しっかりと舗装はされておりますけれども、中が全然、されてないと。そのくぼみとかそういうのは重機での補修という形になっておりますが、それでいいのかどうかと。

もし町道ということでもありますので、しっかりと整備をせえということなら、何かいい方法を、単費というより何かいいものがないかという部分で考えていったほうが有利ということでもありますので、もう一回、しっかりとした調査をしながら、その八峽と舟戸、そこばっかしではありませんけど、そういう人たちと意見交換しながら、どういう形が一番いいのかという部分を探ってまいりたいと、そういうふうに思います。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【6番 川村 義幸】

議長。

【議長 山本 文男】

6番、川村 義幸議員。

【6番 川村 義幸】

本当に民家から民家というわけでもないんですけども、必要は必要な道路だということも聞いております。

それと、途中で生コンで途中、補修したということなんですが、この生コンの補修が本当、生コン、ぶっちゃけてさらさらとならしたというような補修がやっである状態で、本当あれで補修になってたのかなという気がいたしております。

それで、町民からも、「あの舗装は生コンをただひっくり返したただけじゃとよね」というような話も聞いておりますので、その辺どうなのかと思っております。

その前の西郷村時代のことは、前の議員さんでもあった方からもこういう「あれ

は俺達の時にできなかった。何とかならんか」という話を聞いておりましたので、よろしくお願ひしたいなあとお願ひしております。

村の方にも何人かは聞いております。やはりこれを整備していただけるとありがたいなということになっておりますので、どうか前向きに取り組んでいただいて、何とか村の人たちのためになるような道路にさせていただけたらなとお願ひしておりますのでよろしくお願ひをしておきたいと思ひます。

以上で、私の質問を終わります。

【議長 山本 文男】

これで、6番 川村 義幸議員の質問を終わります。

【議長 山本 文男】

ここで、10分間の休憩とします。

10時50分からの再開とします。

(休憩：午前10時40分)

(再開：午前10時50分)

【議長 山本 文男】

休憩前に引き続き、一般質問を再開します。

次に、9番、甲斐 秀徳議員の登壇を許し、1問目の発言を許可します。

【9番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 山本 文男】

9番、甲斐 秀徳議員。

【9番 甲斐 秀徳】

皆さん、こんにちは。今回は、中山間地問題を取り上げました。多くの問題のほんの一角ではありますが、問題解決が町民のためになることを願っています。

今回、3年連続全国米の食味ランキングにおいて特Aを取ることができました。これもひとえに皆様のおかげだと深く感謝を申し上げます。また、稲作農家にとりましてこの上ない喜びと励みになることは間違いないというふうに思っております。

しかし、「コロナ禍で飲食店、ホテルでの需要が少なく、また一般消費も低迷状態にある」と、農協より説明がありました。農家が消費者等の取り引きは変化がないが、全国的に米の在庫を抱え、倉庫保管料が多額になり困っているのが現状だということをお願ひしております。

昨日、普及所の話では、今年より当町の圃場が変わり、当然、作り方も変わってくるということでございます。連続3回特Aを受賞いたしました農家に対しまして、町からの感謝状の贈呈をお願ひできないかなというふうに思っております。それに値するようなことをやって美郷町の中山間地農業への貢献をしたと思ひますので、よろしく取り計らいをお願ひしたいというふうに思ひます。

特A受賞に至るまで数年間、この方も「A⁺」「A」「特A」という段階を取って

いた経緯があります。しかし、誰もがこの対象にはなれません。まずは圃場の事前検定を受けなければ審査対象にならないそうです。

今回は、同じく中山間地域として高千穂町も応募しているということですので、今後の動向を注視していく必要があります。特Aについては、那須議員が明日、質問いたしますのであまり詳しくは申し上げません。

それでは、私の持ち時間がなくなりますので、質問に入りたいというふうに思っております。

①買物弱者について、お伺いいたします。

交通弱者、つまり交通手段の足がない人が多くなってきており、買物も行けないのが現状であります。

一方、訪問販売に行っていた方も高齢化し運転に疑問を感じ廃業をせざるを得ない状況でございます。子供が実家に帰省時にある程度のものは買って、帰ってくるが、卵や生鮮食料品は期限があり、これなどが買物の悩みの種だそうでございます。

以前、販売者が安否確認を兼ねての販売で、双方によりとても良かったというふうに伺っています。

このような買物弱者を今後どのようにするかを町長にお伺いいたします。

【議長 山本 文男】

町長の答弁を許します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

特Aの話が出てきましたので、通告外かなあとと思ってひやひやしておりましたが、議員、JA日向ひむか米振興協議会の会長だと聞いておりますので、一緒にそこ辺は頑張っていきたいというふうに思っております。

それでは、先ほどの質問であります。現在、商工会を通じて、町内4つの事業者を買物が困難と思われる独居高齢者等の見守りを兼ねての訪問販売を委託しているところでございますが、委託業者自身の高齢化や後継者不足、また、委託業者が町内全域をカバーし切れないことなどにより、今後の事業継続の見通しが立たず、見守りも限定的であることが課題として残っております。

このような状況を踏まえまして、町では、商工会に委託業者の訪問範囲の拡大などのお願いや、県の事業を併用して新規の移動販売事業者のための車両購入等補助金の整備をして募集を行っているところでありますが、応募者もなく現状の打開には至っておりません。

そのほか、広域スーパー事業者に移動販売参入への打診をしているところですが、良い返事をいただいております。

一方で、町外から複数の事業者が町内各地で移動販売を行っていたり、生協などの共同購入やネットスーパーによる宅配サービスなど、多様な買い物サービスの利用機会が増えてきております。また、全国の過疎地では、地域住民が主体となって買い物代行や自家有償旅客運送を行う事例が増加しているところであります。

こういった中で、まずは、本町における高齢者を中心としたいわゆる「買物弱者」と呼ばれる方々の困り具合や必要な支援などの買物環境についての状況把握が重要であると思いますので、今後、福祉部門と連携し、総合的に高齢者対策を討する上での基礎資料としてのアンケート調査の実施に向けて調整をまいります。

その上で、現在の事業にかかわらず、地域の実情に最も適した持続可能な買物弱者支援対策の再構築を目指してまいります。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【9番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 山本 文男】

9番、甲斐 秀徳議員。

【9番 甲斐 秀徳】

町としてはいろいろな施策を考えているということでございます。商工会もこれは一緒になってやらないと進んでいかない事業ではないかなというふうには思っております。

ただやはり双方共高齢化になっておりますので、なかなか厳しい状況には変わりはないというふうには思っております。

先ほど言われましたように、車両の補助までして見つけたいというんですけれども、やはりなかなかそういうのも飛びついてこないというのが現状かなあと思っております。いろいろな販売の方法が、若い人たちだったらあると思うんですね。ネット販売だとかいろいろなものを利用してできると思うんですけれども、やはり高齢者外の方々はそこまでできませんから、できたら一番いいのはパンフレットか何かを事前に配っておいて、何番と何番を何個欲しいとかそういう何か簡単なという、ネット販売じゃないけどもパンフレット販売というものを、できたらAコープ辺りがまとめ買いしたりいろいろなところの業者がやるとか、そういう状況は考えられないでしょうか。お伺いいたします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

その方法なんですけど、結局、どういう形が一番ベストなのかという話になります。買物弱者に対して、利用する人たちがどのような考え方をしているのかをやはりしっかりと把握した上での行政側からの提供という形をしっかりとつくっていきたいなあというふうに思うところであります。

もう一つの地区別定住戦略なんですけど、その地域、地域がやはり考えてほしい

という部分も、これも1つあります。ですので、地区別定住戦略の会議に出ていくと、やはりそういうことも結構、出てきます。それをどういう形で具現化していくかという話になってきますので、そこ辺を地域の方々がどう考えるかと。そしてそれを今後は行政がどう手出していくかということをしつかりと考えてやっていきたいと。それをつないで、美郷町の高齢者、独居老人等に見守りも兼ねたそういう提供ができないかということが今後、必要になってくるということでもあります。そういう話の中でしつかりと見ていきたいと。

また、商工会のお店に限らず、例えば、こういう事業を受けてもらえませんかという話で、美郷町全域の方に、早く言えば移動販売をしてもらえないでしょうかという話をすると出てくる可能性もあるのではなかろうかと思しますので、やはりそこだけという話じゃなくて、広く間口を構えて募集していく必要もあろうかと、そういうふうと思うところでもあります。ですので、いろいろな手を使って困らないようにという話の中で、しつかりとしていきたいと。

あと1つは、やはりバスだと思います。結局、自分で買物ができるほうが一番いいわけですので、やはりコミュニティバスの有効利用というか、それをしつかりとした中で、病院をつなぎ、また買物もできるようなそういう形にしていければ、やはり自分で行って自分の目で見て、自分でお金を払って帰ってくるということはやはり長生きの秘訣にもなってくると思いますので、いろいろな考え方を複層させてやっていきたいなというふうには思うところでもあります。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【9番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 山本 文男】

9番、甲斐 秀徳議員。

【9番 甲斐 秀徳】

今、町長が言われたようにいろいろな方に提案をして、そういう方を探すということも1つの案だろうと思います。

また、協力隊の方々も何か利用してそういうものができんかなあというふうな感じもしておりますけど、彼らも若い人たちが多から、またいろいろな考えを持ってやっていただけるかなあというふうにも思いますので、そういう方々もちょっと利用してはどうかあというふうにも思います。

それから先ほど言われましたコミュニティバスの件なんですけど、ある方から言われたんですけど、「昔は病院バスが出ているときは、その医療中にAコープ辺りに買物に行って、帰ってきてても時間が十分に余裕があった」という話です。「今はバスで来ても余裕がないもんだから、買物もできんとよね」という話を聞きました。

こういう人たちのほうが町長が言われたように、それも検討していただけるなら、コミュニティバスの待ち時間、それか逆に終わった段階でAコープに30分なら30分と限定でもいいですけど、そういう活用の方法を考えてもらうというわけにはいかんかなあというふうにも思いますけども、その点についてはどんなでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

そういう時間の配慮というか、それも1つはあるかなあと。多分、議員おっしゃるのは以前の患者輸送バスのときの時代かなあとということで、これが西郷区だけだったという話の中で、非常に不公平じゃないかという話の中で路線を。その患者輸送バスを廃止してこういう形に組み替えたという経緯があります。

「病院を主に」ということで、病院の時間というか診察時間が長かったり短かったり、そのときの患者数にもよるんでしょうけど、なかなかうまく組めないという部分もあります。ですので、そこ辺がやはり一番ネックかなあとというふうに思っておりますので、もう少しこのコミュニティバス、結局、市町村間をつなぐ幹線系統の路線バスとの兼ね合いも出てきたりいろいろあるんですが、もうそこ辺をしっかりと考えながら、そういうことが本当に余裕的に取れるのか、時間的に取れるのかという部分で考えていきたいと思っております。

ですので、今、3系統、南郷からこちらまで入れるとコミュニティバス4系統になりますけど、そこ辺をもう一回、利用者にこれでいいのかという部分を聞きながら、これはやはりいい方向に対処する必要はあると考えておりますので、そのようにしていきたいと思っております。

できれば、そういう時間がしっかりと取ればなおいいというふうには思っておりますが、なかなか実際、そういう具合にはならない部分もあるということも御了解いただきたいと思っております。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【9番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 山本 文男】

9番、甲斐 秀徳議員。

【9番 甲斐 秀徳】

そういうふうにもいろいろな策をとって、やはり買物弱者を助けてやるのと、その安否確認も兼ねておりますので、ひとつそういうことをよろしくお願いを申し上げます。

今、販売業者への補助金はやってると思うんですが、今すごく燃料代が高騰しておりますね。そういうところの分も含めて、今後もしそういう販売業者が発生した場合、そういう場合は燃料代までの支給はできるかどうかということをお伺いしたいです。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

そういうことも含めてその時、その時の情勢等々を鑑みてやっていく必要はあるかなというふうに思っております。

それぞれ南郷、西郷、北郷、事業者していただいているんですけど、それに支払う額というのが非常に少ないと。こちらで把握してるのが、南郷が対象者が38名ということで、令和2年度の支払いですが48万8,200円程度。西郷が2か所ありまして1か所は3名ということで年間4万2,600円、もう一つが14名ということで6万6,800円と。北郷が38名ということで59万9,000円を支払っているということでもあります。

ですが、これを本当に収支を見たときにどうなってるのかというのは、私は見たことがありませんで分かりませんが、結局、物を売る、そうするとこちらの補助は200円くらいだと思んですけど、それで本当にやっていけるのかという話になると、厳しいということでもあります。

ですので、抜本的にやはりそういう部分を含めた中で、先ほど言いましたように商工会の会員だけじゃなくて一般的に町内のこういうことをしていただけないでしょうかということと、1件当たりこんげしてなりますがという話ですれば、ある程度、社会貢献という1つのボランティア的な考え方をする方々もいると思いますので、そういうふうに甘えたらいけませんけど、やはりみんなの力を結集して、美郷町をつくっていくということには問題なかろうと思っておりますので、そういう方向でやはり考えていく必要があると。

ですので、やはり補助金といいますか、それに対してのお金という部分をそういう諸般の事情といいますか、そういうものも考慮しなければならないというふうには思っております。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【9番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 山本 文男】

9番、甲斐 秀徳議員。

【9番 甲斐 秀徳】

南郷、北郷辺りはすごく事業所が多いんじゃないかなというふうに思っております。できたら、その方々が越境じゃないけども、こちらの西郷辺りのところまで来てやっていただけたら非常にありがたいかなというふうには思んですけど、そこ

のところはどういうふうと思うかなというのが1つ。

昔はやはり例えば、魚屋さんは魚屋さんとか、肉屋さんは肉屋さんというような形で来られてたと思うんですね。野菜屋さんとか。もう今はなかなかそういう方も高齢化で、ちょっと来ているのを見たことないなという気がしてるんですが、できたらそういう昔のようなそういう訪問販売業者というのが数多く日向辺りからも上がってきてたんでしょうけど、そういう方々もなかなかなくなってきたような状況ですので、できましたら、さっき言ったように南郷、北郷の業者さん辺りが西郷辺りまでカバーしていただけると非常にありがたいんですけど、その点についてはどんなんでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

もし「いいですよ」という話になれば、それでもいいのかなというふうには思うところがあります。現に西郷の場合は、今度の3月いっぱいでもう辞めると、高齢になって。多分、お分かりでしょうけど、やはりそれをする事のほう危険まではないかもしれませんが運転が非常におぼつかなくなっておりますので、そういう人に委託しているということ自体がおかしкаろうという判断もしますので、そういうことを兼ねたときに、南郷と北郷の今やっている人たちが「いいですよ」という話なら、また別だと思っております。

ですが、やはり広く門戸を広げて募集してもいいというふうには思うし、そしてまた一番いいのは自分たちでコミュニティバスを利用して、そこの商店に行って、自分で見て自分でお金を払って、帰ってくるという形が本当に理想だと思っておりますので、やはり理想とそういう違う部分がありますので、それを使い分けながらやっていく必要があると。ですのでこれはやはり二段構えでやる必要があるのかなという気はしております。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【9番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 山本 文男】

9番、甲斐 秀徳議員。

【9番 甲斐 秀徳】

町長が言わんとすることもよく分かりますが、やはり今までの西郷の。私がずっと話してるのは西郷のことが多いですけども。病院に来るバスがあったから、昔は「ついで」というのが多かったんですね。だからその中のが今まで引き継がれているような形があると思うんですね。その「ついで」をうまく利用して、だから時

間の延長とかバスの延長をうまく、今後、考えていただければ、ある程度の解決につながるんじゃないかなというふうに思いますので、そういうことでよろしくお願いを申し上げたいと思います。

それから、2番目の道路整備についてに入りたいと思います。

これは先ほど、川村 義幸議員が言われたので、あまり突っ込むところはないんですけど、若干、私なりに聞いてみたいと思います。

先ほど言われたとおりなんですけど、町道があり集落間をつなぐ重要な生活道であります。居住者の減少により住民による生活道の維持管理が困難となっている現状であります。先ほど言われたように、側溝に落ち葉がたまり側溝がどこか分からないような道路があるところもあります。

また、獣害により高いところからイノシシとかシカが通ったときに石を落として、その下に落ちているというような状況が見られます。こんげなところが多く見られますので、これについて再度、見解をお願いしたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

この落石関係なんですけど、その対策につきましては、要請の都度、対応を行っておりますが、路面整備翌日には新たな落石が確認されるなど苦慮している状況であります。

対策は従前から行っている軽量で運搬・施工が容易、人力で設置ができる鋼製メッキ柵や仮設用コンクリート防護柵の設置が有効であると考えております。

それぞれの設置についてはのり面の高さで使い分けをしており、のり尻での土砂や落石流出防止を目的に設置しておりますが、数に限りがあるため、令和4年度も継続して予算を計上しておるところであります。

側溝の落ち葉や土砂溜まりについては、雨季前に道路災害の防止を目的として、側溝の落ち葉や堆積土の除去を行っており、冬場の落ち葉の除去に対しても要望の都度、対応を行っておりますが、強風のたびに堆積するため苦慮している状況であります。

また、町民の皆様による道路愛護作業を町全体で行っていただいております。道路に関する認識を深めていただくとともに、道路愛護作業の推進を図り、道路を常に美しく安全に利用する気運を高めていただいております。

落ち葉に対する画期的な対策はありませんが、落石や土砂の流出防止を兼ねた鋼製メッキ柵を併用するなど、現在の維持管理方式や道路愛護作業を継続しながら管理のコスト縮減に努め、要請に対応していくこととしております。

今後、本町においても公民館単位で道路の維持管理が行えないか調査をしたいと考えております。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【 9 番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 山本 文男】

9 番、甲斐 秀徳議員。

【 9 番 甲斐 秀徳】

先ほども川村議員が言われたとおり、やはり非常に厳しい状況が続いていると思います。昔、いろいろな集落間で日を決めてやっていたような状況だろうと思うんですけども、もうあんなにいた集落が1軒とか、日向から通っている人が1軒とか、そういう状況ですので、やはりなかなか維持管理していくのが非常に大変だなというふうに思っておりますので、どうかしていただきたいと。

一番私が中区、上区辺りに行って見かけたのが、フェンスを、30センチか50センチくらいのを道路脇にずっと立てて、それで落石防止も兼ね、それから落ち葉も兼ねているというような状況がありますので、これをどんどん増やしていただけたら非常にありがたいなというふうに思っております。

それから、自然落石ですが、イノシシやシカが通行するときに故意に落とすのか分からないんですけども、今のところ人身事故や一般の破損などはなかったかなというふうに思っておりますけども、こんな場合のときはどんな。やはり車のような保険で処理していくのでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

因果関係がはっきりして町の管理が悪いということになれば、総合賠償責任保険の中でやっていくしかないのかなというふうに思っております。

そうならないほうがいいに越したことはありませんけど、今、本当にどちら、自然落石なのか、それとも鳥獣の技なのかということ、どちらかと言うと後のほうかなあというふうに思っておるところでもあります。

ですので、いずれにせよ石が落ちてくるという危ない箇所はそういうもので食い止めるというか、それをしていくと。予算的に徐々に増やしながら対応していかざるを得ないと。どうしても危ないところは、もう工事をするしかないという話になってくるんでしょうが、そういう方法で対処するしかないのかなというふうには思うところでもあります。ですので、町民の安全安心を守っていくためには、やはり何等かの策をとって、どこまですればいいかという話は置いて、そういう安全対策をしっかりとって維持管理をしていく必要があると、そういうふうに思います。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【9番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 山本 文男】

9番、甲斐 秀徳議員。

【9番 甲斐 秀徳】

そういうもののパトロールというのは定期的にやってるんでしょうか、それとも住民からの依頼か区長からの依頼かどっちか分からないんですけど、そういうことに対してはどういうふうに対処しているんでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

先ほども課長が申しましたように、いろいろな形で、現場に行ったときに見てまわるとかそういう部分、それとやはり地域の町民の方々の報告ということで、しっかりと見てるといことであります。

私は、よく建設課の職員に、「同じ道を帰ってくるな」という話をしています。それと、「極力、国道道は通って帰るな」という話です。どうしてもそこを通らんと帰れない部分もありますが、やはり「町道、林道をできるだけ通って、帰ってこい」という話で、そのときにやはりいろいろなことに気づきがあるということだと思っていますので、そういうふうには課長等には指示をしておるところです。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【9番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 山本 文男】

9番、甲斐 秀徳議員。

【9番 甲斐 秀徳】

私が特に気づいた路線といえば谷内線なんですけども、谷内線は住民の方々も今、5軒くらいしかないんですけど、その上にブロイラーのバルク車が相当、走っているんですけども、それでもやはり道路脇にはいっぱい石が落ちていてというようなことで非常に危ないなというふうにはいつも思っておるところでございまして、今後も気をつけていただきたいなというふうに思っております。

それから、西の八峽線なんですけども、ここも、これはもう完全に獣だろうと思いませんけども、イノシシだろうと思うんですけど、相当数の最初から上の人家に近いと

ころまで落ちてるといふような状況でございます。あそこにも2軒か、3軒しかないもんですから、やはりこれじゃあもうどうしようも、女性の方ばかりで、高齢者の方とか、下に若い方がいますけれども、やはりそういうところの兼ねたときには、ある程度の定期的な点検というような形をお願いをしておきたいと思っております。

今年の予算的には道路維持管理費が1,200万円、それから道路の除草作業が1,300万円ということで上がっております。林道の維持管理費は2,600万円ほどついておりますが、この金で及びつかないときにはどういうふうな対処をするのかなど、併せてお聞きしたいと思っております。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

そのお金で全部できるかという話になると、「できない」ということであります。

ですので、そのときに本当に悪い場所が出てくる、いろいろな形で出てくるときには、また皆様議員にお願いして、補正等で対処せざるを得ないというふうに思っております。

ときどき谷内線も入っていますが、やはり悪いと。いろいろな要因はあるんですけど、道ですので誰が通ってもいいわけですが、誰のせいにするわけにもいかないということで、谷内線それと北郷でいえば中崎線かなと思っております。それと南郷でいえば安蔵のほうに行く道なんですけど、やはりどうしてもオーバーレイとかそういうのが目につくという気がしておりますので、やはりそこ辺をしっかりとやっていく必要があるかなと思っております。

ですので、この維持費だけでは不足するということは予想されますので、そのときには補正等を行って御了解をいただきたいと、そういうふうには思っております。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【9番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 山本 文男】

9番、甲斐 秀徳議員。

【9番 甲斐 秀徳】

先ほど、町長が令和3年度の管理だけで8,800万円使用したというふうに言っておりますので、相当の額の金が出てるということでありますので、今年もそれくらいまた行くかなという気もしておりますので、このところうまく、ある程度、住民がいるところは住民に補助を出してやって、それを積極的に進めていくような

形もとれたらいいんじゃないかなというふうに思っておりますので、そういうことで道路の維持管理をよろしくお願ひしたいというふうに思います。

次に、産業振興について伺います。

この問題は、1時間2時間あっても足りないくらいなんです、今回は重複しているところが多いので、それを割愛して、6次産業、それにつながる諸問題を含めて質問をしたいと思ひます。

日に日に寒さも和らいできました。この冬場に町民は大変、忙しい毎日でございます。杉の搬出作業等、山もさま変わりしております。同時に、杉苗業者も出荷で忙しいようでございます。この後にすぐ、杉苗の仕立てが始まりますので、またこれで忙しいというような状況でございます。

一方、キンカン農家はほぼ大方ピークを過ぎておりますが、まだ若干残りがあり、収穫に忙しいところもあるみたいです。

選果場も、そのためにフル稼働をしております。農家、選果場共に多くの雇用があります。栗においては選定作業と家族総出で対応しているような状況でございます。また、シイタケ農家も種ゴマ打ち等にまさに休む暇がないほどやっているような感じでございます。ミニトマトの出荷も順調のようでございます。シキミはしもやけなどがあり若干、休んでおりましたが、また今、回復して若干ながら忙しくなっているような感じもしております。

西郷は今、このような大変、忙しい時期が重なり人手不足などの問題が発生をしております。

このような状況をどのように捉えているかをお聞かせください。

【町長 田中 秀俊】
議長。

【議長 山本 文男】
町長。

【町長 田中 秀俊】

確かに本当に我が町を取り囲むというか、そういう諸問題はそこに尽きていくということでもあります。本当に1次産業をしっかりと守るためには、やはり後継者が必要であり担い手が必要だと。それに対するいろいろな町の補助、そして県の補助、国の補助というものを抱き合わせて、しっかりとした中でそういう若い人たちの就農を支援していくということで頑張っているところでありますが、なかなか難しいということでもあります。

キンカンを例にとると、30軒くらいありますので、そこに5人雇えば150人要るということでもあります。そして選果場に50人要るといえば200人要るということでもあります。一時期に200人集められるかという話をすると、非常に厳しいと。

そしてまた、去年、来ていただいた方が1年すると、非常に、「どこそこが痛くなってちょっと来れない」という状況が出てきてると。そういう状況でありますので、それをどういう形でクリアしていくかということが今後、非常に重要な課題になってくると。

かてて加えて高齢化すると、園をそのままにするわけにもいきませんので、それぞれの部会でビジョンをつくっておりますので、その事業承継という部分も出てき

ます。

ですので、そういう部分を織り交ぜながら、やはりしっかりとした経営状態をつくり上げていくという形が町に課せられた問題かなあと考えておりますので、今後そういうことを考えたときに、やはり美郷町だけで見ると人材不足というのは明らかでありますので、これをやはり日向市とかそこ辺まで広げた中で、周期的にこちらのほうに来ていただけないかと。それを一番考えたのが、日向農協のJAファームという部分を、ここでどうにかできないかということで喧々諤々やったんですが、なかなかやはり採算ベースに乗らないという話でありますので断念してきたというところであります。

これをやはり克服しない限りは、次の農林業といいますか、うちの1次産業がしっかりと成長しないと。せっかくここまでみんなが若い人たちを含めて頑張っ、せっかくお金になる施設園芸等々をつくり上げていただきましたので、これを後世にといいいますか、持続可能な形にしておいて事業承継ができていくということが本町の発展にもつながろうかと思っておりますので、また皆さんの考え方をお聞きしながら頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【9番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 山本 文男】

9番、甲斐 秀徳議員。

【9番 甲斐 秀徳】

今、町長が申したとおりやはり人手不足というのが非常に問題じゃないかなあというふうに思っております。

今のキンカンの手助けに来てくれる人たちが日向から来たり、東郷、諸塚、いろいろなところから今、来てもらっております。おまけに選果場は南郷の方が大部分を占めております。そういう状況を、うちの議員さんたちもみんな見ていただくと、非常にはっきりするんじゃないかと思っておりますので、暇のある方は議員さん方は、こういう状況というものを把握していただくと、非常にありがたいかなというふうに思っております。

今後、こういう状況をいろいろな諸問題があります。今の農家の一番の問題は、ハウス暖房の燃料が高騰しているということで、これが相当なダメージを受けているところもあると思うのですが、これについてお伺いしたいと思っております。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

実態把握はしておりませんので、1回、担当に調査させたいと思っております。

結局、どこでという部分が非常に難しいんですけど、どこ部分、結局、ガソリンも一緒なんですけど、国がこれだけ出しますよという話で、どこで重油を、単価を切るかという部分が難しいかなあというふうに思っておりますが。

以前、やはりそういう部分があったときに、燃油高騰のときに出した経緯がありますので、そういう施設園芸で本当にコストがかかってきているということは優に予想されますので、その中で実態を把握して、その分の補助が出せればこちらのほうで対応をしていきたいと思っております。

本当にこの燃油高騰という部分と、あとは温度変化ということになります。幾ら高くても、「暑い」と言ったら御幣がありますけど、それが何度に設定してどれだけ炊いたかという結果でありますので、ある程度、燃油が高くなったけど、そんなに消費してないよという話になれば、出す必要もないのかなと。そこは実態を見なければ分からないということですので、調査をさせていただきます。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【9番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 山本 文男】

9番、甲斐 秀徳議員。

【9番 甲斐 秀徳】

物の考え方というかやり方によってはすごく省力化になって鳥の巣のミニトマト農家の方は月30万円から40万円を抑えることができたというようなやり方をしております。そういうところも勉強して、そういうことを調べていただければありがたいかなというふうに思っておりますので、今後、参考にさせていただければというふうに思っております。

キンカン農家、それからちょうど今、ミニトマトの農家が相当な燃料使用をしておりますので、それを含めて農家の負担にならないような形をとっていただければ非常にありがたいかなというふうに思っております。

それから、ふるさと納税の件なんですけど、今後そういう6次産業に当たってふるさと納税も進めていくだろうと思うんですが、ふるさと納税を進めるに当たって今年の目標と課題は何か。ついでに目標額がありましたら、そのところをお知らせお願いしたいと思っております。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

ふるさと納税については、昨日、何か間違って1,000円のものを1円で書いて

たらえらいな殺到したと。何かおかしいなと思って調べたら、1円を出してたという話がありました。

うちとしては、ふるさと納税、結局、自主財源にできるということですが、この納税制度は問題があるにせよ、やはりそれを認められているということであれば大いに活用していきたいと。

前も言うように、結局、交付税の目減り分6億円という部分があります。6億円を稼ぐためには、これ4割くらいの形になってきますので、10億円稼いだときに4億円しか残らないという話になりますので、20億円稼いだときに8億円、4割自主財源として残った場合なんですけど。

そうすると、20億円稼げば8億円という形になりますので、交付税の目減り分を合併当初から考えたときに取り返せるということではありますが、本当にこの20億円ができるのかという話になります。

ですので、令和2年度で行けば5億円弱ということでもありますので、やはり一遍にはそこには行かないということで、私になったときに800万円程度、900万円弱でしたので、政策推進室をつくって、これにちょっと特化させたという部分の1つは実績かなあというふうには思うところではありますが、やはり取りあえず10億円を目指したいということでもあります。

10億円を目指すためには、それこそ6次産業化というものが非常にくっついてきます。いいものはいい、例えば、キンカンのエクセレントで出せる部分が非常に多ければこれはこれでいいんですけど、やはりそれを利用して今度は付加価値をつけていく。栗でもそうなんですけど、シイタケでも何でもそうなんですけど、やはり付加価値をつけて製品にして、高くで売っていくということになると、物を作っていく6次産業化が必要になってくるという話の中で、その製品を作っていくためにも6次産業化は必要だということで整理しておりますので、ふるさと納税がいつまで続く制度かは分かりませんので、これがコケても違う形で美郷町のものはいいという形を勝ち取っておくべきだというふうに思っておりますので、そういう方向で進めたいと。

取りあえず、「取りあえず」じゃありませんけど、10億円稼げればいいかなあと思っておるところです。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【9番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 山本 文男】

9番、甲斐 秀徳議員。

【9番 甲斐 秀徳】

今までのふるさと納税の主流というのは、やはりブロイラーか牛肉だろうと思うんですけど、その加工の、こちらで作っている例えば、栗とかキンカン辺りの加工品とかそういうものについてはどんなでしょうか。今までどおりやはり肉関係が主流になってくるんでしょうか、そこをお伺いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

やはりどこの市町村でもそうなんですけど、見るとやはりどうしても肉が一番比重が高いということでもあります。

ふるさと納税は物ばっかしでもないという気がしています。「ここの山をこういう形でしますので、カーボンオフセットでやりますので皆さん、寄附してくださいね」という話もできるんです。

です。物ばっかし売ろうとするからそういうことになってくるということでもありますので、美郷町の良さを、その物とそういう環境というか、「こういうことで使いたいふるさと納税どうでしょうかね」という話をして全然、おかしくない私は考えております。何かこう、ふるさと納税といったら物を作って、それを買ってもらって、それが税収になると。税収といいますか寄附金になるという話で組み立ってますけど、私は、もう一つ本来の意味はそちらのほうかなというふうにも考えるところでもありますので、やはりそこ辺もちょっと担当課と話しながら、やはり今こそいろいろな形で知恵を出すときかなあというふうに思っておるところであります。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【9番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 山本 文男】

9番、甲斐 秀徳議員。

【9番 甲斐 秀徳】

都農町がやはりそんな感じだったから、そんなものかなとは思ったんですけども、できたらやはり美郷町産の栗とかキンカンとかその他いろいろなものがあると思いますので、そういうものを基にして、どっちもウィンウィンになるような形が一番ベターなんですけど、なかなかそうはいかないんでしょうけども、でき得る限りそういうふうにならばいいなというふうに思います。

以前、地域おこし協力隊を1人雇用して加工施設に勤めてもらうという形があったと思うんですが、その件はその後、その方の活動はどういうふうになって、新製品か何かはできているのかということをお伺いしたいんですけど。

【政策推進室長 沖田 修一】

議長。

【議長 山本 文男】

政策推進室長。

【政策推進室長 沖田 修一】

新商品の試作はしてるんですけど、実際に販売までは至ってはないということです。

一応、2名の方を雇用してるんですけども、1名の方につきましてはちょっと将来が見えないということで退職を考えているようでございます。まだ正式な、こちらに申し出はないんですけども。という状態です。

以上です。

【9番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 山本 文男】

9番、甲斐 秀徳議員。

【9番 甲斐 秀徳】

ちょっと残念なことでございますけども、頑張っていたきたいなというふうに思っております。

この頃、新聞にも載っておりました「美郷産キンカン商品限定」という形で出ておりましたが、6日までで町内4店舗で販売という形ですけど、やはりこういうものを何か積極的に取り組んでいただければいいかなあというふうに思ったんですけども、そこまでいかんのかなあと思って。

栗餡のところでは聞いたら、新製品で渋皮ぜんざいというのが出ているとあったんですけど、今後、そういうことが大いに進んでいただければ、結構何かいい値段で売れているという形でだったんですけど、これについてはどんなですか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

それぞれのところでそういうことで頑張っていたいでいるということは本当にありがたいかなと思っております。

今度の土曜日ですかね、みさフェス2022がありますので、その中でぜんざいも出していただくという話で認識してるんですが、私は食べたことはありませんので、ぜひ食べて、どういうものかと。

結局、いいものは売れていく時代でありますので、そういうことでどんどんどんどん作っていただいて、ちょっとずつ美郷町、「ちょっとずつ」と言いますか、結構、変わってきたんではなかろうかと、私は認識しておりますので、もう少しみんなと頑張れば、大きな壁が崩れていくかなあ、そして明るい未来があるというふうに

思っておりますので、そう考えております。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【9番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 山本 文男】

9番、甲斐 秀徳議員。

【9番 甲斐 秀徳】

中山間地の中で地産で取り扱ったお菓子屋が数軒あります。一生懸命、頑張っておりますので、今後こういうものも応援して6次産業いろいろなものに消費拡大につなげてほしいなというふうに考えております。

その中で、耕作放棄地やら獣害があったんですけども、これは中嶋議員が次に質問すると思いますので、これは省略したいというふうに思います。

それでは、時間がちょっと迫ってまいりましたので次に行きたいと思います。

病院へのアクセス用のバスについてですけれども、以前は西郷村時代は病院バスというものがありましたけど、今はコミュニティバスを利用して病院へ来られる方がいらっしゃいます。朝夕の順番取りも西郷の方に依頼して、そこで受付をしているような感じがいたします。

西郷病院から上渡川まで32.7キロ、それから南郷支所まで19.8キロ、病院から小黒木まで25キロと。それから北郷支所は9キロということでございますが、西郷の一番境ですけれども、椎葉と西郷との境のところの持田長崎までが31キロあります。

そこで、渡川と大体、同じ距離なんですけれども、この国道は以前から中区、上区の方は救急搬送先は諸塚村ですね。そういう中でやっております。数年前までバスで来て、週に2回ほど来てて、いろいろ諸問題があって今なくなったというような話で、先ほど町長が言ったとおりなんです。

西郷村時代より今まで、病院に対して、通院バスも含めてですけど、何か問題点か何かあったことはありますか。それについて、お伺いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

役場時代、そしてこういう職について、医療関係の仕事をしたことがそんなにありませんので何とも言えませんけれども、何か大きな問題が発生したかという話でくくってみますと、そんなにそういうことは起こってないというふうに、旧西郷村時代の話で言えば、私はそういうふうには認識をしております。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【9番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 山本 文男】

9番、甲斐 秀徳議員。

【9番 甲斐 秀徳】

私も西郷村時代の文教厚生委員でしたので、医療関係についてよく審議しましたが、私がやはりその時代の委員会するときにも、病院関係は、昔から医療税は高いというのはもうずっとだったんですけども、そのほかに関して病院がどうのこうのという地域の方々からの苦情もなかったし、バスについてもなかったしと、私はそういう認識でおったから、今いろいろな問題を抱えているというのがちょっと不思議ではないんですけども。そういう病院の在り方について議論するのはまた別としても、今後、考えていかないといかんというふうに思っております。

全体を見回しますと、今後、町長全体の通院用のバスを兼ねたコミュニティバスの在り方について、再度、町長にお伺いしたいと思っております。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

先ほども言いましたように、やはり利用者にどういう形態が一番いいのか、どういふところを時間を多くしてほしいのかと、そういう部分をしっかりと聞いて、「ベスト」といふ部分に近づけるように、このコミュニティバスの運行を考えていくべきかなあというふうに思います。

その中で、交通弱者といわれ、そしてまた高齢者が増えると免許返納という形が多くなっていくことが予想されますので、その人たちも含めた中で病院の利活用、そして商店街の利活用をいかにしていただくかという中で組み立てる必要があると、そういうふうに思うところであります。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【9番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 山本 文男】

9番、甲斐 秀徳議員。

【 9 番 甲斐 秀徳 】

明日への全町の見直しを行っていただいで、みんながうまく収まるような形をとっていただけるように。まずは住民の声をある程度、聞いてから、丁寧にそのところを組み立ててほしいなあというふうに思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

次の空き家対策についてです。

選挙のたびに地区を訪ねると、住民は減り空き家が増加しております。すばらしい昔の家づくり、材料もいいものを使用しておりますが、訪ねてくる人もいなくなると、自ら朽ち果てていく姿が実に残念でたまりません。全国的な問題であります。

このほど定住促進担当リーダーのコメントが宮日に載っております。オーダーメイドの件なんですが、移住相談など、いいことだと思います。空き家移住定住をどのように感じておるかを教えてほしいと思ひます。

ついでに、この頃、移住定住でこちらに来られた方の年次ごとの、若干でいいですのでここ数年についても兼ねてお願ひします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

何か時間が迫ってくると、私の責任かなあという気がしております。申し訳ありません。

この空き家対策という部分はしっかりとやっていきたいと。宮日に担当が出てましたけど、オーダーメイドでやっていくということで、美郷町独自の形で担当が取り組んでいるということでもあります。

移住相談件数は非常に増えているということでもあります。平成28年度25件だったのが、令和3年度は159件ということでもあります。こういう相談があるということは、移住定住を希望している方が多いということを見れば、やはり住宅対策が必要になってくるという話であります。

移住者数で平成30年が3世帯4人、令和元年度が7世帯10人、令和2年度が12世帯20人、令和3年度が17世帯32人という形になってます。

ですので、この4年間で39世帯で66人の方がこちらのほうに見えてるということでもありますので、もう少し、本当に町全体でやっていけば、これ何とか「ちくせん」でも24地区ありますので、1世帯増やせばということになりますので、そういうことを考えれば美郷町はまだまだ伸びしろが大きいと思っておりますので、人口定住対策を皆さんとともに頑張りたいたいというふうに思っておりますのであります。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【9番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 山本 文男】

9番、甲斐 秀徳議員。

【9番 甲斐 秀徳】

今回、提出議案の第14号の移住定住促進空き家活用住宅の管理に関する条例が出されております。この条例の対象は何軒を、「何軒」というわけじゃないけども、どういうふうに利活用していく予定かを、ちょっと大ざっぱでいいですけどお願いいたします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

これは所有者から町が借りて、手を入れて、そして移住定住する方に使っていたくという話です。

これは毎年、毎年、1軒ずつでも、そういう空き家があるかどうかという部分はある程度、調べてますが、それを貸してくれるかどうかという話になると、また別問題でありますので、そういう形の中で1軒ずつ増やして行って、公共住宅を造るのもいいんですけども、この空き家対策の中で住宅政策も考えたほうがいかなど私は思っておりますので、そういう方向で進めたいと思っておるところでございます。

【9番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 山本 文男】

9番、甲斐 秀徳議員。

【9番 甲斐 秀徳】

恐らくこういうものには答えはないと思うんですよね。追及すれば追及するほどいろいろな問題も出てくるし、進めていかないといけないと思うんですけど。何でもいからやってみようというような考えの持ち方も少し必要じゃないかなというふうに思っておりますが、町長、どんなでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

自分の考え方で申し訳ないんですけど、何もしないよりか何かしたほうがいいという考え方で、何もしないことはもう全てマイナスにつながってくると思っておりまうので、やって初めて批判、批評、いろいろなものが出てきますので、私はそういうふうを考えております。

【9番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 山本 文男】

9番、甲斐 秀徳議員。

【9番 甲斐 秀徳】

県からの補助も相当の額の補助をいただいておりますので、今後そういう金を利用して、空き家対策や移住定住対策にも使っていただければ非常にありがたいかなというふうに思います。

時間がなくなりましたが、光ファイバーについては、そういうことでありますので、今後、御検討をお願いしたいと思います。

終わりたいと思います。

【議長 山本 文男】

これで、9番 甲斐 秀徳議員の質問を終わります。

【議長 山本 文男】

ここで、昼食とします。

再開を午後1時とします。

(休憩：午前11時50分)

(再開：午後12時58分)

【議長 山本 文男】

それでは、午前中に引き続き、一般質問を再開します。

次に、8番、小路 文喜議員の登壇を許し、1問目の発言を許可します。

【8番 小路 文喜】

議長。

【議長 山本 文男】

8番、小路 文喜議員。

【8番 小路 文喜】

一般質問をさせていただきますが、まず冒頭に、ロシアのウクライナ侵攻に抗議

する発言をさせてもらいます。

ロシアがウクライナへの軍事侵攻を行いました。ロシアによるウクライナ侵攻は主権の尊重、領土の保全、武力行使の禁止などを義務づける国連憲章に対し明らかに違反をし、また国際法における基本原則に反した侵略行為であることは断じて容認できるものではありません。

また、今朝のニュースによりますと、子供27人を含む477人の民間人が亡くなられたということであります。人道的にも許されるものではないと思います。プーチン大統領に抗議をするとともに、直ちに侵略戦争を中止するように求めます。

それでは、一般質問を行います。

今回は、1問目は南郷診療所の有床化ということであります。

私は、今度の選挙で2つの大きな公約を掲げました。

1つは、南郷診療所の有床化であり、もう一つは南郷支所の南郷地区の振興センターとしての役割を取り戻すことであります。そこには診療所を小さくし、支所を廃止することが分かっておれば、私たちは決してこの合併には賛成をしなかったという南郷地区住民の声があるわけであります。

実際、私は合併から12年の間、この議場に座らせてもらったんですけども、この間、旧3村が100年以上の歴史に終止符を打つという苦渋の選択をしたものであったのがこの合併であったらと思います。

そこには当然、3村が対等平等であると同時に、均等発展、これが大前提であったというふうに認識をしております。ですから議会は一体感の醸成を重んじてやってきたものと認識をしております。

ところが今、この一体感に大きなくさびが打ち込まれたと、そういうふうに私は感じております。

合併合意は町是、揺るがしてはならない、この町の基本原則であると、そういうふうに思っておるところであります。それが改革の名で変えられてしまいました。

私は、今から4年の間、この任期の間に先輩方の残したこの町の在り方を取り戻すために、全力を尽くすことを申し上げて、質問に入ります。

そこで、今回は南郷診療所の有床化でありますけども、役場の仕事というのは地方自治法第1条2の1で、「地方公共団体は住民の福祉の増進を図ることを基本として、地域における行政を自主的かつ総合的に実施する役割を担うものとする」と規定をしております。

私は、住民の福祉の増進を図るということは、命そして健康、そして暮らしをよくすることだというふうに認識をしておるところであります。町長の見解を求めます。

【議長 山本 文男】

町長の答弁を許します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

合併という話が出てきましたが、対等合併ということで、対等とはどういうことかという話ですが、もう合併して16年目を迎えることでありますが、今回の選挙で問うたのは、前に進めるのか、それと元に戻すのかと、この2つであります。この2つの中で、町民が選択をしたということでもあります。

ですので、今までしてきた形の中で、美郷町を持続可能な形にしていくために、今後4年間、努力をしたいそういうふうに思っております。

ですので、議員との立場は真逆であります。先に進めるのか、元に戻すのかと。それでは、合併とは何なのかと、そういう話であります。

私がちょうど教育委員会におる頃に、旧西郷村ですけど、上のほうが合併協議会の事務局でありました。私はそのときに、たびたび合併協議会のほうに赴きまして、合併協議会に「合併をするときには住民投票をしたらいかがですか」という提案をしてきました。ですが、それはなすまなまに、いつの間にかというかそういう形で合併という形になっております。

ですので、そこまで戻ると非常に難しくなりますので、この合併の意味と今後、しっかりとはかりにかけながら、前向きにやっていきたい、そう思うところであります。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【8番 小路 文喜】

議長。

【議長 山本 文男】

8番、小路 文喜議員。

【8番 小路 文喜】

私の質問は、この地方自治法で定めるところの役場の仕事は何かということをお聞きしたいんですが、私、今言いましたよね。住民の福祉の向上、そのことについては、私が指摘してきたように命と健康と暮らしを守ることだというふうに思ってるんですけど、そこはそういうふうにご考慮しているのかをお答えください。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議員おっしゃるように、役場の仕事といいますか住民の福祉の向上のために寄与するという事になっておりますので、そこは何らいささかも見解の相違はありません。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【8番 小路 文喜】

議長。

【議長 山本 文男】

8番、小路 文喜議員。

【8番 小路 文喜】

そしたらいいんですね。やはり一番は住民の命と健康そして暮らしを守ることが役場の一番の仕事だということでの認識は一致したと思います。

そう言いますと、私たち南郷地区の住民からすると、町長は今度の改革でいわば南郷地区の住民の一番大事なところを切り捨てたということになるわけでありまして。

私は、これ、自治法の精神に関して、こういうことはいいのかなというふうに思っております。合併合意も含めて、ちょっと答弁ください。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

町民の安全安心といいますか、命を守るということで、確かに有床化をなくしましたが診療所はそのまま継続であります。ですので、何らその中で考慮したときには、問題なからうという結果であります。

そしてまた、いろいろな形の中でずっとやってきたわけですが、ちょうど前町長時代ですかね、いろいろな形でこの医療関係の議事録を読ませていただきました。

非常に問題が山積しているというか、やはり国の動きの中で非常にやはり1つの町で1つの国保病院、2つの診療所を維持していくことの難しさという部分で、医療構想等々が出てきておりますので、その中で本当にどうするかということをしつかりと検討すべきだったのではなからうかというふうに思っております。

ですので、南郷町民の命を軽るんじたとかそういうことではない。この3つの病院をいかに維持していくかということのほうが大切であるというふうに思うところであります。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【8番 小路 文喜】

議長。

【議長 山本 文男】

8番、小路 文喜議員。

【 8 番 小路 文喜】

いろいろ分かりますけども、診療所は残したんですよね。

ところが、その有床化だけはやめた。何と言いますか、なぜ有床化を整理することが改革だったのか、ちょっとよく分かりません。改めてお願いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

医師を派遣していただく、医師を求めるときに、非常に有床化があると医師が来にくいというか、お医者さんが望まないということがあります。

そしてまた、19床ありましたが、10床を戻しまして9床は残してる。これは何が起こるか分からないという考え方ではありますが、西郷病院において29床になっておりますが、大体平均して20床ですので9床は空いてるということです。美郷町全体で考えれば、差引9床空きますので、そんなに問題はなかろうという判断であります。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【 8 番 小路 文喜】

議長。

【議長 山本 文男】

8番、小路 文喜議員。

【 8 番 小路 文喜】

9床残ったって、入院がなければ残ったことにはならんのですよね。予備としてはあるけど、ベッドとしての用は達してないと思うんですが、そこはどうですか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

有床化、無床化という話ですれば、そのとおりだと思います。

結局、有床、残したからそれで町民のためになるかという話で、論理で立てればそうはならないという議員の見解でしょうけど、これは確かにそこで入院ができな

いという事実をつくりましたので、そういうふうに捉えることもできるし、また、いろいろな形で時代の情勢が変わったときに、残しておくほうがいいと。ただそういう残しておいたほうが得だろうという考え方の中で9床ほど置いたということが事実であります。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【8番 小路 文喜】

議長。

【議長 山本 文男】

8番、小路 文喜議員。

【8番 小路 文喜】

今の答弁は、今後はいろいろな状況の変化の中でいわゆる入院用のベッドに変わっていく可能性を含めておるといふふうに理解をしていいのかどうか確認します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

時代の変化に応じてということ、お医者さんがどんどんどんどん来てくれるような状態、働き方改革が変わってということになりますと、ますます難しい状態であるということでもあります。

ですので、そこが復活できるかできないかという部分は、それこそ時代の要請、その状況の変化によるものだろうというふうに思っております。

ですが、今の状況でいけば非常に難しいと。

ただ、この西郷国保病院も運営することが非常に難しくなっている状況ではあるということでもあります。ですので、この医師確保について、本当に定着医を確保して、国保病院そして2つの診療所を今のような形で持続可能な形にして残していく、運営していくことがベストだと思っております。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【8番 小路 文喜】

議長。

【議長 山本 文男】

8番、小路 文喜議員。

【 8 番 小路 文喜】

分かりました。

結局、医師が不足するから、当面の対応としてこういうことをやったというふうに聞こえたんですが、そういうことですね、確認します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

当面の対応というか、結局、何かを捨てて何かを残すという話ではありませんけど、もし何か起こったときにということで、なかなか申請するときに難しいという話があれば、やはり残しておいたほうがいいだろうという話の中での考え方であります。

ですから、そこを使えるか使えないかというのは、それこそ時代の要請に応じてという話ではありますが、結局、そのときに無床化にしたというのは、言うように結局、夜勤というかそういう形にするとお医者さんがなかなか来られないという話もありますので非常に難しいかなあという部分で考えたところであります。

ただ、それをそうしていく中においては、医療提供体制の在り方を考えるということで、諮問をしました。それを1年かけて答申を受けて、今のような形にしましたので、そこは1人で決めたとかそういう話ではありませんし、そういういろいろな方々に入っていて、美郷町の医療提供体制の在り方をしっかりと構築していただいたというふうに私は認識をし、そしてこういう改革を行ったということであります。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【 8 番 小路 文喜】

議長。

【議長 山本 文男】

8番、小路 文喜議員。

【 8 番 小路 文喜】

いろいろ答申とかあったんですけども、私たちが医療座談会で聞いたときには決定事項だったんですね。これは決まったことだから、今さらという、変更の余地はないという話があったと思います。

今の医師不足の話からすると、実は合併してすぐ南郷診療所、まだ南郷病院でしたけども、医師が不足して入院ができないという事態が起こりそうなことがありました。

そのとき、林田町長は先頭に立って医者を探してきて、結局、南郷病院、南郷診

療所はそのままずっと入院のできる施設として生き残ってきたわけでありまして。そこに南郷地区住民の気持ちがあるんですけども。

何と言いますか、答申の内容に文句は言いようはないんですけども、答申が出たからそれに従えというやり方が、私は許されるもんじゃあないというふうに思っております。

さっき言ったように、南郷地区住民は支所の問題も含めて「こんげなことになるんだったら合併は賛成しなかった」というのは当然であります。やはりそこには合併の基本合意というのはベースとして置いて物を考えないと。

例えば、今回の施政方針が何かに書いてあったんですけども、南郷診療所を無床化にしたら、県のほうから評価を受けて医師5名を送ってくれるようになったという、そちら側の理屈は分かりますけども、それを切られた南郷地区住民の気持ちは、その間それには入っていないんですよ。

ここは町長、一番の要なんです。だから最初、私は地方自治法の規定を持ち出したんです。町長の仕事は、住民の福祉の増進というところにあるんですよ。役場の運営の都合の話は重きを置くべきじゃないんですよ。あくまでも住民のサイドに立って、そしてもうどうしても下げがたくてできんかったからやりましたという話ならいいとしても、さっき言ったように医師不足だって、そんなら一生懸命、探して、それでもできなかったからということになれば、いきなり無床化じゃなくて、「しばらく医者がおられませんから、この間は入院ができませんが一生懸命、探してまたできるようにします」くらいの努力をして初めて町長の仕事が、私はまともに取り組まれたというふうに思うんですけど、そこはどう思いますか。

【町長 田中 秀俊】
議長。

【議長 山本 文男】
町長。

【町長 田中 秀俊】

確かにおっしゃるとおりかもしれませんが、こう考えていく中で、結局、それがずっとできなかつたらどうなるのかという話であります。お医者さんが来ないと、来ない状態、一生懸命、探しても来ないと。これが2年続き、3年続き、もし仮にそうなった場合に、そこの診療所が運営できないということになります。

ですので、定着医を探すということは、これは本当に喫緊の課題であり今後の課題でもあります。ですので、このお医者さんをしっかりと探して今後につなげるという道を選んだと。それが答申の内容であったということでもあります。

ですので、「寄り添ってない」と言われればそうかもしれませんが、先を見たときに、この維持体制をつくってずっと長く運営をするためには、こちらのほうがはるかにメリットが大きいというふうに判断を、私もしましたのでこういう形でやりました。「やり方がおかしいんじゃないか」と言われればそうかもしれませんが、これが10年後、20年後どうなるのかという話でも非常に難しい問題であります。本当に南郷町民そして北郷町民、西郷町民、その人たちの命を守るということであれば、この1つの国保病院と2つの診療所、是が非でもこういう形で守っていくということが非常に重要であろうと思っております。

そしてまた、近く考えれば、皆さんどこに入院してるのかなという話であります。

ですので、東郷病院だって無床化を選びました。西臼杵3町も2024年の4月を目途に経営統合してそれぞれの持っている病院の特性を生かしてやっていくという話であります。時代はそういう方向で回ってるというふうに認識をしておりますので、あながち私たちが、私が判断したことは間違いでもないというふうに思うところであります。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【8番 小路 文喜】

議長。

【議長 山本 文男】

8番、小路 文喜議員。

【8番 小路 文喜】

今の答弁はぜひ、一生懸命、医師を探してからにさせていただきたいと思います。20年先の話を今ここでされても困るんですよね。南郷地区住民は今、生身の人間があそこにおいて一生懸命、生活しとるわけですから。

大体、答申の内容を見たとき、最初から無床化ありきなんですね。町長は、今言われましたけども、時代の要請みたいなことを。これ、国策なんですよね。これだけコロナがはやって、病院の確保もできない、自宅療養じゃっていうときに、どんどんベッドを減らせというのは国の方針なんです。それにのっとなって、ああいう諮問をして、その答申が受けた内容が結局、国の方策にのっただけの話でありまして、私たち住民の利益とは、私はかなり相反するもんだと。もともとそういう諮問の内容そのものが在り方として、私は問題だと思います。

その前に地域住民のことを考えて、どういう諮問をするかというところの吟味から始めると、あの答申書はどう見たって最初から南郷診療所はもう無床化するんだという前提で。

聞いたところによると、どなたも反対の論が出ないで、最後に一言言った人が、「私が言うたら、そう決まりました」と、本人が言うたから間違いはないんでしょう。やはり「ノー」とはよう言わんけど、「イエス」とは言えない内容だったということは、知っておいていただきたいと思います。

やはり国策に沿えばいいというもんじゃないと思うんですね。住民の暮らしに寄り添うところから政治を始めないと、町長の言う「住民と一緒に」とか「協働して」とかいう話がそこでもうひっくり返るんですよね。

ちょっとそこばかりこだわれんから、ちょっとあまり話題としてはどうかと思うんですけど、実は、今度の選挙の中で、出所不明のビラがまかれました。

内容は、1つは南郷診療所の入院の問題、それから2番目は介護保険料が高くなったという話、3番目は公開討論会の話であります。2番、3番はあまり興味ないんですけど。

この1番の中で、何かえらいみんなで何人もで徒党を組んで何か、南郷と北郷でたくさんまかれたという話でありまして、結構、選挙の結果にも影響を与えたんじゃないかというふうに思っておるんですけど。

その内容はこういうことであります。

「もしも南郷診療所の入院を再開するとなれば、医師が2名になる、看護師が10名になる、看護助手が2名になる。いろいろな人を含めて月に1,200万円くらい金が必要と、年間で1億5,300万円が必要」と書いてあります。その下にこう書いてあるんですね。「町民の税負担が大きくなる」と。1億5,300万円ふっかけるという話だろうと思うんですね。おまけに、「開設費用として最初の年度、9,350万円は必要」となってると思うんですけど、見たとおり収益のことも書いてないし、何と言いましても、あたかも南郷診療所がなかったごとく「開設費用」なんていう言葉が出てきていることは非常に問題と思います。

ちょっと聞きますけど、答えたくもないかもしれないですけど、この1億5,300万円が町民の税負担が大きくなるようなことになるんですかね。ちょっと確認したいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

その文書自体はその前に、選挙の話になると非常にいやらしくなってきますけど、そんげして言えば、いろいろな形で私も言いたい部分はいっぱいあります。議員に対しても。

ただ、それを引っ張ってきて「こうだ、ああだ」という話で言いますが、税負担というのはあくまでも医療費に関してかかるものであって、保険税として取ります。取りますというか、かかってきますので、税負担はそこだけ。あとは、役場がいかにかそこを出すかという話だけでありますので、それをいびったからということではないから、医療費が上がれば当然、国民健康保険税やらは増えてくるという話になりますが、そこはそこでちょっと間違ってるのではなかろうかというふうには思うところでもあります。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【8番 小路 文喜】

議長。

【議長 山本 文男】

8番、小路 文喜議員。

【8番 小路 文喜】

私は、このピラを見たとき、美郷町の将来を占う大事な選挙が何か貶めたよなっという気がしました。選挙の内容を。

今、西米良村長選が、何か20年とか何年かぶりにやるということで、若い人た

ちが西米良村の将来をどうするかって悩んでいるというのが宮日新聞に載っておりましたけど、ぜひ、やはりそういうものでないといかんのじゃないかというふうに思うんですね、そういう選挙が。

このピラはそれだけのことでありますから、出所も分からないのでこれはこれだけのことなんですけども。

ただ、私が絶対に許せないのは、こういう脅し文を、君たちは南郷の人でしょうね。「入院を再開させる」と言うなら、この町民の「君たちの税負担が増えるぞ」という脅しをかけるなんていうのは、絶対に許されんと思うんですね。非常に腹立たしんですよ。こういうことを許してはならんというふうに思っておるところであります。

それで、町長は「町民に傷みを伴う機構改革と医療提供体制の在り方についての改革をやってきた」というふうに書いてあるんですけども、私はよく分かりません。医療分野のどこの部分が改革なのか、ちょっと教えてください。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

どこが改革になるかという話であれば、やはりその「無床化にしたということが1つの改革」かなと。それは、そのことが後の持続可能な診療所の体制をつくるがためには必要不可欠であったということの判断の中での改革であります。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【8番 小路 文喜】

議長。

【議長 山本 文男】

8番、小路 文喜議員。

【8番 小路 文喜】

分かりました。結局、町長の認識は「改革」でしょうけど、南郷地区住民からすると「切り捨てだ」ということになるわけですね。そこはしっかりと認識をしていただきたいと思います。

町長、分かりますかね、町長の言う「痛みを伴う」と、誰が傷みを受け取るか、お答えください。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

この行政組織の改編でもそうですけど、見える風景が見えなくなるという話になると、町民にそういう影響を与えてくるという話であります。

ですので、一番身近であれば南郷町民だと思いますが、それを南郷、北郷、西郷という話で、そちらの立ち位置に立てば「対等合併をしたから」という部分で理論が成り立つんでしょけれど、私は美郷町という部分でしたときに1つだと思っておりますので、そういう形をとってきたと。

でも、その中で先々言いますように、1つの国保病院、2つの診療所を守っていくという大前提での中の形でありますので、それはそれでしっかりと今後やっていく必要があると。この診療所2つを守るがために、しっかりと今後、医師の派遣それと定着医を1年間かかってでもしっかりとやっていく。そして皆さん、そういう先生方を知ってたら、情報をいただきたいと。いろいろな選挙戦の中で「すぐ医者は見つかったじゃ」という話も聞いたということではありますが、そんなに簡単に見つかるものならいろいろな形で紹介してほしいというふうにも思うところでもあります。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【8番 小路 文喜】

議長。

【議長 山本 文男】

8番、小路 文喜議員。

【8番 小路 文喜】

今の答弁ですけど、医者がおればどうかなる話なら、なぜ最初からそのための努力をせんかったのかということにまた戻ることになるんですよね。それなしに、さっき言った結論ありきで無床化を先行させてきたところに、私は今、一番大きな問題を感じておるんですけども。

ここは私の主観が入るんですけども、西郷の人はどなたも傷みはないんですよ。私が見る限りでは、北郷も支所がなくなる。何か診療所は若干、診療内容がまた復活したらしいですけど、あそこも切り捨てられる、南郷も切り捨てられるということで、結局、形の上では南郷と北郷が切り捨てられたなというふうにも思うんです。

さっきの合併の話になりますけど、私たちは別に西郷を盛り上げるために合併したつもりもないんですから、やはりここところはきちっと整理する必要があると思うんですね。

町長、定住化促進の話が出ておりました。やはり定住化を進めるときに大きいのは、やはりそこに医療施設があるかどうかというのは物すごい大きいんですよ。だからそれを切られる形で定住化の促進というものもないなと思うんですけど、そこ辺の医療と定住化との関連についてはどういうふうにお考えかお伺いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

それぞれというか議員と私の立ち位置がちょっと違うということで、こげんして食い違っていくのだろうと思っておりますが、病院をと医療を切り捨てたわけではありません。

ただ、今後の流れの中で非常に難しい部分が出てくる、医者働き方改革等々、それと若い医師のインターン制度スキルアップのためにいろいろな制度が出てきておりますので、その中で難しい部分があるとすれば、そういう部分が出てくるという部分を早くしっかりと整えて、この3つの病院、診療所を言うようにずっと長く持続可能にするがために、美郷町のためにやったということでもあります。

ですので、「南郷を」「北郷を」という頭は毛頭なく、全てが倒れたらどうなるかということを考えてときに、この3つの形をいかに守れるかが今後の課題。

その中で、定住促進もそこに診療所があるわけですので、入院ができないということは出てきましたけど、そんなに、「そんなに」というか問題はないと、医者というか診療所をなくしたという話ではありませんので、私はそういうふうに思っております。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【8番 小路 文喜】

議長。

【議長 山本 文男】

8番、小路 文喜議員。

【8番 小路 文喜】

何て言いますかね、ちょっと話が。定住戦略の中の話を含めてもですけど、やはりこの定住戦略がうまくいくには、南郷、西郷、北郷の定住戦略のグループがやはり競り合ってこそどんどんよくなるんだらうと思うんですね。どうしてもそこが競り合えないようないわば弱体化するような政策が行われたのが、私の今度の医療の問題なんです。

だから、話はちょっと戻りますけど、将来的に病院を続けていくために若いインターンとかいう話もあるんですけども、それまで、そのための間に今、そこに住んでる南郷地区の住民とかが「まともな医療」とまでは、そこまでは言いませんけども、医療に支障を来すんですよ。

町長は、「入院ができないことは大したことないだろう」と言いますが、まず、入院ができないということは、もう土日、通常の月曜から金曜までの夜間と土日の夜間、土日は昼からですね。おりませんよね。だから仮に今度、ちょっと以前、温泉でも事故があったようですが、ああいう場合でも時間外に倒れたりすると、南郷

診療所が入院ができれば当然、当直医がおるからそこに行って応急処置ができるということなんですね。まずそういうことができなくなっております。もしかすると、そこで応急処置ができれば、何かあったかもしれないじゃないですか。それから当然、救急救命の仕事もなくなるわけですね。物すごく大きいんですよ、これ。南郷診療所が入院のできる施設かそうでないかというのは。

その踏み違いは非常に私としては容認できないんですけど、どうですかね、そこは。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

病院で当直医がいないということは、そういう形の中で事実でありますけど、救急救命士とかそういう部分の救命はしっかりしてますので、その中での判断ということで考えております。

ですので、誰もが無床化がいいとは多分、思わないはずですよ、今まであった中で。でも、時代の流れとそういうことの中で、美郷の医療を守るがためにどうすればいいかという話になったときには、そういう方策も出てきたという話であります。

先ほど言いましたように8年前と4年前、その4年間、いろいろな形で議員のほうから前町長に質問をしております。ですので、もう少し踏み込んで、今度は行政側から議員のほうにしっかりとその問題を出して、どうしたほうがいいのかという話を掘り下げていくべきだったのではなかろうかというふうに、私は思っております。

ただ、上滑りでそういうことを言ってきたと。田中がそんげしたと。何も考えずしたという話ではありませんので、やはり美郷町としての医療提供体制をどうするかということを考えたときに、これをしっかり守ることが私の使命だと思っておりますので、これ以上はしたくありませんし、しっかりと残していきたい。そしてお医者さんを見つけていきたいというふうに思っております。

若い人と話すと、極端に言う人もいます。「もう病院は要らんちゃねえと」という人もいます。そんげなむちゃくちゃなことを言うたってという話をしますが、やはり今のこの体制をしっかりと守っていくことが私に課せられた課題、それと責務だと思っております。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【8番 小路 文喜】

議長。

【議長 山本 文男】

8番、小路 文喜議員。

【8番 小路 文喜】

どうも頭の中で流れてる時代の流れの捉え方と方向が全然、違うかなと思います。

私は、ここにおける生身の人間がどうかという話をしてるわけでありまして、町長がいろいろな国策やらを含めてお考えになるのは分かる、それはもうそれだけのことなんですけども、あくまでもそういう合併して美郷町民になった北郷地区、南郷地区住民のことはやはり一番の課題だろうと思うんですね。そのところが飛んでるのが私は非常に気になるところであります。

私も実際、いろいろ回りながら聞くんですけども、若い人たちはそうなんですよね、「病院」ということについてはあまりないんですね。

ところが、高齢者になってくると、若い人のおる世帯はまだ余裕があるんですね。悪くなったら子供たちがどこか連れていくと。ところが本当に高齢者の夫婦2人くらいになってくると、片方が入院したら、それも南郷じゃねえ、西郷とかどこか行かないかんだったら私はどうすればいいんだろうと、非常に深刻なんです。

あれに書いてありました、何か書いてありましたね、いわゆる団塊の世代が後期高齢にどぼって入ってくるような時代ですから、いわば入院の予備軍がどさっとできるんです。そういう今時代にかかってきて、私は入院の必要性が物すごく増えると思うんですね。だからそういったことを含めて地元を見ながら決めてもらわんと。町長の言うとおり国の流れはそうなんです。医療費をどれだけ減らすかというのが物すごく大命題になってるんですね。そして、1番がベッド数を減らせということをやられてきて、今年もまた何百とかいうノルマがかかっておってやられております。

だから、県が喜んだのは、恐らく先生方の働き方改革もあるんでしょうけども、国の方針に従って一定の成果が出せたというふうになると思うんですけど、私は美郷町の住民はそういう意味では犠牲になったと思っております。

これ以上は、まだまだ何遍もまだ今後もやります。けれども、現時点ではこれ以上は話は進まないようでありますから、今日はやめますけども、あくまでもまだ国やらほかのところの都合はともかく、美郷町の、そして南郷地区住民はずっと暮らし続けてるんですから、そこに入院という必要があることは絶対、間違いないことですので、そのことだけは頭に置いていただきたいと思います。

2問目に。

【議長 山本 文男】

2問目の発言を許します。

【8番 小路 文喜】

選挙権の行使の話であります。

私もちょっとうかつだったんですけども、今回の選挙の中で隅々回ってきました。各地区で投票所が整理をされて、南郷で言えば旧大字に1か所になっていることが初めて気づいたという非常に申し訳ないんですけども。そのことが結局、選挙権を行使する保障する体制になっていないと、そういうふうに私は思っておるところであります。

参政権というのは、民主主義の基本中の基本だというふうに考えておるんですけども、なぜこういう構造になったのか、お伺いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

参政権を行使するということで、結局、間接民主主義の中ではそういう形で、結局、投票率を上げていくということがいろいろな選挙の中で町民なりまた国民なりの意見が反映されるという部分で解釈をしております。

ですが、いろいろな形の中で本当に投票所が縮小されてきたという部分もあります。「今になって何でか」と言われる部分ではありますが、そこのいきさつについては総務課長のほうで説明をさせていただきますが、確かに議員が言うように、みんなが気楽にといいいますか、投票できる体制といいいますか、そういうものを今後しっかりとつくり上げて投票していただくと、これは基本かなというふう思うところがあります。

以上です。

【総務課長 下田 光】

議長。

【議長 山本 文男】

総務課長。

【総務課長 下田 光】

「投票所を減らした理由」というところを、私のほうから答弁させていただきたいと思えます。

まず、南郷地区においては昨年、衆議院議員選挙が行われましたけれども、そこからその前の選挙から10あった投票所を6つにしました。これをなぜ減らしたかと申し上げますと、やはり高齢化というところが一番の理由にあるんですけども、適正な投票事務を執行していく上で職員数も減ってきてるんですよ。やはり投票所が多ければ多いほどそれに従事する職員数も多くなってきますので、適正な選挙事務をミスなく行うために投票所を減らしている。

以上です。

【議長 山本 文男】

総務課長の説明が終わりました。

【8番 小路 文喜】

議長。

【議長 山本 文男】

8番、小路 文喜議員。

【8番 小路 文喜】

分かりました。役場の都合は分かるんですけども、やはり民主主義の国ですから

ね、誰もが投票できるようなシステム上の保障は、私はいわば管理する側の責任だというふうに思います。

いろいろ聞くとところによると、移動の投票所も含めてちょっと公選法上の規定はよく分からんところもあるんですけども、そういうことも含めて対応可能ならば、やはり離れた家の人も高齢化で車がないとかいう事情がある人ですけども、そういう人も含めて投票ができるようにする必要があると思います。

これは恐らく投票してもらおう側の責任だろうと思うので、ぜひそういった住民の希望といいますか、住民の側からすると「私たちはもう投票せんでいいんだな」というふうに受け取る向きもありますので、ぜひここは、やはり投票してもらおう、投票する権利を行政の側が保障するという体制づくりは必要だと思うんですけども、先ほど言いました移動の投票所などの運用も含めて、どうにかならんかちょっと答弁をお願いします。

【総務課長 下田 光】

議長。

【議長 山本 文男】

総務課長。

【総務課長 下田 光】

移動投票所につきましては、同じような意見が今年の衆議院議員の総選挙をやったときに町政懇談会の町民の意見の中からそういう意見がありました。

ということで、私たちもこの期日前の移動投票所の開設ということで前向きに考えております。

ただ、投票システムが通信インフラをしっかりと整備しないといけないという部分があって、セキュリティを保つために。そういうところも確保しないといけないんですけども、県内で都城市がやっていますけれども、そこは携帯電話を持って投票に来た人が実際に投票しているかしていないかというところの確認をしながら、適正な執行をしていますので、そういうものを含めた上でもうちょっといろいろなことを想定しながら前向きに進めていきたいと考えておりますので、早ければ来年度、令和4年度、選挙もありますけれども、そこら辺りから試験的に進めていったらどうかということ考えております。

以上です。

【議長 山本 文男】

総務課長の答弁が終わりました。

【8番 小路 文喜】

議長。

【議長 山本 文男】

8番、小路 文喜議員。

【8番 小路 文喜】

今、話があったとおり7月には参議院議員選挙が予定されていますね。

ぜひ、その場所で、試験的でもいいですから、ぜひそういう制度をつくっていただきますことをお願いして質問を終わります。

ありがとうございました。

【議長 山本 文男】

これで、8番 小路 文喜議員の質問を終わります。

【議長 山本 文男】

ここで、10分間の休憩とします。

開始を13時53分からの再開とします。

(休憩：午後 1時43分)

(再開：午後 1時53分)

【議長 山本 文男】

休憩前に引き続き、一般質問を再開します。

次に、4番、兒玉 鋼士議員の登壇を許し、1問目の発言を許可します。

【4番 兒玉 鋼士】

議長。

【議長 山本 文男】

4番、兒玉 鋼士議員。

【4番 兒玉 鋼士】

通告に従い一般質問を行います。

まず最初に、このたび美郷町を含む西北山間地域の2021年度産米が3年連続特Aを獲得したということで、これは本当に誇らしいことだと考えます。また、農業生産者にとりましては励みになると思います。

また、この偉業を成し遂げられました農業生産者の方、また、各関係者の方々の努力に対しまして敬意を表しますとともに感謝を申し上げます。

私は、本日の質問が初めてですが、取り留めのない質問になるかとも思いますが、御了承ください。

私は、美郷町の農業振興対策によって町内に若い人が1人でも多く、農業を生活基盤として作り、自立定住していただくこと、また、現在、朝早くから懸命に農業に従事されている皆様が報われることを念頭に置いて質問を始めます。

今回は、将来の美郷町の農業振興対策について、伺います。

最初に、美郷町における農業の位置づけ、評価、役割などを町長はどのように考えているか、伺います。

これは昨日の施政方針のほうでも説明がありましたが、再度、確認をいたします。よろしく申し上げます。

【議長 山本 文男】

町長の答弁を許します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議員における美郷町における農業の位置づけ、そして、町長はそれを評価、役割をどのように考えているかということであります。

本当に第1次産業の町でありますので、農林業が基幹産業であるということには間違いありません。中山間地域の気象条件や立地条件を生かして、様々な農畜産物等々が生産されております。今ある資源といいますか、これをずっとつなげていくためにはどうしても後継者担い手が必要になってくるという思いであります。そのためにはいろいろな就農支援とかいろいろやっていますが、これをしっかりと手厚く支援しながら、次につなげていきたい。

そして、各生産部会、そのビジョンをつくってますので、それにこちらの町としては一生懸命、応援していきたいと。そして、持続可能な美郷町ならではの農林業といいますか、農業の発展を求めていきたいなあというふうに思っておるところであります。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【4番 兒玉 鋼士】

議長。

【議長 山本 文男】

4番、兒玉 鋼士議員。

【4番 兒玉 鋼士】

町長、分かりました。町長のただいまの答弁によりますと、美郷町においては農業は最重要産業であるとの考えだということですので伺ってよろしいでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

よく「1次産業、2次産業、3次産業」と言いますが、これを足して6、掛けて6という話であります。この1が欠けた場合にゼロになると5、そして、足したときゼロだったら5次産業という話になりますが、やはり6次産業の振興は1次

産業の振興というか、そこがあって初めて始まるというふうに、私は認識しておりますので、やはりしっかりとしたものづくりを進めていって、2次産業、3次産業につなげていきたいというふうに思います。そして6次産業化という部分を考えますので、非常に根幹をなす産業というふうに位置づけをしております。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【4番 兒玉 鋼士】

議長。

【議長 山本 文男】

4番、兒玉 鋼士議員。

【4番 兒玉 鋼士】

農業は最重要産業であるということで、町長の考えをうかがい、現在、農業に就業されている皆様、これからまた農業を始めたいと考えてる人たちに、町長、何かあればお願いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

この頃、割と就農支援という形の中でいろいろな手かせ足かせがあった部分が親子で就農ができるとかそういう形になって若者がいろいろな帰ってき始めたと、就農し始めたと。そこにいろいろな形での補助金が行き渡るようになって、ある程度、企業がしやすくなったという状況をつくり上げてきてますので、そういう子供たちがやはり1人でも多く帰ってきていただきたいなあというふうに思うところであります。

そのためには、やはり小さいときからといいますか、ここに住んでいるときの学校時代ですけど、教育というか美郷を愛する心、その中で農林業を非常に愛するというか、町を愛する心を育みながら、大きくなって帰ってきていただくという方向に進めたいと思っております。

そのために、よく議員さんたちが言われるんですけど、産業振興基金という基金があります。これが10億円くらいあるんですけど、その基金をいつ使うのかという話をよくされます。

ですので、やはり「国滅びて」じゃないけど、そうなる前にその基金を有効利用して産業振興を進めていくべきではなかろうかという話を伺っておりますので、それを皆さんと協議をしながら、やはり美郷町の基幹産業である1次産業を大きくするためにはどういう形を出して町を盛り立てていくかということは一緒に協議をしたいと思っております。本当に、そういう担い手、後継者が育ってくることを念頭

に、いろいろな対策をしていきたいと、そう思っております。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【4番 兒玉 鋼士】

議長。

【議長 山本 文男】

4番、兒玉 鋼士議員。

【4番 兒玉 鋼士】

町長の先ほどからの答弁によって、農業に従事されている皆様に安心や希望と意欲を与えることであると、私は考えます。

農業の発展が町の活性化にもつながると私は信じております。今後も一層のお力添えをお願いいたしまして、次の質問に移ります。

私は、若い人たちが美郷町に定住していただくことを前提において、これからの質問をしてまいります。今後、美郷町の農業においては労働力の減少と人手不足が深刻な問題になると思いますが、美郷町における農業従事者の現状と今後の対応策について、伺います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

本当に今、抱えている現状というのはそういうことに尽きてくるということでもあります。

今、従事している農業者もどんだん高年齢化してきて、非常に厳しい状態になってくる。その中で、担い手等々いろいろな制度事業の中で育てていくという形にしておりますが、いかんせんやはり人が限られているということでもあります。やはり人が限られているというか、後継者がいないというのはもう本当、歴然たる事実であります。その後継者は皆さん、「どこにいるのか」と言ったら、やはり「よそにいる」ということでもありますので、やはり担い手を探してくる必要があると。

ですので、商工業のほうでも美郷町バトンという形の中で事業承継が図られておりますが、この農業のほうもそういう施設を持ってるんですけど、ある程度、高齢化してきてなかなか運営ができないということになれば、そこを誰かがしていただくという部分で、なくさないという工面と新しく入っていただくという工面を両方やっていく必要があるのではなかろうかというふうに思っております。

昔の農業と今の農業という形で見ると、本当、施設園芸のほうが増えてきたと。そして畜産も非常にしっかりとした形の中で管理しているということで、今のところ非常にいい形になっているということでもあります。

都農町の農家さんやらに聞くと、施設園芸で反収やはり300万円を上げないと駄目だという話であります。反収300万円といったらどのくらいかなと思います。自分が経験した中で300万円というのが私、キンカンをしたときに2回くらいだったと思うんですけど、非常に厳しい部分がありますが、そのくらいの意欲を皆さん持って、技術も獲得しながらやっていければいいんじゃないかなというふうに思うところでもあります。

トマト部会が結構、若いんですが、その若い人たちに協議の中で、「今、何が一番欲しいですか」と聞いたら、「時間が欲しい」と言っていましたね。その時間というのは、「遊ぶ時間が欲しい」という話であります。子育てもしながらトマトもやっていますので、トマトは年がら年中ということで、1か月くらい植え替えのときだけ休まれるということです。それだけ頑張っている若者がいるということでもあります。

ですが、「ほんなら時間がないから、辞めるの」って言ったら「辞めません、一生懸命します」ということですので、そういうことで頑張っている担い手、後継者もいるということでもありますので、やはり町としてはそういう人たちにしっかりと手を差し伸べていきたい。

それと、今さっき言いますように、農業改良普及センター、そしてJAの職員とともに、やはりそちらのほうを見せ頑張りたいなというふうに思うところでもありますので、今後も議員各位の御協力をお願いしたいと思っております。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【4番 兒玉 鋼士】

議長。

【議長 山本 文男】

4番、兒玉 鋼士議員。

【4番 兒玉 鋼士】

先ほど、今の現状と対応策ということでお伺いしましたが、今の現状が町の令和2年度の農業センサス調べによると、町の農産物の販売高は25程度を推移しておると。総農家数は636戸であると。そのうち60歳以上が52戸、65歳以上が501戸になっていると、このようですが、これから5年、10年先においては急激に農家戸数が減少していくと思いますが、本町における農業の将来をどのように考え、現状を維持していくためにどのように努められるか、町長の考えをお聞かせください。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

確かに数字の上ではそういう形になってくると。

人口が減ってきますのである程度、減少していくことはやむを得ないかなあというふうに思うんですが、それをいかに食い止めるかということをやっていく必要が出てきたということでもあります。

ですので、先ほども言いますようにいろいろな形の中で生産部会の産地のプランですけど、こういうときにはこうしますよという部分をしっかりと政策的に応援していこうかなあと思っております。

ですので、言うようにやはり人がいないということであれば、今さっきも言いましたようにやはり広げてこちらのほうに入ってきていただく。定住促進の中でそういう農業とかそういう形をしていただければいいかなあと思っております。

ですが、なかなか左から右にそういう形になるということでは思っておりませんので、しっかりと息の長いというか地道な努力が必要かなあというふうに思うところでもあります。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【4番 兒玉 鋼士】

議長。

【議長 山本 文男】

4番、兒玉 鋼士議員。

【4番 兒玉 鋼士】

再度になりますが、私は今現状のことに質問しているわけですが、町長、今60歳以上が52戸、65歳以上が501戸になっているようですが、70歳以上はどのくらいになっているのか分からないので、町長、分かればお聞かせください。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

詳しいデータは持ってありませんけど、今、平均年齢が65歳くらいかなと思っておりますので、70歳以上の占める割合というのはまた高くなってきているというふうに思っております。

そのままずっとどんどんどんどん年を取っていったのが現状だというふうには私は思っておるところです。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【4番 兒玉 鋼士】

議長。

【議長 山本 文男】

4番、兒玉 鋼士議員。

【4番 兒玉 鋼士】

私は、このままでは今後も危機的状況が続くと思われます。現状を維持していくには今後、今から荒廃していくと思われる農地、また貸したい人たちの農地を利用して生活基盤をつくり、若い人たちが自立定住していただくことが労働力の減緩和にもなり、新規就農者の掘り起こしにもつながると考えますが、町長はどうでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

いろいろな形の中で、今、若い人から上の人までということ、どのように考えているかという部分をしっかりと把握したいというふうに思っております。

ですので、議員おっしゃるように今の状況を見ると、やはり先がすぼんでくるという話ですので、何かそこにくさびを打つ必要があるということでもあります。そのくさびをどういう形で打てば、ある程度、町としてそういう農業が持続できるかということを実際に皆さんとともに考えなければ、1次産業が衰退していくという話になりますので、まだまだ間に合うところにあるという認識はしておりますので、いかんせんそのお年寄りの人も生涯現役の中で頑張っていたという部分と、そしてやはり若い人を入れていかないと世代交代が起こらないという話になりますので、そこ辺を2つの分野に分けてしっかりとやっていく必要があると、そのようには思っておるところです。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【4番 兒玉 鋼士】

議長。

【議長 山本 文男】

4番、兒玉 鋼士議員。

【4番 兒玉 鋼士】

私は、町長の言われるとおり将来に向けての持続可能な農業対策としては、若い人たちが農業を始める、そのことが重要だと思っております。そのためにきっかけはつくれないかと考えているわけですが、私たちの若い頃は親の姿を見て、先ほど

から町長が言われているとおり小学校関連のことでも言われましたが、生活の中で農作業やその栽培技術などを習得していました。

町長はどうでしたか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

私は、養蚕と牛とキンカン、米。シイタケだけは何かはっきり分からないということで、やはり一番苦労したのは養蚕かなあと感じております。養蚕は本当に汚れるというか、中学校の頃は養蚕、結局、それをして、そして祖父と窯出しですよ。

昔は土日になると、土曜日によく言われたんですけど、「明日、暇か」という話で「暇じゃ」と言うたぎり、泊まり山というか、泊まって、そして次の日に起きて窯出して。出しくべですよ。今の北郷にある窯を出しくべしたら人間、死ぬると思いますけど、あの頃は小さい窯でしたので、それで。

こんげなことまでせないかんかという話でやってきました。その中でいろいろやってきましたけど、養蚕が一番疲れると。

まだ言えば、蚕さんは桑の葉しか食べんから、ほかんと食べてくれれば、そこ辺にあるやつでよかと思ひよったっちゃけど、やはりその桑切と今度はまゆになる前ですよ、それが一番、何か印象に残ってます。親がやってたから手伝っていたというのが現状ですけど、その中での経験というか、いろいろなことはしっかり覚えてきたつもりであります。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【4番 兒玉 鋼士】

議長。

【議長 山本 文男】

4番、兒玉 鋼士議員。

【4番 兒玉 鋼士】

町長のおっしゃるとおり私たちもそういう経験をしてまいりました。

ですが、今の若者には私たちみたいな環境はないと思います。そのために農業を始めることができないのではないかと考えますが。

林業においては町内に林業試験場があり、林業後継者やらその従事者は生まれると考えますが、農業においてはなかなかだと思ひます。

そこで、若者が農業を始めるきっかけづくりとして、町内、町外も含めてですが、若い人たちに農業の魅力を伝えること、また、栽培技術の承継、人材育成のためにも農作業の体験研修会等の取組が必要だと考えますが、町長はどういう考えですか、

伺います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議員おっしゃるように、やはりそういう体験というか、全然、分からないことは「やれやれ」と言ってもなかなか難しいと思いますので、そのような方向で機会あるごとにやっていければと思っております。

サップという団体、いろいろあったんですけど、どんどんどんどん、それと青年団協議会とか、社会教育関係の団体とってまんですけど、婦人会とか。そういう組織が崩れてくるごとに、そういう継承がなされてなかったというか、どんどんどんどん人が代わるというか、価値観が変わって行って、昔はある程度、みんな「農業」と言えば大体みんな農業だったらいろいろな話が共通事項であって、こんげなときはどんげすつとかねという話で会話が弾んでいたというような気もするんですけど、うまくそこ辺が少しないがしろにされてきたという部分も多々あるかもしませんので、そこ辺はまたしっかりと考えていきたいと。できれば学校の中の美郷科の中で、そういうことも勉強ができるといいなというふうには思うところでもあります。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【4番 兒玉 鋼士】

議長。

【議長 山本 文男】

4番、兒玉 鋼士議員。

【4番 兒玉 鋼士】

町長の考えは分かりました。

今後は、町外に向けて空中戦により人材募集することも重要なことですが、ふるさとを盛り上げようとして帰ってきたけど何を始めていいか分からない、そういう人もいるかもしれません、灯台下暗しというか。こういう考え、こういうところは町長はどうでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

おっしゃるように本当にやはり足下からという部分を固めながら、足らざる部分をそういう部分に求めるという話。そしてまた逆もあるということで、両輪の考え方で今後、やっていきたいと。

どういふ方法が一番いいのかというのはまだ分かりませんが、そういうことでしっかりと足下を見直すということもやっていきたいというふうには思います。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【4番 兒玉 鋼士】

議長。

【議長 山本 文男】

4番、兒玉 鋼士議員。

【4番 兒玉 鋼士】

伺いますが、その農業指導員バンク制度というのはあるのでしょうか。あれば、内容と進捗状況を、町長、聞かせてください。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

昔はあったのかもしれませんが、今はちょっと聞いたことがありませんので、ないのかなあと、農業指導員バンクということで、バンクということですので、何か登録するようなところにそういう指導員が登録して、そしてその人たちをどんどんどんどん使っていくという形の制度かなという認識はしますが、ちょっと課長のほうも聞いたことがないということでもあります。

間違っていたら申し訳ないなあと考えております。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【4番 兒玉 鋼士】

議長。

【議長 山本 文男】

4番、兒玉 鋼士議員。

【4番 兒玉 鋼士】

今のところなければ、そういうことでしょうがないと思いますが、できれば今後、

そういうところも検討して、若い人たちに農業指導をして農業ができるような状態にもって行ってもらいたいと考えます。

最近の世界情勢を考えますと、時代は大きく変わり食料自給率の問題にもなると思いますが、人の命を守る食料の確保も今後、危ぶまれる時代に突入することが予想されてます。そのため、将来のためにも若者が農業を始めようと思える状況をつくるためにも、農業体験や研修会等を再度、検討していただきたいと思いますが、町長の考えを伺います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議員がおっしゃることはもともとだと思っております。いろいろな国策の中で、「米が、米が」と言ってますけど、やはり日本の主食は米ですので、食糧難というか、こういう気象変動の中においていつかそういうときが来るんじゃないかと、やはり危惧します。

ですので、米くらいは自給力を持った、早く言えば飢え死にできないような、飢え死にせんような米の生産。昔のごと生産者米価と消費者米価を分けてもいっちゃいけないくらい思っておりますので、やはりそういうことで下支えをする農業者をつくっていくことは重要であると思っております。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【4番 兒玉 鋼士】

議長。

【議長 山本 文男】

4番、兒玉 鋼士議員。

【4番 兒玉 鋼士】

町長、分かりました。美郷町の現状を打開するためにも、しっかりとした対策をお願いしまして、次に移ります。午前中の質問にもございましたが、重複することがあるかと思いますが、再度、伺います。

私は、人手不足の要因は働き手の減少が原因にあると思います。

昔は田植えなど等、隣近所で助けにより農作業を行っておりました。その際に、田植え唄もあり、田代の御田祭があるまでに田植えが終わることが合言葉でした。

田舎においては、猫の手も借りたいほど忙しいと言われてましたが、農業にとっての繁忙期の人手不足が深刻な問題であります。労働力の支援対応策として、農業に対しての人材応援隊の設立の構想はないか、町長に伺います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

本当に労働力という部分で考えたときに、やはりそういう部分が引っ張り出てきますので、今後、皆さんとともに何が一番いい方法なのかちょっと分からない部分がありますけど、事実やっていく必要があるということは、全部、全員そう思う価値観ですので、そこに向かっていい方法をみんなで構築していこうかなというふうには思います。

やはりうちの基幹産業という部分での位置づけでありますので、そういう方向でみんなで頑張りたいと思っております。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【4番 兒玉 鋼士】

議長。

【議長 山本 文男】

4番、兒玉 鋼士議員。

【4番 兒玉 鋼士】

本当に町長の言われたとおり大変難しい問題だとは私も考えますが、地元の梅の収穫時にも人手が足りないと、働き手を探してもなかなかいないとお聞きしています。

地域の農業の労働力の支援は地域で賄えないかと、地域おこし協力隊参入による美郷町独自の農作業受託組織、農業の何でも屋みたいなものに取り組んでいただいて、地元で労働支援力を呼び起こす必要があるのではないかと、私は思いますが、どうでしょうか、町長。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

確かにそのとおり地域にそういう部分をお願いして労働力を賄うということが理想かなあと思っております。

余談になりますけど、町職員がかなりいますので、土曜日、日曜日は空いてくると。これ、労働力にならんかなあと、非常に思うところであります。この町職員がいろいろな形の中で仕事をすると、コミュニケーションもできて産物のことも分かっていくということになれば、非常に一石二鳥というかそういうことも考えられる

のではなかろうかと、今、思っております。「副業の禁止」という部分がありますけど、これを取っ払って何かそういう生産者と相対して来てください、行きますという形でできると、ちょっと地域の労働力とはちょっと離れますけど、役場職員としての労働力はあるかなというふうに思うところでもあります。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【4番 兒玉 鋼士】

議長。

【議長 山本 文男】

4番、兒玉 鋼士議員。

【4番 兒玉 鋼士】

町長のおっしゃるとおり公務員の方たちが結構、町内にも多いと思います。ダブルワークとして、それと農業に、地域に貢献するという意味でも、ぜひそのようなことができれば、そうして地域の人とコミュニケーションも図れることにもなりますし、そういうふうに検討していただきたいと思います。

現在、そういう組織は、じゃあ設立はしてないわけですね。どうでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

いろいろな形の中でクリアできる部分はクリアしながら、やはり労働力という部分は本当に「担い手、後継者がいない、いない」と言われてますけど、本当にそこは別として労働力がないのかと。今さっきキンカンの話をしましたけど、結構、集まってきてるということであれば、まだまだそこまで深刻じゃないかもしれませんが深刻かもしれないという部分で、皆さんと考え方をすり合わせながら、どういう形でその労働力を確保していくかと。

地域にそういう人たちがいれば、その人たちを軸として何か回れないかという部分を考えて、そこに何か応援できないかという部分まで考えていくと非常にいいかなというふうに思っております。

それがその地域で営農組織とかそういうものをつくっていただければ、まだ助かるなというふうに思います。それに対して町のありようを決めていくという形がよかろうというふうには思うところであります。

【議長 山本 文男】

兒玉議員、ここで、ちょっと質問の内容が通告してあるものと何か重なるところがあるのですが、今、何番目を質問されているのでしょうか。

【4番 兒玉 鋼士】

今、2番です。

【議長 山本 文男】

今、2番ですか。

【4番 兒玉 鋼士】

議長。

【議長 山本 文男】

4番、兒玉 鋼士議員。

【4番 兒玉 鋼士】

何か不手際がありますか。なければ、続けますが。

【議長 山本 文男】

はい、続けてください。

【4番 兒玉 鋼士】

町長が、こういう組織があったほうが農業の規模拡大にも影響すると思います。しっかりと対応できる組織をつくるという考えは、町長、どうでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

本当に持続可能な農業を確立するためには、やはり地域が主体となってそういうものをつくり上げて、それにこちらのほうが、町がいろいろな形で応援していくという形が理想だと思っております。

ですので、そういう気持ちというか地区別定住戦略の中でも出てくるんですけど、そういう部分でやるぞという話になれば、積極的に町としては応援していきたいというふうに思っております。

またその中で、この田んぼの形状が悪いとかいろいろ問題が出てくれば、一緒に話して、形状を変えたり、使い勝手がいいように、そういうこともやはり町としてはやっていく必要があると、そういうふうに思うところであります。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【4番 兒玉 鋼士】

議長。

【議長 山本 文男】

4番、兒玉 鋼士議員。

【4番 兒玉 鋼士】

私は、農業の繁忙期は季節労働なのでそういう組織をつくるとすれば、通年において、1年中において農作業の応援隊は受託組織が働くことができるように多品目、組み合わせでそういう組織をつくる必要があると思います。

今、対策をしておかないと、キンカンなどの選果場で働く人たちの平均年齢は70歳近くになっておりますので、将来においては稼働もできなくなるのではないかと予想されます。早急にこのような労働力の組織を支援対策として、組織をつくることは重要なことだと考えます。なかなか大変なことは私も承知していますが、町長の考えをお聞かせください。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議員がおっしゃるのはもっともだと思っております。そのためにどうしたらいいかと、先ほども話しましたが、JAファームがそういう組織をつかって、これを担っていただければ、通年稼働できるというか、そういう仕事を全部集めて、そちらのほうを派遣として出していただければ、もうそれが一番手っ取り早いなという話の中で、そういうことでちょっとJAファームと協議をしてきたわけですが、それがならないということでもありますので、やはり今度は足下を見て、そういう形の中でその地域をしっかりと守れると。

それは田だけじゃなくて、ほかの通年雇用というか、それができないとこれは非常に難しいと。通年雇用ができる中で、その地域だけでも無理だと思えば、隣とかそういうちょっと形を変えた中で通年雇用、そしてできれば、保険関係もぴしゃっとなれば、それで定住していく形が一番理想かなと思います。

そして、その人たちは農業に対してもいろいろな形にしても造詣が深いという形になれば、本当にそれが一番すばらしいという形でありますので、また議員各位と協力しながら、協議しながら、そういう方向性が見い出せばいいなあというふうには思うところです。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【4番 兒玉 鋼士】

議長。

【議長 山本 文男】

4番、兒玉 鋼士議員。

【4番 児玉 鋼士】

町長、分かりました。対策をしっかりとお願いいたします。
そして、次の質問に移ります。よろしいでしょうか。

【議長 山本 文男】

どうぞ。

【4番 児玉 鋼士】

町においては、農業に対する様々な支援策を講じていることと思いますが、その中で、新規就農者の経営確立のための農業次世代人材投資事業や新規就農基盤事業、その活用状況について、町長、お伺いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

本町では農業に対する様々な支援策を講じておりますが、他の市町村にはない町独自の支援策もございます。新規就農者に対する支援としましては、国庫事業であります農業次世代人材投資事業（経営開始型）や、町単独の事業であります新規就農基盤整備事業があります。

また、親元就農等、農業次世代人材投資事業に該当しない新規就農者には町独自の新規就農給付金事業があり、経営の不安定な就農初期段階の支援を行い、併せて町内への移住を促しているところでございます。

令和2年度までの実績としましては、農業次世代投資事業が6名に対し、補助金3,375万円、新規就農基盤整備対策事業が1名、補助金109万7,000円、新規就農給付金が10名に対し、補助金1,702万円を支給しております。

なお、新規就農基盤整備対策事業については平成30年度に制定された事業で、令和3年度は3名の新規就農者に対し1,929万円の補助金を支出しております。

こういう事業を取り組みながら、若い人たちの新規就農を図っているということでもあります。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【4番 児玉 鋼士】

議長。

【議長 山本 文男】

4番、児玉 鋼士議員。

【4番 児玉 鋼士】

町長の話によりますと、結構、今のその事業を、国庫事業とかいろいろありまして、それを利用されている方が多いということでございます。農協等にも聞きますと、美郷町がしっかりと対応していくべきだということでございますので、今後とも御支援のほうよろしくお願いします。

今後有効活用ができることを、時代も大きく変わり国の施策等も変わってくると思いますが、そのような施策が利活用できるように進めていてもらいたいということを願ひまして、次の質問に移ります。

よろしいでしょうか。

【議長 山本 文男】

どうぞ。

【4番 児玉 鋼士】

町内の認定農業者及び農業従事者の規模拡大における農地中間管理機構、農地バンクの利用対策について、町長の考えはどうでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

農地中間管理機構、これはいい制度だと私は思っております。

やはり借り手と受け手が1回、機構のほうに預けて、そしてその中でお金を出したり、受け手は受け手でしっかりとさせていただくという形になりますので、1つは遊休農地の解消になっていくのかなというふうに思っております。

ただ、今のところ何か畜産農家の方があっちゃこっちゃに借りてるという現状がありますので、これがどうかならないかなあと。時間的ロスが起こってるということもありますので、何かそういう部分ではもう少しすっきりできないかと。

あと1つは、そういう担い手というか、何人かのグループがその地区全部、受けないかということですよ。これができれば非常にすばらしいとか、その中でちょっと南郷のほうである地区をそういう形にできないかということで今、協議に入ってるということを課長から聞いておりますので、それがもしできて形になれば、非常にすばらしい前例になってくるんじゃないかというような気がします。この中間管理機構は全国にそれぞれ都道府県1つずつセクターとして置いてるように認識しておりますので、利活用を含めた中で検討していきたいと。

南郷の部分を注視して、そこがモデル的な形になれば、これを本町に広げていけるかということだと思っております。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【4番 児玉 鋼士】

議長。

【議長 山本 文男】

4番、兒玉 鋼士議員。

【4番 兒玉 鋼士】

町長のおっしゃるとおり今の農地を実際、利用されている領域を総監して分散した農地をまとめたいと。それから新規就農するので農地で借りたいときとか、また、リタイアして農地や園地を譲りたいと、貸したい人たちのためにも必要だと思いますが、町長、どう思われますか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

時代の流れといいますか、そういう形で、結局、土地は所有だったんですけど今は利用という部分に変わってきてますので、そういう形でお互いにいろいろな形で利用していただくような形が構築できるようにやっていって、昔の原風景といいますか、それが守られればそれにこしたことはないと。

また、そのような努力をしなければならぬというふう思うところです。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【4番 兒玉 鋼士】

議長。

【議長 山本 文男】

4番、兒玉 鋼士議員。

【4番 兒玉 鋼士】

町長の言われるとおり農地が荒れている状態を見ると、ススキとかが生えている状態を見ると、これほど見苦しいことはない、私も思います。

農地を借りている人に話を聞きますと、現在、貸し手、借り手の契約はほとんどなくて、個々の了解でやると思いますが、親の代から町外の在住者の子供に権利を譲渡したときとか、そのようなことで今後、トラブル発生も考えられますし、作物によっては20年ほど契約も必要ではないかと思えます。

農地の中間管理機構を設立することによって、この農地の貸借契約が成立することで安心した経営にもつながると思えますが、町長の考えを聞かせてください。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

その中間管理機構に出して、そういう形の契約をして、しっかりとした立ち位置ができるということで、ルールがありますのでそのルールはしっかりと守っていただいて、後でこうじゃった、こうじゃなかったというトラブルを引き起こさないように、しっかりとやはりそこ辺はしていくことは基本というふうに思っておりますので、今後とも中間管理機構を通さず、いろいろな形の貸し借りの中でもそういうことがないように農業委員会等々しっかりとさせていただいて、農地の有効利用していただきたいというふうには思うところです。

最後に、問題が起こると非常に今ままでしてきたことが何にもなりませんので、そこ辺はしっかりと法的な手続でやっていきたいというふうに思っております。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【4番 兒玉 鋼士】

議長。

【議長 山本 文男】

4番、兒玉 鋼士議員。

【4番 兒玉 鋼士】

町長、分かりました。現在の農業を維持していくためにも、農業振興対策をしっかりとお願いします。

最後に、私は80歳くらいの人から「今からシキミを新植したい」と言われましたので、「なぜ今からシキミを植えるのか」話を聞いたら、その方は、「自分の代でお金にならなくても地区の若い人が生活するために活用すればいいじゃないか」と笑顔で答えられました。

私たちが先人の人たちから農地山林をプレゼントしていただいた今があるように、次世代にも何かしてあげると、何かしてあげるのが最大の支援策だと私は思いますが、町長、いかがでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

何か心温まるような話であります。次の世代のために、今を犠牲にしてでも何かを残すということだと思いますので、町全体の、さっきの小路議員ではありませんけど、住民の福祉の向上のために何かを残していくということが、こちらの執行側、

そちらの議会側にも求められていきますので、そこ辺をどういうふうに整理して何をしていくかということを大いに議論していきたいと思っております。そういう方向に進めていければ最高だと思いますので、御協力をお願いいたします。
以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【4番 兒玉 鋼士】

議長。

【議長 山本 文男】

4番、兒玉 鋼士議員。

【4番 兒玉 鋼士】

以上、私が質問をしてきましたが、美郷町において私は人が一番大切だと考えております。人がたくさん、減少しないことが。先人の方々が守り続けてきた農地を生活基盤として、そのためにも若い人が1人でも多く美郷町で自立定住していただくことを願いながら、私の本日の質問を閉じます。

【議長 山本 文男】

これで、4番 兒玉 鋼士議員の質問を終わります。

【議長 山本 文男】

以上で、本日の日程は全部、終了しました。
本日は、これで散会いたします。

【事務局長 小田 広美】

「一同・起立・礼」・・・お疲れさまでした・・・。

(散会：午後 2時40分)

令和4年第1回定例会

美郷町議会会議録(第3号)

令和4年3月10日

美郷町議会

令和4年1回美郷町議会定例会会議録（第3日）

令和4年3月10日（木曜日）

◎開会日時 令和4年3月10日 午前10時00分 開会
◎散会日時 令和4年3月10日 午前11時38分 散会

◎出席議員（11名）

1番	若杉 伸児君	2番	早川 節夫君
3番	中田 武満君	4番	兒玉 鋼士君
5番	中嶋 奈良雄君	6番	川村 義幸君
7番	那須 富重君	8番	小路 文喜君
9番	甲斐 秀徳君	10番	川村 嘉彦君
11番	山本 文男君		

◎欠席議員 なし

◎欠員 なし

◎会議録署名議員 7番 那須 富重君 8番 小路 文喜君

◎事務局職員氏名 事務局長 小田 広美君 書記 森川 晴君

◎説明のための出席者職氏名

町長	田中 秀俊君	副町長	藤本 茂君
教育長	大坪 隆昭君	会計管理者	三榎 治君
総務課長	下田 光君	税務課長	甲斐 武彦君
企画情報課長	田常 浩二君	町民生活課長	田村 靖君
健康福祉課長	黒田 和幸君	建設課長	林田 貴美生君
農林振興課長	松下 文治君	政策推進室長	沖田 修一君
教育課長	石田 隆二君	地域包括医療局事務長	黒木 博文君
南郷地域課長	川野 一郎君	北郷地域課長	泉田 浩文君

◎会議の経過 別紙のとおり

令和4年第1回美郷町議会定例会 議事日程（第3）

令和4年3月10日
午前10時開議

日程第1 一般質問

7番 那須 富重 議員

1. 医療提供体制について
2. 住宅政策について
3. 特A米の価格向上について

2番 中嶋 奈良雄 議員

1. 田畑の耕作放棄地の対策について

会 議 録

令和4年3月10日
午前10時開議

【事務局長 小田 広美】

「一同起立・礼」・・・おはようございます・・・御着席してください。

【議長 山本 文男】

改めまして、おはようございます。

定例会三日目であります。傍聴の方に対しまして敬意と感謝の意を表します。ありがとうございます。

本日もよろしく願いたします。

【議長 山本 文男】

ただいまの出席議員は11名であります。

【議長 山本 文男】

これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程はお手元に配付の議事日程表のとおりであります。

なお、広報用の写真撮影の申出がありましたので、これを許可します。

【議長 山本 文男】

日程第1、一般質問。

今回、一般質問の通告のありました議員は6名であります。

昨日は4名の質問を終えていますので、本日は残り2名の一般質問を行います。

通告順に一般質問を行います。

通告順に質問を許します。

7番、那須 富重議員の登壇を許し、1問目の発言を許可します。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

おはようございます。2年ぶりの一般質問であります。通告順に従いまして質問に入りたいと思います。

まず1番目に、医療提供体制についての質問であります。

コロナ禍により医療従事者感染症対策の最前線の業務に携わる方々に心から敬意と感謝を申し上げるものであります。昨日の一般質問でも医療の質疑が行われましたけれども、今日は私なりに質問したいと思います。

今回の選挙では、南郷診療所の無床化の件で町長もそうだったと思いますけれど

も、私たちが一部の有権者や応援をしていただいている人たちからも大変、厳しい避難の言葉を聞かされました。

特に、私は現職だったこともありまして、遊説のときに、「南郷の議員が3人もおってどうしたもんや」と、それから、「どんげでもでけんかったつや」とか、それから「もう悪なっても当てにならん。南郷には住めんが」というような非常にそういった言葉がいまだに耳についております。今日は町長にその恨みつらみを申し上げるわけではございませんけれども、もし出たときには御理解いただきたいと思ます。

それでは早速、お尋ねをします。

現在の西郷病院、北郷診療所、南郷診療所の医療提供体制は適正であると御認識されているか、町長にお伺いをいたします。

【議長 山本 文男】

町長の答弁を許します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

おはようございます。昨日の小路議員のほうから医療提供体制のことで質問をお受けいたしました。

この医療提供体制は万全かというか、最上の策という問いであります。今、考えられる中においては最上の策であるということだと、私は認識をしております。昨日も言いましたように、1つの国保病院と2つの診療所をしっかりと維持していくということが、今後、私に課せられた責務ということでもあります。

やはりほかの町村から見ると、1つの町に3つの病院があるということ自体が非常に不思議に見られるというかそういう中ではあります。しっかりと維持していくことが私の責務だと思っておりますので、今後もこの体制を続けていきたいと思っております。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

五ヶ瀬町の隣の熊本県側のほうに山都町がありますけれども、ここは美郷町と同

様に平成17年に蘇陽町、矢部町、それから清和村の2町1村が合併してできた町があります。

この町には人口1万5,000人をカバーする山都町包括医療センターそよう病院があります。本町議会でも令和2年1月24日に視察研修に行っていました。5人の医師体制で週1日ですが、ほかにも3つの診療所に医師を派遣しているこの病院の総院長は水本先生で、現在70歳を超える医師であります。週5日午前の診察とエコー、胃カメラ、大腸カメラを担当する業務に当たられる先生で、時には交替勤務にも入るといふ方です。

充実した医療提供体制から、この病院は椎葉村や五ヶ瀬町の宮崎県側の町村の患者の多くが利用してありまして、企業の健康診断などもこのそよう病院で行っているようであります。大変羨ましく思ったところでした。

翻って美郷町はということになりますと、直近では南郷診療所の定着医が患者の不評を買って辞表を出し辞めてしまいました。その後、南郷診療所に派遣の医師が9時間からの診察開始時間に遅れることが常態化してありまして、10時、11時開始が当たり前で、時にはとうとう午後になりまして、患者は一旦、昼食を取りに家に帰って、また来る羽目になったという話を直接、私は伺いました。

昨年の決算委員会のときでしたか、私はオブザーバーでしたので終了後、このことを直接、金丸総院長に話しましたが、その後、月曜日のみ院長の東先生が南郷診療所で診察することになり、安心したのもつかの間、一方の遅刻の先生は相変わらずということでした。

この医師は、宮崎から通勤しており、一旦、西郷病院に行き、自分の患者を診て南郷診療所に行っていたということですが、こういったこの医師の派遣体制について、町長はどういうふうな感想をお持ちでしょうか。

【議長 山本 文男】

町長の答弁を許します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

そういう話を聞いたときに、金丸先生を呼んでしっかりとした体制の中で勤務時間を守るようにという話をいたしました。でないと、患者様が早く来てずっと待つてとうとうという話も聞きましたので、これは何のために診療所を開けているのか分からないということになりますので、その先生に対してしっかりと時間を守るようにと。

救急的なものがあれば、それは分かるんですけど、それが慢性化するということであると、非常に町民の医療提供にますます輪をかけて不審に思うということでもありますので、そこはないようにということで厳しく言ったところでもあります。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

この地域包括医療局の金丸総院長は、西郷病院へ週一日か二日の勤務だったと聞いておりましたが、実際にそうだったのでしょうか。

そうだとすれば、週1日の勤務で、一日、二日の勤務で包括医療の管理をするには大変無理があると思いますが、いかがでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

今は多分、週1木曜日だけなっていると思いますが、無理があるということではなくて、やはり今までの経験といろいろな形の中で病院を見てますので、無理ではなかろうという判断は私はしております。

また、先生のほうは医療というかそういう部分と、加えてやはりいろいろな委員をしておりますので、情報が非常に早いという部分がありますので、そういう意味で、うちの医療体制という部分に大きく貢献をしていただくという面で非常に助かっていると私は判断をしております。やはりそういう時期、定着医をしっかりと見つけた中で交代をする時期が来るのかなあというふうには考えておるところでもあります。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

私は、このそよう病院の水本先生の勤務の在り方とこの金丸総院長の勤務の在り方、これを比較しますと、あまりにも違いが大き過ぎると。そよう病院の水本先生のもとには熊大の附属病院、熊大からも率先して研修医が派遣されてくるといいう実態があります。こちらのほうで美郷町の病院にあっては、なかなか医師が

いない。医師がいないということでいつも話をされております。

私たちも、町長も一緒に行かれましたが、県のほうに要望活動に行って福祉保健部のほうに「また先生お願いします」ということで、何度か足を運びましたけれども、ああいうときでもやはり自信を持ってやっていただけるといような先生を派遣していただければというふうに言いたいんですけども、こちらのほうが言うことと向こうの部長さんなんか答える反応にちょっとやっぱりギャップがあるような感じがしてたんですね。

結局、県のほうで受けている感じでは、「私たちはそんなふうに変だとは思っておりません」ということで、こちらのほうでは金丸総院長からいつも「医師がいない、医師がいない。私も大変なんだ」ということで聞かされてるものですから、私たちは本当にもう、本当にこれは行かなきゃ大変だというつもりで行って、お願いをしてきたつもりであります。

そこら辺りのところのギャップといいますか、そこ辺りのことをしっかりとやはり日頃から本当に話して、埋めて、距離を詰めたと思うんですけども、何せコロナ禍でもありますし、病院のほうへの出入りの自由もありませんということで、なかなかそういうこともできませんが、できればそういう機会をこれからはコロナが明ければ、頻繁につくって距離を詰めていって、膝を詰めてしっかりと協議をして進めていかなくちゃいけないという自覚しておりますけれども、町長、いかがでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

おっしゃるとおり今の喫緊の課題は「医師の確保」ということであります。それも定着医ということで、この病院を3つ回すためにはやはりその「派遣、派遣」という部分はいつ崩れるか分かりませんので、その先生たちのパイが少なくなるということになると、こういう形にはならないだろうと推察されます。

そしてまた、働き方改革等々が出てくれば、非常に難しくなってくるということが想定されますので、この1年間やはり議員さん皆さんと一緒に、その派遣医師はもとより、しっかりとお願いするということはお願ひして、定着医をどうしても見つけたいと。1人か2人いれば、しっかりとした医療提供体制ができてくるいうことを思ってますので、この定着医を見つけることに全力を尽くすという気持ちで、ほかの仕事は放ったらかしてでも、やはりこの医師は見つけなければならないと私は思っておりますので、そういう意気込みの中で県福祉保健部の医療薬務課の課長等としっかりと話をしながら、医師の確保に努めていきたい、そういう思いであります。

そして、その先生が、やはりその先生の医療の技術もさることながら、やはり人間性かなあという部分もありますので、やはりそこ辺も含めたしっかりとしたお医者さんを見つけることがうちの町民に対しての安全安心の提供できる医療体制が構築できるというふうに判断をしております。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

南郷の前任の所長、定着医の先生が辞められて、その後はこちらのほうから所長として今の派遣が行かれています。その後定着医を探さなくちゃいけないと思うんですね。その定着医を探す方法は、どういった方法で探されているのか、お聞かせください。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

いろいろなところといいますか、結局、宮大の医学部、それと県のほうの医療薬務課、それとあとはネットで厚生労働省が出してる、出してるというか認可しているそういう事業団体がありますので、そこに載せていると。3つくらいあるんですけど、そこへ載せてると。

それと、つてを頼って、宮崎県病院の先生に会ったりして、そういう先生はいないでしょうかということ、私独自で当たったりと。それと、区長さん等々を通してそういう先生、こちらの出身の先生方はいないかという部分での情報、そういうものを集めてやっていると。

なかなかそれでもこういう先生はおってもなかなかこちらにはまだ帰ってこれないというか、そういう話の中でやっております。

ですので、その方法がいいのかどうかという部分も問題なんですけど、やはりもう少しスピード感を持ってといいますか、そういう形の中でお医者さんを探す工面をしなければならぬというふうに思っておりますので、何か議員のほうでいい知恵があったら、お貸しいただきたいなあとというふうには思うところであります。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

この定着医がこちらのほうに就任されることが、本当にもう喉から手が出るくらい私たちも待ち望んでおるところであります。そういう環境をつくるためには、研修医がこちらに来たくなるような環境をつくらなくちゃいけない。そのための定着医ということでもあります。

またその節は、私たちもいろいろな対策をしながらやっていかななくちゃいけないかなと思います。金丸総院長がコロナ禍が明けてそういうことになれば、またそういったことも深く突き詰めて考えたいと思いますので、その節はまたよろしく願います。

それから最近の保育所の園児のけががありました。この対応についてもそうですが、幸い大事に至らなくてこれはよかったんですが、これが命に関わるようなことであれば大問題となります。

当てにならない療養機関があれば、患者は離れてしまいますと同時に安心して住める環境としても問題があるという認識を持たれてしまいますので、この辺は本当にしっかりと管理をしていただくように、院長にはお願いしたいと思います。

また別の話になりますけども、これは現在、心臓病の患者さんが西郷病院で治療を受けております。その患者さんは12名おられますが、うち10名が南郷から通われていると。2名が西郷の患者さんです。

南郷の患者さんが言うんですが、やはりもう高齢で80歳近くの方が、80歳をもう超えている方もいるんですが、自分で今は運転して来てるんですけども、距離があっただんだん大変になったと。それと、このコロナ禍にありましてやはり移動の途中の心配があるということで、西郷までガソリンをわざわざ焚いていかんでも、先生が1日南郷に来てもらうといいじゃないかというような話も出てるんですが。

これは事務長に話をしましたら、「これ、金丸院長の問題じゃないか」ということだったんですけども、取りあえずやはり美郷町の病院の件ですから、いろいろ南郷、西郷、北郷を管理するという点で、町長の考えをお聞かせください。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

そういう実態があるという話は少し聞いてたんですけど、なぜその診療所でできないかという話まで聞いてませんので、その件については少し総院長と話して、比重的に10人ということであれば、これが毎日という話でもないでしょうから、月1回とか。その病気というか、なかなか難しいところがあるという話はあるんですが、それで治療して何か証明を出して、そのお金を給付できるというような形になってやっているという内容でしょうから、高齢になってなかなか通院が難しいということであれば、また総院長に「何でそこでできないか」と。誰かが行って、そのときだけ診るということで、できないかというような話はしていきたいと。

やはり利便性をつくってほしいという話はしていきたいと思います。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

ぜひ進めていただきたいと思います。今、無床化になってしまって、本当に大変な思いをしておりますので、そういったことが少しでも出てくれば、また考え方も変わってくるかと思っておりますのでよろしくお願い致します。

それから、4月1日から南郷の医師住宅のほうに住みまして診療所の勤務に当たるといふことで、地区の方も大変喜ぶと思っておりますけれども、そういう先生が南郷常駐で来られるという話です。

この先生の専門は何か、今お分かりでしょうか。

【地域包括医療局事務長 黒木 博文】

議長。

【議長 山本 文男】

地域包括医療局事務長。

【地域包括医療局事務長 黒木 博文】

二宮先生という方が来られるんですけど、南郷診療所の所長をやっていただくというような形になるかと思っております。

専門は精神科医です。

以上です。

【議長 山本 文男】

事務長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

もう一度、精神科医ですか。

ちょっと今、あまりにも驚いているんですが。

これ、南郷診療所、言ってみれば総合診療を携わる先生ですよ。あまり私たち

があれこれと言える立場ではないんですけれども、何とかやはり。できれば内科・外科総合診療を担当できる先生を期待しておったんですけれども、やはりこの先生しか採用に至らなかったわけですね。

【地域包括医療局事務長 黒木 博文】

議長。

【議長 山本 文男】

地域包括医療局事務長。

【地域包括医療局事務長 黒木 博文】

精神科医なんですけど、自治医大卒でありますし、総合診療はできます。

それと、椎葉とかいろいろなところで総合診療を経験してますので、37歳でありまして経験豊富ですから南郷診療所長として大丈夫だと思っております。

以上です。

【議長 山本 文男】

医療局事務長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

それを聞いて、今ちょっと安心しましたけれども、また先生には一生懸命に、できれば地域の方に親しんでいただいて、できるだけ長くいていただくことを私たちも勧めたいと思います。

それから次の診療所の公設民営化という点で私、今回上げておりましたけれども、この件について、何か町長なり考えられたことはないか、お伺いいたします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

診療所において、公設民営ができれば非常にありがたいと。これが理想かなと思っております。

いろいろな費用といいますか、その維持する部分は公設ですので、こちらが負担してもそういうお医者さんが来ていただければ非常にいいかなと。

その最たるものが、議員さん皆さん御案内のとおり北郷の診療所です。横山先生という女医さんがいましたが、その先生が長きにわたって北郷の町民の健康を1

人で受けていたということで、北郷の町民にとっては公設民営という部分は非常になじみがあると。

地の利といいますか、延岡が近いという部分もあったんでしょうけど、入院やはそちらのほうでという話の中で公設民営がしっかりとなされたということでありますので、今後、お医者さんを見つけることが非常に厳しい状況の中で、そういう先生がいらっしやればと。

ですので、やはりうちのホームページとかそういうものの中にも、またそういう厚労省が認めた事業者の募集の中にもやはりそういうものを入れてやっていきたいと。そういう先生がいれば、これに越したことはないというふうには思っております。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

財政的にも非常に厳しいということは私たちも分かっておりますので、できればそういう一般の病院の定着医の採用と、この公設民営と並行してでも何とかお話を進めていただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議員おっしゃるとおり、やはりそちらのほうもしっかりとやっていきたいと。医師を探す中で、そういう先生がいらっしやれば、すぐ任せたいなあと思うんですけど、お医者さんなら誰でもいいという感覚はちょっとなくなったと、私自身が。お医者さんはお医者さんしかできないんですけど、やはりその前に人格というか、やはりそういうものも大切かなあという気がします。

特に、こういう中山間地域のお医者さんとしてはやはりお年寄りが多いものから、寄り添うような先生に来てほしいなあと思っておりますので、そういう先生を求めながら、この公設民営が可能であるというか、そういう先生がいるかいなかでもう公設民営は決まってくるので、お金がかかろうと、やはりそれはそれでやっていく価値はあるというふうには思っております。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

これからの安心安全の住環境のためにはこの医療提供体制というものは非常に最たるものであると思います。私たちが議員を目指したときには、やはり町民の社会福祉の向上、これが議員の最たるものであるということ、私も頭に入れて議員になっておりますので、その最たるところがこの医療提供体制の充実というところにあると思いますので、町長だけでもなくて私たちも汗を流したいと思いますので、何かあれば協力できるところは一緒にやっていきたいと思っています。

それでは、2問目の質問に行きたいと思いますが。

【議長 山本 文男】

2問目の発言を許します。

【7番 那須 富重】

それでは次に、住宅政策についてということであります。

コロナ禍の中にありまして、地方にとって唯一明るいとも言える情報があります。それが都会を出て地方に移住を希望する人たちが増えてきている。その中でも美郷町に興味を示す人たちがいるけれども、直近の情報で住宅について、去年は五十数件の問い合わせに対して入居可能な物件が二、三軒しかないという話を聞いておりましたけれども、現在、どのようになっているのか、お伺いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

コロナ禍の中において、そういう世の中の動きが出てきたと。ありがたいことだというふうに思っております。

昨日も言いましたように、移住相談件数が非常に増えているということでもあります。平成28年度で25件あったのが令和3年度2月末現在で159件の相談を受けていると。以前も宮日のほうに担当が美郷町のオーダーメイドという形でやっている。

住宅と仕事というものがセットでなければなかなか定住も難しいかなあというふうに思っておりますが、今、可能な空き家といいますか、それは8軒ということがあります。売却が6軒と賃貸が2軒ということですので、非常に少ないということでもあります。

空き家の希望者というか46世帯くらいあるということなんです、そのうちで

8件くらいしか使えるような空き家がないというのが実態ということでありますので、まだまだしっかりとした空き家対策にはなっていないというのが現状かなというふうに思っておるところでございます。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

今日も先ほど、控室のほうで話しておったんですが、この美郷町も1年に100名から120名くらいの人口減少が進行しております。そういった本町ですので、この美郷町の「まち、ひと、しごと」ですかね、地区戦略のほうでも2040年に人口を3,600人を目指すために、移住定住促進のためということで、目標を掲げてやっておりますけれども、このためにも今はいろいろありますけれども、やはりこの住宅政策は医療提供事業と併せて、本当に最優先課題だと考えておりますが、いかがですか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

医療とやはり人口を増やしていくということに関してやはり住宅が必要だというふうに思っております。それも空き家を利用するという形です。

やはり空き家をしっかりとしたものでリフォームして、町が購入して、そしてそれをリフォームして住宅として貸し出すとかいろいろな形で考えていく必要があると。

ですので、公共住宅も大体全て98%くらいが使われているという話でありますので、なかなかこれも維持しながら空き家を改修しながら住んでいただくという形をとったほうがいいかなあというふうには思うところです。

やはり人が増えるということは、家があればなかなか難しいということですので、本当にこの空き家対策、住宅対策になりますけど、何か本当に難しい問題ですけど、何かいい知恵をいただいて、それを改修して住宅として使用していただくような政策ができないかなというふうには思うところです。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

企画情報化のほうで地区別の定住戦略が進行中で、先日、2月中ですかね、町内の15行政区の担当が集まって徹底した人口や地域体制の診断を基に、地域の住民自らが人口減少対策が目的の戦略を策定していくということで、北郷のほうであったようでございますが、非常にいいことだと思います。

私も、ちょっと28日議会ということで、たしか27日だったと思うんですが、ちょっと行けなくて残念でした。そのときの話をできれば聞きたかったんですけど、また後日でもいいですからその成果について聞かせていただければと思います。

こういう移住者を受け入れるためには、まず住む家が本当に必要であります。話は南郷村のときに遡りますけれども、地域の農家の方が、息子が定年を迎えたら田舎に帰ってきて農業をやりたいと言うから、今、住んでいる山際にある水屋敷を出て、広く農業をするのに便利なところを宅地にして二世帯住宅を造るために、農地の宅地転用の申請を何度も試みたが認められなかったという事実があります。

これは私がお父さんのほうから直接聞いたんですが、結果的にこの方はもう怒って、息子さんに「もう帰ってこんでもいい」と言って、元の水屋敷の家を改修して奥さんと2人で暮らしております。

さらに、これは県外に行かれている看護師さんをしている独身の娘さんがいるんですが、「自分が田舎に帰って親の面倒を見る」と言っておりますけれども、親御さんのほうが「もう田舎には帰らんでいいから、宮崎辺りに家を探して、そこに住め」というようなことも言っております。

この話を聞いたときに、町長、どんなですか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

そういう感覚というか気持ちで住んでいるということ自体が何かやはり寂しいなあと。やはり行政がもう少しそこ辺を感知しながら、住みよいまちづくりという部分をしっかりと考えていかなければならないなあとというふうに思います。

制度が悪いのか法が悪いのかいろいろあるかもしれませんが、その中で、もう少しその人たちの意に沿うような方向性を見つけていかなければならないというふうに思いますので、初めから「もういんで来んでいいわ」とかそういうことにならないようにやっていきたいなというふうには思います。

そしてまた、昨日も言いましたように、小さいときから美郷を愛する心というか、そういうものを持って大きく羽ばたいて、また帰ってきてほしいと、そういう部分

は非常に思うところでありますので、教育の面での美郷科というかそこ辺は大事なところかなというふうには思っております。
以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

こういったことがありましたものですから、数年前に県への要望活動のときに、「過疎化が進む地域ではもっと自由に住宅建設ができるように、宅地の転用申請を認めていただきたい」と、直接、私は知事のほうにも申し上げました。

ところが、このときの知事はまだその状況がよく分からなかったのか私の説明が不足だったのか、「とにかく空き家を先に利用していただきたい」という話でしたね。

その足で同じく農政水産部の部長にも会いまして同じようなお願いをしたところ、その回答が、「部下にはあまり厳しくするなと言ってるんですが」ということでございました。

現在は、あれからもう数年たってますけども、現在、河川の堆積砂利対策が大変、追い風になっておりまして、宅地の造成にも堆積砂利が非常に活用されております。最近では既に完成しているものもありますけれども、着工中を含めて現在、私の知っている限りでは4件の宅地の転用が認められておりまして、今、着々と進んでおります。

こういった住宅建設条件の環境改善が進んでいるところでありましてけれども、新たな町営住宅の建設を含めて新築の補助、解体費用の補助など、今後の住宅対策を今後はどうに進めるのかをお伺いいたします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

今度の予算に住宅関連の予算がかなり上げてあると思います。

大きなもので言えば、ちょうど林業大学校を造ったような二階建ての若者向け用を南郷のほうに造ったらどうかということで予算を。

それと今後、「こういう制度があるからこういう住宅を造っていきましょう」ということで、今度の予算やらに入れてますので、そこいら辺をしっかりと聞いていただいて議論していただきたいなあとというふうには思っております。

ですので、そういう形をとりながらやっていくべきだというふうに、本当に空き

家を利用しながらと、そしてまた新しく建てながらという中で、このコロナ禍で変わった風景がこちらのほうにそういう若者が、また若者以外の定住促進が図られればそれに越したことはないというふうに思っております。

ですので、先ほど、地区別定住戦略とあって、24地区あるから、これは1年に1世帯ずつ、その地区に住んでいくと24世帯になるということで、その次もまた1世帯ずつという話なら当然、家が足りなくなるという話になりますので、そこ辺を見据えた中で、しっかりと対策を講じていきたいと思っております。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

ぜひ積極的に進めていただきたい案件だと思います。

それから、現在、町内には町営住宅はあるわけですがけれども、この同じ町営住宅に10年、20年と住み続けている方がおられます。本人たちが言うには、「できれば持ち家として住み続けたい」と。「分譲ができるのであれば、ぜひ購入したい」という方がいますけれども、この件についてはいかがでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

現にもう売却した住宅もありますし、今、それをどういう形で造ってるのかという部分もあるんですけど、ある程度、年月が経てばもう売り払ってもいいと、私は考えております。

ただし、法的にクリアできる住宅であればという前提はつくんですけど、そういう形で考えております。

ですので、そういう住宅を買ってもらって、買えばもう出ていくことはありませんので。そしてまた違うところに公共住宅を設けるといって行けば、非常に効率的になってくるのではなかろうかと。

ある程度、年月がたつと修繕費も増えてきますので、そういうことを考えれば、購入したいという人がおれば、もうそちらのほうに譲って違う場所に新しく建て替えたほうがいいのかあというふうに思いますので、空き家と公共住宅とやはり別個の考え方でやっていく必要があるというふうには思っております。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

こういう住宅は長々と住んでいると愛着も湧いてきます。また、子供たちが育ち上がってよそに出ていって、よそに家を建てれば、この家がもうなくなるということであればそちらのほうに吸収されて人口がそちらのほうに流出するということも大いに考えられます。

先ほどから言いますように、とにかく人口減少対策、これの一番の問題は住宅の供給ということでありましょうから、ぜひお願いしたいと思います。

それでは、3問目の質問に行きたいと思いますが。

【議長 山本 文男】

3問目の発言を許します。

【7番 那須 富重】

3問目は、特A米の価格向上についてということであります。

昨日からの一般質問でも称賛する声が、何人もの方が相次いで発言されておりますが、昨年もチャレンジしてました特A評価米の排出の圃場の米が今年3月5日ですかね、令和元年、令和2年、そして令和3年産と3年連続で日本穀物検定協会の食味ランキングで最高評価の特Aを取得したというニュースが、これは私のほうに県議のほうから直接、来ましたので、いち早く情報が入ったんですが。

本当に本人は2月20日から下旬にかけて報告があるというふう聞いておったけれども、連絡がなくて今年は駄目だったんじゃないかということで、非常に、私が後で連絡したときには落胆をしておられました。そのときの第一声は、本当にもう、向こうで。

本当にうれしくて、電話の向こうでも泣いておられました。2回目の美郷町が特A米のこれを取ったときに、宮崎県庁のほうにお礼に伺ったんですけども、そのときに、えびの市の向こうの担当の方が水稻部会の部会長で高牟禮さんという方が来られてたんですが、この方がいろいろと苦労話をされたんですが、本当に命がけでこの米を作りましたということで報告をされておりました。いまだに私も脳裏に焼きついておって、この大事さというか、これをやはりもっと私たちは分かってやらなくちゃいけないんじゃないかという気がするんですね。

これは西北中山間地ということで、西北の3村4町をカバーする、五ヶ瀬、高千穂、日之影、椎葉、諸塚、美郷、西米良まで、この7つの自治体がそういう特Aということで誇れる成果ですから、これはほかの自治体は本当に喉から手が出るくらい欲しいんですね。何とかこれを、まずはここでたたえていただいて本当によかったということで。これが大きな看板になって、今から売り込むことができるわけで

すから、何とかこの辺のところをしっかりとたたえていただきたいと思います、いかがでしょうか、町長。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

本当にうれしいことであります。命がけで作った米がこのように評価されたということで、3年連続同じ方が同じ場所で特Aを取ったということでもあります。

夏の暑い時期に視察に行ったときに、議員も一緒に行かれたんですけど、いろいろな御苦勞があるということで、やはり今、スマート農業の中で水管理とかいろいろな形をやっているという話の中で、大変な御苦勞だと思って、生産者の方には頭が下がる思いということで、議員からも喜びのメッセージが来てました。私も本当によかったなど。

えびのとJA日向という話になりますが、もうちょっとその温度差がというか、この議会が終わったら組合長に会いたいというふうに思っております。この米をどういうふうに考えているのかという話をしたいということでもあります。

うちのほうで、今回は1等米につき600円ですかね、補助をしているということで、どんどんどんどん農協の買い値が下がって来れば、1等米8,000円という部分で考えてると、どんどんどんどんうちのほうが出していかなければならないという話になりますので、それでは農協さんとはという話にしていきたいと思っております。

今月の末、31日ですけど、知事の表敬訪問ということで、この特Aの受賞ということで報告に伺いたいと。ですので、まだ何時になるかとかそういうことははっきりしてませんが、決まったらまた議員の方全員とはいきませんが、このコロナ禍でありますので、それとJA日向ということで、報告をしてと。

やはり特Aを3年連続取ったというのは事実なんですから、これが価格に反映されていかんと何にもならないという話は言い過ぎですけど、やはりそこが問題だと。やはり価格、米農家さんがやはり手取りが多くなるような工面をしていく必要があると。それがどういう形です。全国的に今、米余りという部分でそういう形になってますけど、やはりちょっと違った動きをしていってもいいんじゃないかという気がしておりますので、何かそこ辺をみんなと一緒に米の価格を上げていきたいというふうに思っておりますので、そういう話も含めて農協さんをお願いしたいということでもあります。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

本当、今、町長がおっしゃったとおりで、私もその辺を聞こうと思ってたんですが、特Aの評価になったからといってJAの米の買い上げ価格が上がっていないと。どこに問題があるのかというふうにあったんですけども、これにはやはり今の米余りの現象とかで私なりに考えたんですけど、町長は同じような考えでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

確かに国のほうはそういう形になって動いているということでもありますけど、今から先、昨日も言いましたように食糧危機というか、そういうもの、それと日本の主食ということ考えたときに、やはり米はしっかり置いとかんといかんという基本的にそこが足下にあるというスタンスですので、やはり米をどんどんどん今、飼料用米とかそういうほうに転換していった部分もありますけど、作らなくなるとやはり風景が変わってしまうということも、環境がおかしくなるという部分も非常に大切な要素ですので、何とかしてそういう作る意欲を持たせるがために、そういう米の価格という部分を考えていきたいと。

ですので、昨日、変なことを言いましたけど、「生産者米価と消費者米価は違っていいじゃないか」と、「米を国が高く買い上げて安く売ってください」と、「また元に戻してください」というような感覚では、私はいます。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

本当に今年は3年連続の特A米の大きな快挙ですから、独自の販売ルートの開拓も視野に入れていくべきではないかというふうに私は考えているんですね。やはり今のところではこの宮崎県、特にこの美郷町なんかは、持っていく先は公というか団体に対しましては個人で売買するかJAのほうに納めるかしかないわけです。その買い上げ価格が販売価格ということになるわけですから、そこが動かないことには生産者には還元されないということはもうはっきり分かっています。

庭先に車を乗りつけて買っていかれる方のほうが、値段的には安定して手数料も

ないし高いんですね。実際にはそういうところで売られている方も結構、いるわけですね。

それと、私も上京した折には、努めて一番の日本の真ん中、日本橋とか銀座のそういう大きなデパ地下に行って、米がどのくらいの価格で売られているのかということ調査をしております。行くたびに私は行くんですが。

そのときに、大体、売られているのが、今年の11月に2年ぶりに行ったときに見ましたら、5キロで6,900円で売ってます。これがどこの米かと言いますと、ほとんど東北で、青森、秋田、山形、岩手、それから北陸の新潟辺りの米が売られております。

この5キロで6,900円、これを30キロに換算しますと4万1,400円です。こちらのほうの農協の買い上げが7,400円として、600円を町が足すわけですから、仮にこれが半額として2万であっても十分に採算が乗るわけですね。

これは何が違うのかと私は考えるんですけども、東北は中央のほうに持っていく。宮崎はJA止まり、せいぜい宮崎県で終わってると。このところに売り込み先によって価格がこれだけ違うんじゃないかというふうに考えているんですね。

はっきり言いまして、11月頃の収穫直後の米を食べてみますと、特にこの特A米なんかはもうほとんど遜色はありません。私も関東のほうに13年間住んでいたことがあって、そのときに車を貸した県の職員から帰りに持ってきた魚沼産の米をもらって食べたんですけど。今、考えてみれば、決して負けるとも劣らないような味です。これはもう自信を持ってきて持ってきてくれたんですけども、今、考えてみれば、確かにおいしかったんですけども、それに匹敵するくらいの味です。これは収穫直後の米ですから、私も自信を持って言えるんですけど。

だから何が今、足りないのかというのは、やはり自分たちがそこに売り込みに行くことが大事だと思うんですね。美郷町もこのコロナ前には川崎とか横浜とか池袋のほうですかね、中野課長なんか時々行かれてました。そういう加工品とかいろいろなものを売り込みに行っておりました。そういった売り込みの商品の中にもこの米もやはり入れて、少しずつ知名度を上げてブランド化を進めていくことが必要じゃないかと思えます。新宿にKONNEもありますし、いろいろとイベントをやれば収穫の時期に炊いて食べさせる。コロナ禍で今はできないかもしれませんが、そういった取組も頻繁にやっていると。それによってこの美郷町という美郷米という名前をブランド化していくというのが非常に大事だと思います。いかがでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議員おっしゃるように、やはりそういう努力をする必要があるというふうに思うところであります。

豊見城市に宇納間米として出しておりますが、それが定着するのにどのくらいかかったかという話でありますけど、結構、長年、年数がかかっていることでもありますので、やはりそういう毎年、毎年、そんなイベントをしながら売り込んで

いく必要があるかなあと。

ですので、特A米を取った美郷町産米という話で出せれば一番いいんですけど、何かそこ辺ももどかしいところがあって言えないと。今さっき言ったように7町村、そこが西北中山間地域の米ですよという話になると、どうも違和感があるという。

「違和感」というか、美郷町産米が特Aを取ったということが一生懸命、言えないという部分でもどかしい思いをしますが、議員おっしゃるように、そういう努力をしながらブランド化を図ると、宮崎県的美郷町の米はおいしいねというような形になっていければと。それも農協さん、JA日向の振興協会、ひむか米の、そことタイアップしながらやっていく必要もあるかなというふうに思っております。

本当にせっかくすばらしい米を生産者が作ってるというのは現実でありますので、事実でありますので、そういう方向で取り組みたいというふうに思っております。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

今、やはり全ての田んぼを見てみますと、「今まで」と言ったほうがいいでしょうけど、やはりおいしい米ができる田んぼ、水田でも飼料米、WCSなんかを作ってる人もいますね。それはやはりもちろん牛の飼料を作るのも本来の目的でしょうけれども、ただこれはやはり手が回らなくてそのままになってたりとかという話もちよっと聞いたりしますので、そういうおいしい米ができるところは誰もが競って「そこは私が作るんだ」というそういう機運が高まるような取組が必要だと思いますね。そこにはやはり個々の価格の向上ということが非常に大切になってくると思いますので、もうちょっと頑張っていたきたいんですが、どうでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

やはり価格に転嫁していくことが、やはり生産意欲につながるということになりますので、やはりどうにかして高くで売りたいということは共通の思いでありますので、議員皆さんと協力してそういう体制をつくっていききたいなあと思っております。

ちょうど価格というか、NHKで魚沼のコシヒカリですかね、棚田で作っているドキュメンタリーがありましたけど、やはり涙が出てくるような苦労ということで、やはりそういう思いの中で生産者は頑張っているということでもありますので、こち

らもそれに応えるがために頑張らなければならないというふうに思っておりますので、頑張りたいと思います。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【7番 那須 富重】

議長。

【議長 山本 文男】

7番、那須 富重議員。

【7番 那須 富重】

本当にこの特A米ということで私たちも直接、知ってますので言うんですが、この特Aのサンプルを提供された方は本当においしい米の作り方を知ってます。私もこれを見習って今からやらなくちゃいけない。これによって、またさらにおいしい米はできるはずですから、そういうことを手掛かりに、後は自分たちがおいしい米を作る技術を磨いて安定した米を作る技術の習得に頑張っていって、このブランド化に何とか貢献したいと思っておりますので、よろしくお願いします。

これで、質問を終わります。

【議長 山本 文男】

これで、7番 那須 富重議員の質問を終わります。

【議長 山本 文男】

ここで、10分間の休憩とします。

再開を11時10分とします。

(休憩：午前10時58分)

(再開：午前11時08分)

【議長 山本 文男】

休憩前に引き続き、一般質問を再開します。

次に、5番、中嶋 奈良雄議員の登壇を許し、1問目の発言を許可します。

【5番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 山本 文男】

5番、中嶋 奈良雄議員。

【5番 中嶋 奈良雄】

最初に、断っておきますが、先日兒玉議員、今日那須議員が報告したことにより、私の質問がかぶることがありますが、どうか御了承願いたいと思います。

田畑の耕作放棄地の対策について。

町内の田畑については、耕地整理が進み、近年はワイヤーメッシュ等による鳥獣害対策もとられている。

そのような中で、地域においては、耕作者の高齢化と後継者不足により放棄地が増えてきているのが現状である。町として放棄地の対策を具体的に考えているのか。

また、農業の法人化は考えていないか伺います。

【議長 山本 文男】

町長の答弁を許します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議員の質問にありますように、放棄地は高齢化、後継者不足によって年々増え続けております。毎年、農業委員会が実施している農地利用状況調査でも数値に表われているところでございます。

農業委員会では、この放棄地の所有者の利用意向調査を行い耕作を促しております。耕作ができない場合は、周辺の農家へ耕作のあっせんを行っているところでございます。

現在、美郷町内では40の中山間集落協定が中山間地域等直接支払制度を活用しています。1期5年を区切りとする本事業は、現在第5期対策を実施中ではありますが、この5期対策の中間年である令和4年度に集落戦略を作成しなければなりません。この集落戦略とは、協定農用地の将来像並びに協定農用地を含む集落全体の将来像、課題、対策について協定参加者が徹底した話し合いを行い、10年先を見据えた目標地図を作成することにより、協定参加者の合意形成を図るものでございます。

また、中山間地域直接支払制度の対象外地域も、平成24年度から国が取り組んでいる「人・農地プラン」が、現在行われております通常国会で地域農業経営基盤強化促進計画（地域計画）として法定化されることとなっているため、集落戦略同様の目標地図を作成しなければなりません。

放棄地対策については、これらの制度により、まずは集落で話し合いを行い、集落で検討していただく取組を行っていきたいと思います。

農業法人については、令和元年度に、町、JA日向、JAファーム、普及センター職員によるプロジェクトチームを立ち上げ検討を行ってまいりました。町の振興作物の産地の維持、農家ニーズの反映、耕作放棄地対策等を勘案し、茶、栗、畜産の3つの部門に絞り、経営シミュレーションを作成し、自走できるか、人員の確保は可能か等、検討を行った結果、農業法人設立を断念した経緯がございます。

本町のような中山間地域の農業法人は、全国的に赤字傾向にありますが、美郷町では既に基盤の整った農作業受託組織等がございます。この組織の支援、充実を図ることが地域の活性化にもつながり、農業生産活動が継続できる体制づくりにも寄与するものと考えるところでございます。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【5番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 山本 文男】

5番、中嶋 奈良雄議員。

【5番 中嶋 奈良雄】

確かに中山間地域等直接払制度がありますが、放棄地化を未然に防ぐ活動状況にしましても高齢化が進み、地域ぐるみで保全形態も限界を迎えつつあります。

その中で、受託組合活動も高齢化のためできなくなっているような状況であります。その辺りを町長はどのように考えていますか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

ずっといろいろな問題に影響が出てくるという部分は、やはり人口がいないという話になってきます。担い手がない、後継者がいないという問題が全てに影響してきておりますので、これを皆さんとともにどう解決していくかが課題だろうというふうに思っております。

昨日も言いましたように、兒玉議員のときに、中間管理機構という機構を何とか利用できなという部分で考えております。

やはりいろいろな形の中で組合をつくる、農業法人なら農業法人をその地域がつくっていくということになれば、そこには一生懸命、こちらも手だてをしていきたいというふうに思うところであります。

今度は担い手が何人か集まってこういう形でやりたいということであったとき、農地の集積を図るという意味で、大きな団地を任せられるような形になれば、みんなが取り組むということではなくても、その遊休農地が解消していくというような形になれば、そういう形でもよかろうというふうに思っております。

先ほど、那須議員の、やはり価格に反映されていけば、また作り出すという話にもなりますので、やはりそういうことも大切でありますし、いろいろな要素が絡み合ってきておりますので、一つ一つ何が一番特効薬になるのかという部分を精査しながらやっていきたいと。

ですので、簡単に法人をつくれれば全てが解消するかという話にはならないというふうに私は思いますので、美郷ならではのその形態、それを皆さんとともに模索していく必要があると、そのように考えておるところであります。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【5番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 山本 文男】

5番、中嶋 奈良雄議員。

【5番 中嶋 奈良雄】

確かに高齢化が進み第1次産業は大変な時期に来ていると思われませんが、その対策はどのようにお考えになるのか伺いたいと思います。

町長は先日、「何かしないよりか何かしたほうがよい」と言われました。その「何かしたほうがよい」というような考えがあるようですが、その何かありましたら伺いたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

第1次産業の振興は、やはりその地域に合ったものを作っていくというのが原則かなというふうに思うところであります。

ただ、いろいろな意味でこの気候変動という中で、今まであった作物が本当にこの地域に合ってるのかという部分も若干ちょっと出てきているのかなあという気もしておりますが、そこは置いて、やはり今まであったものをしっかりと下支えをしていくということが一番大切かなあというふうに思っております。

米にしろ粟にしろシイタケにしろ一番今までやってきた産業ですので、そこにテコ入れをするとか、補助をしたり、苗木の補助をしたりしっかりと生産体系とか体制、自分でまたしっかりとした管理をしていくという体制の下にやっていただきたいなあというふうに思っております。

そして、また施設園芸、畜産は、ある程度、軌道に乗っていると思っておりますので、またそこ辺も見計らって、もう少し増頭ができないかとか、そういうふうに仕掛けていきたいというふうに思っております。

新しい産物を作るよりか、今あるものをしっかりと支えていくというほうが、あれもこれもやってもなかなか難しいという時代ですので、やはり絞り込んだ今まで永遠と続いてきた農産物をしっかりと維持していくために、町がいろいろな対策を打っていくと。いろいろな形の中で議員さんのお知恵を借りたいというふうに思っておるところでございます。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【5番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 山本 文男】

5番、中嶋 奈良雄議員。

【5番 中嶋 奈良雄】

私が思うには、ここ5年、10年間で、さっきも言われましたように人口ががたっと20年後頃には3,000人になる可能性があると思います。そうした場合にはいろいろ産業を盛り上げていっても、そこに作業する人がいなければ産業ができなくなるという恐れがあると思います。私も70歳です。5年したら75歳です。それ以上の高齢者がほとんど見受けられます。そのことを考えると、やはり法人化とかそういうものを立ち上げないと、産業が止まってしまうという恐れがあると思います。

農業収入がなくなっている現代、そういう高齢者が今頑張っていますが、5年、10年先を考えると、そういうことができなくなってしまいます。そのことを町長はどうお考えでしょうか、伺います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

確かに昨日の一般質問の中で、高齢者によって支えられているというのは現状かなというふうに思っております。ですので、65歳以上が主力になっているということも本当にこの中山間地域である美郷町には言えるということになっております。

ですので、これから5年後、10年後、その人たちがそれだけ年を重ねるわけですので、「生涯現役」と言いながらも、やはり生産性は落ちてくると。そのためにどうするかという話ではありますが、農業法人を設立したから全てが解消し、全てがうまく回るかというふうには思っておりません。いろいろな法人を全国、見てみますと、やはり経営が非常に厳しいということでもあります。

なぜそうなるのかという話になりますが、経営を立て直そうとするがためにいろいろなものを入れてくる、取り込んでいくということで、それが負の連鎖になっていっているということでもあります。

ですので、そこまで行かなくて、やはり今ある組織とか、そういう担い手、後継者をどのように見つけていくかという対策の中で、1回やったほうがいいのかどうかと。

先ほど、国の人・農地プラン、いろいろな形で中山間地域の図面を作るということではありますが、その中で、しっかりした答えを出していければいいかなと思っております。どういう形が町に合うのかということ、町自体そしてみんなと農業者と協議しながらやっていく必要があると。

ですので、24地区中山間地域があると。40ですかね、ありますので、その地域にやはり出かけて行って、どういう形がいいのかという話を聞きたいと思っております。ですので、例えば、全部が一緒という形にはならないでしょうから、その地域、地域の特性もあることですし、やはりその中で話し合って、その地域に合う形態というかそういうものが出来上がれば、それに越したことはないというふうに今のところは思っております。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【5番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 山本 文男】

5番、中嶋 奈良雄議員。

【5番 中嶋 奈良雄】

私は、町外に出かけることがよくあります。その中で、町外の人が「美郷町に田を持っていて、もう放棄地になっているから、どんなかしてくれんですか」という相談を何件も受けます。「どんなかしてくれんですか」と。返事に困ることがあります。

これは、放っておくわけにはいかないと思います。誰かがどんなかの形でしなければいけない対策であると、私は考えます。米だけではなくほかの作物を作ったり、例えば、杉の苗作り、かんしょのブームですのでかんしょを作ってみたりとか、ソバを植えてみたりとか、牛の飼料、トウモロコシを作ってみたりとかいろいろな方法、手段を考えながら、放棄地をなくしていく方法もあると思いますが、そういうことは町長はお考えはないでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

作物でそれぞれの地域に合ったという部分で何をするかというのは、そういう生産者が集まった中でいろいろな形で聞いていこうかなあというふうに思っております。

ただ、やはり価格に反映しなければならないという話であります。

それと、価格と土地の回転率というか、それが悪いっちゃないかなあ。裏を作っていないという部分で、裏を作っているのは畜産農家くらいかという話で、イタリアン等の飼料で。

ですので、田にすれば裏作というか、そこで何を求めるかと。そこで何を稼げるかという話にもなってくるのではなかろうかと。畑にしてもそうなんですけど、そ

ういう形の中でまだまだ稼げるものはあるということでありますので、やはり裏作、そういう部分もしっかりと考えていっていいのではなからうかというふうに思っておりますので、40の用地管理組合といいますか、中山間地域の組織に入って、本当に膝を突き合わせて、「どんげするや」という話をしていきたいなあというふうに思っております。

非常に地区別定住戦略もなんですけど、またそういう話の中でもやはりそういう部分も出てきておりますので、やはりそれを1つにまとめていくということが、その地区戦といいますか地区別定住戦略の大きな仕事になってくると、大きな計画になってくるといふふうに思っておりますので、全てをそこにつなげていきたいなあというふうには思っておりますので、全てはそこにつなげていきたいなあというふうには思うところであります。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【5番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 山本 文男】

5番、中嶋 奈良雄議員。

【5番 中嶋 奈良雄】

入下地区に大分宇目町から移住してスイトピー作りに取り組んでおられる方がいます。町長は、その人と話し合いをしたことがありますか。

また、その人は、北郷は耕地整理、被害が少ない、気温の温度差が。

【議長 山本 文男】

中嶋議員、それは通告外の質問だと思いますが。

【5番 中嶋 奈良雄】

すみません。通告外ということですね。分かりました。

「今から5年、10年かかる作物では回転が悪いから早い作物などがよい」と、町長は答えました。私もそう思いますが、結局、今の農業は収入が本当になくなってきています。だから生産体制が悪くなって、高齢者の人が何も楽しみもなくなってきています。収入があれば取りかかると思うんですが、現在は年金だけではもう生活が成り立たなくなってきました。その中で、やはりおかず代でもなるような作物を考えていけば、高齢者の方も元気が出、また欲が出てくると思います。

四国の例を言いますと、葉っぱ産業ですけども、葉っぱ産業は高齢者の方が一生懸命、取りかかっています。春には山菜を採り、腰を曲げて、山菜がなくなったら葉っぱを採りながら腰を伸ばしていくと。そうしているうちに腰が伸びて特老がなくなったという話を聞いてます。

そういう身近にある作物から取り組んでいく必要もあると思います。そこ辺のところも町長は十分、踏まえながら考えていると思いますが、お考えを伺いたいと思います。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

先ほど、通告外と言われた入下のほうなんですけど、行って話したことがあります。

今、スイトピーそれから今後はほうずきをやりたい。「何でほうずきね」と言ったら、「6か月で大体できる」と。2月に植え、3月に植え、7月、8月という形になってますので、勝負が早いと。ですので、被らないという部分もあるんですけど、そういう形でやっていきたいということで、「頑張ってくださいね」という話をしたことがあります。

ですので、そういう人たちが出てきてくれるということは本当にありがたいなというふうに思っております。

よく言う「年金プラス100万」という標語があるんですけど、この100万円を高齢者の方が稼げるかという話になると、稼いでいるんじゃないかと思うときが私はあります。一生懸命やって、牛1頭、2頭を飼ってやっている人も頑張っておりますので、今ちょっといろいろな飼料が高騰しておりますので、ちょっとコスト高かなあということはあるんですが、そういう方で頑張って「年金プラス100万」という部分があります。

四国の「いろどり」ですかね、これは元のJA職員が京都の料亭やらに行っているいろいろな研究をして、そういう形で四季折々の葉っぱを集めて、非常に料亭からうけた、「料亭からうけた」というか、卸屋さんですかね、そのうけたやつをすぐ集められる体制にして、子供に家を造ってやったり、高級車というか車を買ってやったりしてるという話であります。本当にすばらしい取組であります。

うちにできないかなというふうに思うときに、それだけのいろいろなものがあるかもしれません。変な話でもありませんけど、アロマオイルということで、クロモジやらを利用してと。やはり眠っている資源がいっぱいあるということでもありますので、その生産者一人一人に応じたものを作っていただくということが肝要かなあというふうには思っております。

ですので、今、坂本地区ですか、ちょうどこちらから下りていったところに直売所がありますけど、販売所が。非常に売れてるということなんです。もう全然、残らないと。その地域の出している方々と話すと、「こんげ売れるものとは思わなかった」ということで、だからどんどんどんどん生産意欲が湧いてきたということで、「微々たるものですけど」という話ですね、一日は。それが1か月続くと、結構な金になってくるという話で、本当によかったと。

やはり元に戻るというか、そういう形でもやってるグループもありますので、やはりその土地を利用した中で、そういうことも考えられるということですので、本当に話を聞いておって、その人たちが何か生き生きしてるというか、そういう感じを受けましたので、町としてもいろいろな体制の中で絡み合う部分も出てきますので、一つ一つ整理をしながらそういう形でやっている人たちも支えながら、やはりこの担い手、それと後継者そして遊休地を出さない、そしてみんなが頑張れる体制づくりができるかということを実際に考えていく必要があると、本当にそう思って

おるところです。

本当に難しい問題が医療から住宅からこの土地問題、出てきておりますので、本当にここが、手を引っ張りながら知恵の使いどころだというふうに思っておるところであります。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【5番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 山本 文男】

5番、中嶋 奈良雄議員。

【5番 中嶋 奈良雄】

合併して南郷、西郷、北郷と3地域に分かれましたが、その美郷町で1つの作物を一遍に作ろうとすると、やはり無理があると思います。

人間性、地域性、土地、水、気温も全く違う中で、1つの作物を作ろうとするとどうしても無理が行くと思います。

やはり地域に合った農作物を作っていくって、それを町の産物として取り上げていく必要が私はあると思います。そのためには、地域課の職員の人たちと相談しながら、今から先はやっていく必要があると思います。その点、町長はどんなお考えでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

その産物というか、それについては何を作っているかということと、今から何を作るかということ考えたときに、やはり生産者が決めることだと思っております地域、地域で。

ただ、今さっき言ったのは、この旧村時代にお茶とか米とか牛とか栗とか、それはずっと大体、定着してきた産物だという典型で、それはそれでしっかりとやっていく必要があるという話で申し上げたところであります。

これから何をするかという部分は、本当にこの生産者が嫌いなものをして話にならんし、でもやはり地域的、地理的、気候的そういうものが噛み合ってきますので、そこは生産者、団体、それに委ねたいと。それをやるがためには、やはりしっかりと科学的根拠とかいろいろなものを普及センター等々に指導いただいて、それを下支えするのが町の役目かなあというふうに思っておるところです。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【5番 中嶋 奈良雄】

議長。

【議長 山本 文男】

5番、中嶋 奈良雄議員。

【5番 中嶋 奈良雄】

分かりました。今から先、私たちがしなければならぬことは次世代に安心安全なふるさとを残してあげることが、私たちの仕事だと私は思っています。帰ってくるふるさとを、どんなかして残してあげると。今から先はこのコロナ禍時代、食糧難の時代、いろいろなことが予想されます。

その中で、この美郷町は本当に良いところと私は思っています。子供たちもそう思っていると思います。そのことを私たちがふるさとを残してあげることが、一番の私たちの仕事だと思っていますところ。

私の質問は、以上で終わりたいと思います。

【議長 山本 文男】

これで、5番、中嶋 奈良雄議員の質問を終わります。

【議長 山本 文男】

以上で、本日の日程は全部、終了しました。
本日は、これで散会いたします。

【事務局長 小田 広美】

「一同・起立・礼」・・・お疲れさまでした・・・。

(散会：午前11時38分)

令和4年第1回定例会

美郷町議会会議録(第4号)

令和4年3月11日

美郷町議会

令和4年1回美郷町議会定例会会議録（第4日）

令和4年3月11日（金曜日）

◎開会日時 令和4年3月11日 午前10時00分 開会
◎散会日時 令和4年3月11日 午前11時58分 散会

◎出席議員（11名）

1番	若杉 伸児君	2番	早川 節夫君
3番	中田 武満君	4番	兒玉 鋼士君
5番	中嶋 奈良雄君	6番	川村 義幸君
7番	那須 富重君	8番	小路 文喜君
9番	甲斐 秀徳君	10番	川村 嘉彦君
11番	山本 文男君		

◎欠席議員 なし

◎欠員 なし

◎会議録署名議員 7番 那須 富重君 8番 小路 文喜君

◎事務局職員氏名 事務局長 小田 広美君 書記 森川 晴君

◎説明のための出席者職氏名

町長	田中 秀俊君	副町長	藤本 茂君
教育長	大坪 隆昭君	会計管理者	三榎 治君
総務課長	下田 光君	税務課長	甲斐 武彦君
企画情報課長	田常 浩二君	町民生活課長	田村 靖君
健康福祉課長	黒田 和幸君	建設課長	林田 貴美生君
農林振興課長	松下 文治君	政策推進室長	沖田 修一君
教育課長	石田 隆二君	地域包括医療局事務長	黒木 博文君
南郷地域課長	川野 一郎君	北郷地域課長	泉田 浩文君

◎会議の経過 別紙のとおり

令和 4 年 第 1 回 美 郷 町 議 会 定 例 会

議 事 日 程 (第 4)

令和 4 年 3 月 1 1 日
午 前 1 0 時 開 議

- 日程第 1 議案第 10 号 町道路線の認定について
- 日程第 2 議案第 11 号 町道路線の廃止について
- 日程第 3 議案第 12 号 町道路線の認定について
一括質疑、一括討論、個別採決
- 日程第 4 議案第 13 号 工事請負契約の締結について
質疑、討論、採決
- 日程第 5 議案第 21 号 令和 3 年度美郷町一般会計補正予算
(第 11 号)
質疑、討論、採決
- 日程第 6 議案第 22 号 令和 3 年度美郷町国民健康保険事業特別会計補正予算 (第 4 号)
- 日程第 7 議案第 23 号 令和 3 年度美郷町介護保険事業特別会計補正予算 (第 3 号)
- 日程第 8 議案第 24 号 令和 3 年度美郷町後期高齢者医療事業特別会計補正予算 (第 2 号)
- 日程第 9 議案第 25 号 令和 3 年度美郷町簡易水道事業特別会計補正予算 (第 4 号)
- 日程第 10 議案第 26 号 令和 3 年度美郷町農業集落排水事業特別会計補正予算 (第 4 号)
- 日程第 11 議案第 27 号 令和 3 年度美郷町国民健康保険診療所事業特別会計補正予算 (第 4 号)
- 日程第 12 議案第 28 号 令和 3 年度美郷町国民健康保険病院事業会計補正予算 (第 5 号)
一括質疑、一括討論、個別採決
- 日程第 13 発議第 5 号 ロシアのウクライナ侵攻に抗議し、恒久平和を求める決議
質疑、討論、採決

日程第 14	議案第 2 号	公の施設の指定管理者の指定について (田代保育所)
日程第 15	議案第 3 号	公の施設の指定管理者の指定について (うなま保育所)
日程第 16	議案第 4 号	公の施設の指定管理者の指定について (みかど保育所)
日程第 17	議案第 5 号	公の施設の指定管理者の指定について (南郷歯科診療所)
日程第 18	議案第 6 号	公の施設の指定管理者の指定について (地蔵の里)
日程第 19	議案第 7 号	公の施設の指定管理者の指定について (北の郷)
日程第 20	議案第 8 号	小黒木辺地総合整備計画の策定について
日程第 21	議案第 9 号	第 2 次美郷町総合計画後期基本計画の 策定について
日程第 22	議案第 14 号	美郷町移住定住促進空き家活用住宅の管 理に関する条例
日程第 23	議案第 15 号	美郷町過疎地域の持続的発展の支援に 関する特別措置法の適用に伴う固定資 産税の課税免除に関する条例
日程第 24	議案第 16 号	職員の特殊勤務手当に関する条例の一部 を改正する条例
日程第 25	議案第 17 号	美郷町議会の議員の報酬、費用弁償及び期 末手当に関する条例の一部を改正する条例
日程第 26	議案第 18 号	町長等の給料及び旅費に関する条例の一部 を改正する条例
日程第 27	議案第 19 号	一般職の職員の給与に関する条例の一 部を改正する条例
日程第 28	議案第 20 号	美郷町第 1 号会計年度任用職員の報酬、期末 手当及び費用弁償に関する条例の一部を改 正する条例
日程第 29	議案第 29 号	令和 4 年度美郷町一般会計予算
日程第 30	議案第 30 号	令和 4 年度美郷町国民健康保険事業特 別会計予算
日程第 31	議案第 31 号	令和 4 年度美郷町介護保険事業特別会 計予算

- 日程第 32 議案第 32 号 令和 4 年度美郷町後期高齢者医療事業
特別会計予算
- 日程第 33 議案第 33 号 令和 4 年度美郷町簡易水道事業特別会
計予算
- 日程第 34 議案第 34 号 令和 4 年度美郷町農業集落排水事業特
別会計予算
- 日程第 35 議案第 35 号 令和 4 年度美郷町国民健康保険診療所
事業特別会計予算
- 日程第 36 議案第 36 号 令和 4 年度美郷町国民健康保険病院事
業会計予算

総 括 質 疑
予算等審査特別委員会設置
特別委員の選任
委員会付託
正副委員長報告

会 議 録

令和4年3月11日
午前10時開議

【事務局長 小田 広美】

「一同起立・礼」・・・おはようございます・・・御着席ください。

【議長 山本 文男】

改めまして、おはようございます。3月11日ということで、あの日から11年がたちました。地震に限らず自然災害の多発する我が国です。備えは万全か、集落単位、各家庭でもいま一度、確認する必要があると考えるところです。

【議長 山本 文男】

ただいまの出席議員は11名であります。

【議長 山本 文男】

これから、本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程表のとおりであります。

【議長 山本 文男】

日程第1 議案第10号 町道路線の認定について
日程第2 議案第11号 町道路線の廃止について
日程第3 議案第12号 町道路線の認定について

【議長 山本 文男】

お諮りします。

議案第10号から議案第12号の3件を一括議題とし、一括して質疑を行いたいと思えます。

これに御異議ありませんか。

(「異議なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

異議なしと認めます。

したがって、3件を一括して質疑を行うことに決定しました。

これから、3件を一括して質疑を行います。

質疑を許します。

質疑はありませんか。

(「なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

お諮りいたします。

議案第10号から議案第12号までの3件を一括して討論を行いたいと思います。
これに御異議ありませんか。

(「異議なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

異議なしと認めます。

したがいまして、3件を一括して討論を行うことに決定しました。

これから、3件を一括して討論を行います。

討論はありませんか。

(「なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

討論なしと認め、これで討論を終わります。

【議長 山本 文男】

これから、議案第10号 町道路線の認定についての採決を行います。

この採決は起立によって行います。

【議長 山本 文男】

本案は原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(起立全員)

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがいまして、議案第10号 町道路線の認定については原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

続きまして、議案第11号 町道路線の廃止についての採決を行います。

この採決は起立によって行います。

【議長 山本 文男】

本案は原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(起立全員)

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがいまして、議案第11号 町道路線の廃止については原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

続きまして、議案第12号 町道路線の認定についての採決を行います。
この採決は起立によって行います。

【議長 山本 文男】

本案は原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(起立全員)

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがいまして、議案第12号 町道路線の認定については原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

日程第4 議案第13号 工事請負契約の締結についてを議題とし、質疑を行います。

【議長 山本 文男】

質疑を許します。
質疑はありませんか。

(「なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

【議長 山本 文男】

これから、討論を行います。
討論はありませんか。

(「なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

討論なしと認め、これで討論を終わります。

【議長 山本 文男】

これから、議案第13号 工事請負契約の締結についての採決を行います。
この採決は起立によって行います。

【議長 山本 文男】

本案は原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(起立全員)

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがいまして、議案第13号 工事請負契約の締結については、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

日程第5 議案第21号 令和3年度美郷町一般会計補正予算（第11号）を議題とし、質疑を行います。

【議長 山本 文男】

質疑を許します。

質疑はありませんか。

【8番 小路 文喜】

議長。

【議長 山本 文男】

8番、小路 文喜議員。

【8番 小路 文喜】

歳入です。

予算書の16ページ、商工費補助金の感染症対策の974万6,000円の減額の理由を教えてください。

それから、歳出です。

24ページ、地域おこし協力隊の報酬の減額の理由を教えてください。

それから、クラウドファンディング型ふるさと応援補助金、初めて聞きましたので、中身についての説明をお願いします。

33ページの各種検診委託料が軒並み減額のように見えますけども、そこ辺の事情が分かりましたら教えていただきたいと思います。

35ページの農業振興費2,700万円の減額でありますけども、1割以上の減額になってますけども、これもそこ辺の背景を教えてください。

39ページの林業振興費、有害鳥獣対策協議会の運営補助が300万円減額ということになっておりますが、これもちょっと理由を教えてください。

42ページになります。商工振興費、ここも1,083万円の減額になっておりますが、そこ辺の事情もちょっと教えてください。

46ページの道路維持費、300万円が追加の委託料で上がっておりますけど、今日は何日ですかね。11日ですね。あと二十日の間に何ができるのかなという疑問がありますので、説明をお願いしたいと思います。

58ページの交際費が1,000万円減額になっておりますが、なぜこういうことが起こるのかなという点で説明をお願いします。

以上です。

【総務課長 下田 光】

議長。

【議長 山本 文男】

総務課長。

【総務課長 下田 光】

ただいまの小路議員の減額予算についての御質問でございますけれども、あらかじめ財政のほうで、総務課のほうで100万円以上の減額の部分については一応、まとめているんですよ。まだ皆さんに出してませんけれども、手持ちの資料としては持っているんですが、それを委員会のほうで説明をさせていただくような形ではいけないでしょうか。

一つ一つここで説明が必要でしょうか。

【8番 小路 文喜】

議長。

【議長 山本 文男】

8番、小路 文喜議員。

【8番 小路 文喜】

今日は採決じゃないんですかね。

【議長 山本 文男】

はい。

【8番 小路 文喜】

ということは、委員会の説明というのは少々、意味を理解しかねるんですが。

【総務課長 下田 光】

議長。

【議長 山本 文男】

総務課長。

【総務課長 下田 光】

分かりました。

そしたら、補正予算でございますので、一つ一つ説明をさせていただきたいと思っております。申し訳ございません。

【企画情報課長 田常 浩二】

議長。

【企画情報課長 田常 浩二】

企画情報課長。

【企画情報課長 田常 浩二】

お答えしますのは、16ページの歳入と、関連もございまして42ページの商

工費の減額の部分について、関連がございますので併せてお答えしたいと思います。

16ページの商工費の県補助金、感染症休業要請等協力金事業費の補助金の減額974万6,000円でありますけれども、これにつきましては県が休業要請に対しまして先に内示額を示しておりました。これがこの補助金といいますのが県費が9割、あと1割が町が上乗せして支出するという性質ものでございまして、県の見込んでおりました内示額に比べまして実績額が大きく最少額の支出額の店舗が多かったもので、それによって実績額が落ちたということでの減額でございます。

以上です。

【政策推進室長 沖田 修一】

議長。

【議長 山本 文男】

政策推進室長。

【政策推進室長 沖田 修一】

24ページの報酬の減額の件なんですけれども、地域おこし協力隊の採用につきましては、一応、面接をしまして決定をいたしますけれども、その採用予定者の都合によって採用時期がちょっとずれてきます。年度内にずれ込んだので、その分の報酬額が余ったということで、まだ先に減額してもよかったんですけど、3月で減額させていただいたということになります。

クラウドファンディング補助金につきましては、事業者の応募がなかったということで減額をしております。

以上です。

【健康福祉課長 黒田 和幸】

議長。

【議長 山本 文男】

健康福祉課長。

【健康福祉課長 黒田 和幸】

補正予算書33ページの検診の減額の理由でございますけれども、大きな理由の1つに、この理由が必ずしもそうなのかというのは1つの原因だと思うんですけども、やはりコロナ関係で人が集まるのを嫌がって検診を受けに来ないという部分の理由が1つあるかと思っております。

以上です。

【農林振興課長 松下 文治】

議長。

【議長 山本 文男】

農林振興課長。

【農林振興課長 松下 文治】

35ページの農業振興費の2,100万円の減額のうち農林振興課に関しては、特に補助金関係なんですけど、コロナ禍によって自己資金が確保できないということで取下げが数件あっております。それが減額の主な理由であります。

それから、39ページの林業振興費、有害鳥獣対策協議会運営補助金300万円の減額ですが、この補助金は有害の捕獲報奨金であります。予定より捕獲頭数が少なかった関係で300万円の減額を行っております。

以上です。

【政策推進室長 沖田 修一】

議長。

【議長 山本 文男】

政策推進室長。

【政策推進室長 沖田 修一】

35ページから農業振興費の減額につきましては、私どもの所管の部分がありますので、それについてお答えいたします。

6次産業化の推進事業につきましては、一応、予定していた事業につきましてはコロナ等で中止になった事業もありますので、その分の減額があります。

あと、6次産業化の拠点整備事業の実施設計につきましては、途中までちょっと設計をしてたんですけども、途中でちょっと中止になったということで、その分の減額をしております。

以上です。

【総務課長 下田 光】

議長。

【議長 山本 文男】

総務課長。

【総務課長 下田 光】

予算書の58ページの公債費の減額の部分でございますけれども、まず元金につきましては平成30年度繰越事業分の長期債の償還金が減額になったことが理由でございます。利子につきましては、利子の利率の変動による減額でございます。

以上です。

【建設課長 林田 貴美生】

議長。

【議長 山本 文男】

建設課長。

【建設課長 林田 貴美生】

46ページの道路維持の300万円の補正について、御説明をします。

甲斐 秀徳議員からもありましたとおり、側溝等の落ち葉の堆積が各地域から要

請がっております。落ち葉を上げる際にはダンプトラック、ユンボ、普通作業員と、メートル単価が高いものですから300万円の計上をさせていただいております。

以上です。

【8番 小路 文喜】

議長。

【議長 山本 文男】

8番、小路 文喜議員。

【8番 小路 文喜】

大体、分かりましたが、今の建設課の分ですけど、もう日にちがないですよ。そのところがちょっと気になるんですよ。このタイミングでというのが。

それから、予算説明書のほうに、3ページですけども、基幹系端末機購入事業が169万6,000円上がってるんですけど、これはいつの時点で単価の補正があったのかということですね。

全体を見ながら思うんですけども、これ11回目の補正予算なんですよ。11回目は最後の整理というところでいいんですけども、何か「今頃、補正をするような筋合いの性格のものか、全ての項目が」ということ。

やはりちょっと、こういうことを繰り返すから補正の回数がこんなに。これ、月1回補正した勘定になりますよね。だからそのところの予算の組み方、考え方のところを、1つちょっとなぜこうなるのか説明をお願いしたい思います。

【総務課長 下田 光】

議長。

【議長 山本 文男】

総務課長。

【総務課長 下田 光】

予算の補正の回数の件でございますけれども、令和2年度からコロナウイルス感染症が猛威を振るっておりまして、それに関連するコロナの臨時交付金というものが飛び込んでくる部分も多々ございました。そういうことで、令和3年度についてもその対応のためにそういう補正が回数がふえてきたということを御理解いただきたいと思います。

以上です。

【建設課長 林田 貴美生】

議長。

【議長 山本 文男】

建設課長。

【建設課長 林田 貴美生】

小路議員がおっしゃるのも分かるんですけど、要請の電話がかなり来ておりまして、おまけに業者のほうも工事が一旦、落ちつくもんですから、時間は短いんですけど集中的にちょっと落ち葉の撤去、落石等について行いたいと考えております。

【企画情報課長 田常 浩二】

議長。

【企画情報課長 田常 浩二】

企画情報課長。

【企画情報課長 田常 浩二】

御指摘の基幹系、情報系通信機器の購入についてなんですけれども、これは住民情報システムといいまして、住民票ですとか国保、介護、後期高齢等が連携している住民情報システムという基本となるシステムがあるんですけども、こちらのバージョンアップ作業を行っているときに、その端末がWindows 7にしか対応していないというのが判明しまして、Windows 10でないバージョンアップ更新作業が図れないということが判明しました。

御指摘のとおり、早い段階で気づくべきだったのかもしれませんが、これを更新しないと4月以降の業務がストップしてしまうということもございまして、年度末内に端末の購入、さらにはバージョンアップ作業が可能だということで、今回、補正の計上をさせていただいた次第でございます。

以上です。

【議長 山本 文男】

他に質疑はありませんか。

(「なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

【議長 山本 文男】

これから、討論を行います。

討論はありませんか。

(「なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

討論なしと認め、これで討論を終わります。

【議長 山本 文男】

これから、日程第5 議案第21号 令和3年度美郷町一般会計補正予算（第1号）の採決を行います。

この採決は起立によって行います。

【議長 山本 文男】

本案は原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(起立全員)

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがいまして、日程第5 議案第21号 令和3年度美郷町一般会計補正予算(第11号)は、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

日程第6 議案第22号 令和3年度美郷町国民健康保険事業特別会計補正予算(第4号)

日程第7 議案第23号 令和3年度美郷町介護保険事業特別会計補正予算(第3号)

日程第8 議案第24号 令和3年度美郷町後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第2号)

日程第9 議案第25号 令和3年度美郷町簡易水道事業特別会計補正予算(第4号)

日程第10 議案第26号 令和3年度美郷町農業集落排水事業特別会計補正予算(第4号)

日程第11 議案第27号 令和3年度美郷町国民健康保険診療所事業特別会計補正予算(第4号)

日程第12 議案第28号 令和3年度美郷町国民健康保険病院事業会計補正予算(第5号)

【議長 山本 文男】

お諮りします。

議案第22号から議案第28号までの7件を一括議題とし、一括して質疑を行います。

これに御異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

異議なしと認めます。

したがいまして、7件を一括して質疑を行うことに決定しました。

これから、7件を一括して質疑を行います。

質疑を許します。

質疑はありませんか。

(「なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

【議長 山本 文男】

お諮りします。

議案第22号から議案第28号までの7件を一括して討論を行いたいと思います。
これに御異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

異議なしと認めます。

したがいまして、7件を一括して討論することに決定しました。

これから、7件を一括して討論を行います。

討論はありませんか。

(「なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

討論なしと認め、これで討論を終わります。

【議長 山本 文男】

これから、議案第22号 令和3年度美郷町国民健康保険事業特別会計補正予算
(第4号)の採決を行います。

この採決は起立によって行います。

【議長 山本 文男】

本案は原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(起立全員)

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがいまして、議案第22号 令和3年度美郷町国民健康保険事業特別会計補
正予算(第4号)は、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

続きまして、議案第23号 令和3年度美郷町介護保険事業特別会計補正予算(第
3号)の採決を行います。

この採決は起立によって行います。

【議長 山本 文男】

本案は原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(起立全員)

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがいまして、議案第23号 令和3年度美郷町介護保険事業特別会計補正予算（第3号）は、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

続きまして、議案第24号 令和3年度美郷町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第2号）の採決を行います。

この採決は起立によって行います。

【議長 山本 文男】

本案は原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（ 起立全員 ）

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがいまして、議案第24号 令和3年度美郷町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第2号）は、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

続きまして、議案第25号 令和3年度美郷町簡易水道事業特別会計補正予算（第4号）の採決を行います。

この採決は起立によって行います。

【議長 山本 文男】

本案は原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（ 起立全員 ）

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがいまして、議案第25号 令和3年度美郷町簡易水道事業特別会計補正予算（第4号）は、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

続きまして、議案第26号 令和3年度美郷町農業集落排水事業特別会計補正予算（第4号）の採決を行います。

この採決は起立によって行います。

【議長 山本 文男】

本案は原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（ 起立全員 ）

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがって、議案第26号 令和3年度美郷町農業集落排水事業特別会計補正予算（第4号）は、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

続きまして、議案第27号 令和3年度美郷町国民健康保険診療所事業特別会計補正予算（第4号）の採決を行います。

この採決は起立によって行います。

【議長 山本 文男】

本案は原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（ 起立全員 ）

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがって、議案第27号 令和3年度美郷町国民健康保険診療所事業特別会計補正予算（第4号）は、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

続きまして、議案第28号 令和3年度美郷町国民健康保険病院事業会計補正予算（第5号）の採決を行います。

この採決は起立によって行います。

【議長 山本 文男】

本案は原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（ 起立全員 ）

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがって、議案第28号 令和3年度美郷町国民健康保険病院事業会計補正予算（第5号）は、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

日程第13 発議第5号 ロシアのウクライナ侵攻に抗議し、恒久平和を求める決議についてを議題とします。

【議長 山本 文男】

本案については、川村 嘉彦議員より説明を求めます。

【10番 川村 嘉彦】

議長。

【議長 山本 文男】

10番、川村 嘉彦議員。

【10番 川村 嘉彦】

提案理由は、決議文の朗読にてかえさせていただきます。

発議第5号 ロシアのウクライナ侵攻に抗議し、恒久平和を求める決議について、決議文を朗読いたします。

2月24日、ロシア軍は国際社会のたび重なる警告を無視し、ウクライナへの全面的な侵略を開始した。その後、民間人を含め多数の犠牲者を出し続け、人道支援を必要とする難民が増え、ウクライナ国民の平和の地に生存する権利を侵害している。これは明らかに国連憲章に違反し、世界の安全保障と国際秩序を脅かす侵略であり、断じて容認できない行為である。

よって、本町議会は、ロシア軍による攻撃とウクライナへの主権侵害に強く抗議するとともに、ロシア政府に対し武力行使の即時停止とウクライナからの直ちに全ての軍隊を完全に撤退させること、及び誠実に国際法を遵守し平和的に対応することを強く求める。

また、政府においては、平和的な解決に向けた外交努力と邦人の確実な保護や我が国の影響対策並びにウクライナへの人道支援について万全を尽くすように強く要請する。

以上、決議する。

令和4年3月11日。

美郷町議会。

以上で、説明を終わります。

【議長 山本 文男】

提案理由の説明が終わりました。

これから、質疑を行います。

質疑を許します。

質疑はありませんか。

(「なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

これから討論を行います。

討論はありませんか。

(「なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

討論なしと認め、これで討論を終わります。

【議長 山本 文男】

これから、発議第5号 ロシアのウクライナ侵攻に抗議し、恒久平和を求める決議についての採決を行います。

この採決は起立によって行います。

【議長 山本 文男】

本案は原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(起立全員)

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがいまして、発議第5号 ロシアのウクライナ侵攻に抗議し、恒久平和を求める決議については原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

日程第14	議案第2号	公の施設の指定管理者の指定について
(田代保育所)
日程第15	議案第3号	公の施設の指定管理者の指定について
(うなま保育所)
日程第16	議案第4号	公の施設の指定管理者の指定について
(みかど保育所)
日程第17	議案第5号	公の施設の指定管理者の指定について
(南郷歯科診療所)
日程第18	議案第6号	公の施設の指定管理者の指定について
(地藏の里)
日程第19	議案第7号	公の施設の指定管理者の指定について
(北の郷)
日程第20	議案第8号	小黒木辺地総合整備計画の策定について
日程第21	議案第9号	第2次美郷町総合計画後期基本計画の策定について
日程第22	議案第14号	美郷町移住定住促進空き家活用住宅の管理に関する
条例
日程第23	議案第15号	美郷町過疎地域の持続的発展の支援に関する
特別措置法の適用に伴う固定資産税の課税免除に
関する条例
日程第24	議案第16号	職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を
改正する条例
日程第25	議案第17号	美郷町議会の議員の報酬、費用弁償及び期末手当に
関する条例の一部を改正する条例
日程第26	議案第18号	町長等の給料及び旅費に関する条例の一部を
改正する条例
日程第27	議案第19号	一般職の職員の給与に関する条例の一部を
改正する条例
日程第28	議案第20号	美郷町第1号会計年度任用職員の報酬、期末手当
及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例
日程第29	議案第29号	令和4年度美郷町一般会計予算
日程第30	議案第30号	令和4年度美郷町国民健康保険事業特別会計予算
日程第31	議案第31号	令和4年度美郷町介護保険事業特別会計予算
日程第32	議案第32号	令和4年度美郷町後期高齢者医療事業特別会計予算

日程第33	議案第33号	令和4年度美郷町簡易水道事業特別会計予算
日程第34	議案第34号	令和4年度美郷町農業集落排水事業特別会計予算
日程第35	議案第35号	令和4年度美郷町国民健康保険診療所事業 特別会計予算
日程第36	議案第36号	令和4年度美郷町国民健康保険病院事業会計予算

【議長 山本 文男】

お諮りします。

議案第2号から議案第9号、議案第14号から議案第20号、議案第29号から議案第36号までの23件を一括議題とし、町長に対する総括質疑としたいと思いをします。

これに御異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

異議なしと認めます。

したがって、23件は、町長に対する総括質疑とします。

これから、町長に対する総括質疑を行います。

通告順調に質疑を行います。

通告順調に質疑を許します。

【議長 山本 文男】

まず最初に、8番 小路 文喜議員の質疑を許可します。

【8番 小路 文喜】

議長。

【議長 山本 文男】

8番、小路 文喜議員。

【8番 小路 文喜】

総括質疑を行います。

まず1つは、予算の性格であります。

この予算は、いわゆる「骨格予算ではなく本予算である」という説明がありました。そのことは、本年度の主要予算は全て入っている、そういう性格の予算だというふうに理解していいのか。

2020年度予算は述べ9回、今年の前算11回もの補正を行っております。釈迦に説法ですけども、会計原則である単一予算主義が尊重されているというふうには到底、思えません。その観点も含めてお答えいただきたいと思いをします。

それから2番目に、北郷支所についてであります。

コロナ感染拡大防止の基本としては、密を、集まることを避けるというのが常々、話題になっておるわけですけども、北郷支所はあのコロナの最中に北郷支所の中に農協・森林組合まで事務所を統合しております。どなたも反対しなかったのかなど、私は心配したんですけども、コロナウイルス感染拡大防止が叫ばれる中で、な

ぜわざわざこういう密をつくり出したのか、そこ辺のところの事情を教えてください。

それからもう一つは、PCR検査の実施についてであります。

最近では、私も4時を過ぎるとあのアプリを見ながら美郷町は出とらんかというのを確認するのが習慣みたいなことになってきたんですけれども、こういう状態を見ておきますと、いっどこでクラスターが発生しても不思議でないという非常に危険な状態があるというふうに思っております。コロナウイルスは変異を続けて強毒化されておるんじゃないかという懸念もマスコミ等で流れておるところであります。

老人施設とか学校、保育所などで働くいわゆるエッセンシャルワーカーの皆さんは、患者さんや子供たちに感染が広がるのではないかと、恐らくいつも心配をしながら働いておられるというふうに思うんですけども、せめて毎週1回、あるいは2回くらいこういったエッセンシャルワーカーの方たちにPCR検査を実施することで、本人たちの安心とともにそういう施設にクラスターが発生しないような予防・強化を図ることが必要ではないかというふうに考えておるんですが、そこ辺の対応について、お伺いいたします。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁を許可します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

最初の質問ですけど、この予算の性格を問うということで、骨格予算なのか、それとも本予算なのかということでもあります。

施政方針で述べましたように、本予算ということでもあります。去年の11月からずっと査定に入っていたんですが、骨格、骨と肉づけということで2つ並行して査定をしてみました。

ですので、今年の2月に選挙が行われるということでありましたので、その選挙如何によってはまた大きく変わっただろうと思っております。と言いますのは、町長が代われれば、やはり骨格で出す必要が出てくるかなというふうに思っておりましたので、骨格と肉づけを合わせて審査をしてみました。

そして、こういう形の選挙結果になりましたので、もう肉づけも入れて本予算としたところでもあります。

ですので、しっかりと精査してきたつもりではありますが、今後いろいろな形でやはり国・県の動向の中でいろいろな交付金等々が出てきますので、その中でやはり補正とかそういうことは致し方ないかなあと思っております。

議員おっしゃいますように11回のという話の補正という話ではありますが、これは職員、一生懸命してきた結果のことだと、私は認識をしておりますが、多いとか少ないとかいう問題ではないかなあと。そのときにしっかりと対処していくために補正というものがあるというふうに思っておりますので、そういう認識の中で考え

ております。ですので、この予算は本予算ということで認識していただければなあというふうに思っております。

続きまして、北郷支所のことなんですけど、これはちょっと北郷支所は平成31年度の機構改革により、地域振興課として8名の職員で業務に当たっておりますけど、その結果、施設に空きスペースが生じてまいりました。そのスペースを活用して、同年6月の定例議会で一般質問をいただいております。

令和2年度美郷町第5次行政改革大綱にある「公共施設の適正化」を目的に、北郷支所再生協議会を立ち上げました。

この協議会の目的は、町民に広く意見を求め、審議した意見を町に提言するもので、会のメンバーは北郷地区内の各種団体の代表や婦人代表、子育て世代の女性で構成されています。

提出された提言は6項目ございますが、その中に日向農協北郷支店と耳川広域森林組合北郷事業所を北郷支所に移すことが明記されております。

この2団体を北郷支所に移す理由としましては、両施設共に昭和40年代半ばに建設されたため、耐震基準を満たしていないということでもあります。

ですので、両施設の職員の安全安心という部分もありますので、コロナ禍という部分で言えば、いかななものかという話でありまじょうが、南海トラフ、それに連動する日向灘ということになると、いつ来てもおかしくないという状況であれば、そういうことにしたわけであります。

この協議会の中で、いろいろな提言をいただき、町民の方に「どうですか」という話を協議会のほうからしていただいて、「何ら問題ない」という話でございましたので、こういう形にしたところであります。

ただ、また玄関側から言えば2階側になりますが、下のほうから行けば3階、そこが空いてます。空いてますので、これを今度はもう一回、協議会にそのスペース、議場とかいろいろな部分がありますので、これをどう生かしたらいいかということで、また庁舎検討委員会を開いていただいて、子供さんの遊び場とか、いろいろな意見が出てたという話ですが、取りあえず今回は、こういう形で実施したということで御了解をいただきたいと思っております。

PCR検査の実施ということでもあります。

御指摘のとおり、新型コロナウイルスは変異を繰り返すことで、より感染力が強まっていることが知られております。第6波の主流はオミクロン株でありますけど、現在ではステルスオミクロン株も確認されており、感染拡大が懸念される状況下であります。

御質問のPCR検査で感染予防効果を図る御質問ですが、PCR検査につきましては、感染不安を感じる人が早期に確認することで、その方の周りの人たちに安心を与える効果はあると思われまじょう。周囲への感染予防対策を十分に行うこと感染拡大を防ぐことができると考えております。

現在、県では感染拡大傾向時の一般検査事業として、感染不安を感じる無症状の個人の方に対し3月31日まで無料でPCR検査等を実施しています。

今後、県下の感染状況によっては実施期間の延長も考えられますが、町としては、県の事業の利用促進を紹介するとともに、感染予防に最も期待できるマスクの着用、手指消毒、混雑した場所や感染リスクの高い場所への外出・移動の自粛等を引き続き呼びかけて、感染予防を図っていきたいというふうに思っております。

また、県では抗原検査キットを約10万キット配布するというので、高齢者施設等々に。そこでクラスターの発生を防ぎたいということも考えておりますので、

そういう形の中で感染予防をやっていききたいというふうに思っております。

本当に高齢者施設でクラスターが発生すると、ちょうど1か月くらいだったと思いますけど、期間がかかりました。本当に心配で心配でという話になります。どんどんどんどん、しっかりした施設ではありませんので隔離がなかなかできないということで、移すこともできないということで、1か月かかりましたけど、何とか鎮めていただいたと。そこに医療班がいたということも大きな力になったのではなからうかというふうに思っておりますが、今後、そういう予防をしながら、しっかりとこの感染予防には対処していきたいと、そう思うところであります。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【8番 小路 文喜】

議長。

【議長 山本 文男】

8番、小路 文喜議員。

【8番 小路 文喜】

まず、予算の問題であります。

当然、予算編成権は町長しかありませんので、それはそれだけのことであります。

しかし、先ほど言いましたように、やはり職員の努力の成果で11回も重なるといふ表現が、ちょっと納得し難いんですけども、やはり基本は自分のところの歳入の確定とかそういうところを含めて、この町はこのお金でやるんだというのがきちっとしとらんからいろいろ出てくるんじゃないか。

こういう表現も何ですけど、選挙の年になるといろいろ補正が増える話も聞くんですけども。それだって去年の予算が9回ですから、そういうことでもないのかなと。もっと慢性的に「あれが足らん、これが足らん」という予算の組み方がされとらんんじゃないかということをお心配するわけでありまして。

今、町長の答弁だと、「国・県の交付金が来れば」と、当然、コロナなどがありますから、国・県がいろいろな施策を講じれば当然、市町村、自治体としても対応するんですけども、その範囲でのことなのかどうか。そんなに国・県が次から次、補正を必要とするような予算を組んでくれるとも思えないんですけど、大体そこに、町長の話からすると基本は集約されると。国・県との関係で補正が増えるというふうに説明があったと思ってるんですけども。

やはり国の予算は大ざっぱというか大きいからでしょうけども、見てると、今、参議院で予算の審議中ですけども、あと12月に補正がかかるだけですよね。やはり年度当初にきちっと抑えておれば途中から入ることもないんじゃないかなと、そういうことも考えるわけでありまして。だからそういう意味での年度当初予算の査定時といいますか、作成時にやはりきちっとした補正をすることで予算を積み上げる必要があると思うんですね。そこ辺も十分にやられとるのかなということが気になって、この質問をしておるところであります。

それから、今、北郷支所の話をお聞いたら、住民の皆さんが「心配ない」と言ったからやったんですね。だから仮に、あそこの支所の中でクラスターが発生したとき

には、やはり住民のせいだという話に聞こえんこともないんですね。それも含めて、町長の決断でやったのかなと思うんですが。

いわば3大機関ですよ、美郷町の中で。役場があって農協があって森林組合があるというのは。ここにクラスターが出たら、恐らく北郷支所管内のいろいろな事業は機能停止に陥ると思うんですね。そこはやはりきちっと整理をして、住民が「問題ない」と言ったからじゃなくて、町長の責任でやったというふうに説明があってしかるべきだというふうに思うんですけど、そこをお伺いします。

それから、PCR検査は当面、町独自ではやらないという答弁だと思うんですけども、県のほうから無料も含めてやられるならそれはそれでいいと思いますが、「心配だという話が本人の気持ちにあれば」ということですが、御承知のとおり無症状の人が非常に多いんですね。そうなってくると、自分で心配だなというふうにならないと思うんです。

だからそういう人たちが学校に行く、保育所に行く、子供たちにうつってしまったというようなことが起こる可能性があるから、近所の先生に聞いても、やはり子供たちも含めて行動をかなり抑制しているという話も聞くもんですから、そこはずっとそういう緊張感の中に親も子供もあるというのは大変だなと思う気持ちもあって、ここで町独自でPCR検査をやることで安心の裏づけが欲しいなということで、質問したところであります。

よければ答弁お願いします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

最初の予算ということで言わせていただければ、そういう形の中で今回、11回の補正予算を上げてるということは事実でございますが、また、私が言ったことも、そういうことがあったという中で補正を組む必要があったと。

ただ、昔の感覚で言えば、そんなに補正があったまるものかという話でしょうから、確かに当初、しっかりと組んでるかという話に、議員のような形になってくるといのはよく分かります。いろいろな形の中でイレギュラーというか、国の政策とかこういうコロナとかそういうやつになると、やはり入れ替わってくるという話でありますので、そこ辺は御理解いただきたいなあと。

おっしゃるように、しっかりと今後は各課長を通して、職員に本当にこの予算、しっかりと執行するように、そして大きなことが起こらない限り、その大きな補正が起こるとは私も思っておりませんので、その意味で、この時点においてしっかりと予算編成をしてきたというふうに考えておるところであります。

次の北郷支所の件なんですけど、いきさつはその3つを入れるということで、庁舎の検討協議会のほう、再生協議会のほうで出てきて、こういう形にしてくださいねという話で、それを移したのは私の考え方です。

それがクラスターになったらどうかという話ではありますが、そこはやはりしっかりとした中で手指消毒とか予防とかそういう部分でしっかりとやっていって、そういうことでやれば大丈夫ではなからうかと。

現にこの役場の中でもそれ以上の人間がいるということでもありますので、その形は手指消毒そして定期的に机を拭いたりそういう形で予防しているということでもありますので、大丈夫だと判断したところでもあります。

町民がいいからという判断ではなくて、私がそうしたということでもあります。

それと、先ほども言いましたように、やはりどうしてもこの地震というものがついてきます。ですので、地震はいつか分からないから、ほんならという話で放ったらかしていいとかという話でもありませんので、結局、防げる方法、結局、そのウイルスの方法はそういう手指消毒いろいろな形で防げると。予防がまだできるという判断であります。

ですが、この自然災害は予防ができないということになると、やはりそこの職員の命といいますか、安全安心を担保するためにはそういう形がよかろうという判断のもとで実施をさせていただきました。PCR検査については、県のいろいろな形の中でやっていきたいと思っております。

そしてまた、いろいろな媒体といいますか、防災無線等々を通して、いろいろ周知徹底を図っておりますので、そこ辺は聞いてると思っておりますし、またきららびじょん等を使って、また広報し、いろいろな形で再三再四、コロナの防災関係で言わない日はないくらい出しておりますので、ある程度といいますか、周知徹底は図られていくというふうに認識をしておるところであります。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【8番 小路 文喜】

議長。

【議長 山本 文男】

8番、小路 文喜議員。

【8番 小路 文喜】

すみません、最初の予算のところでもありますけども、あえて議員必携を読ませていただきます。

飛ばしますけど、「ただし、例外として、町村が特定の事業を行う場合、その他特定の歳入をもって特定の歳出に充て、一般会計特別として計することができる」これは特別会計ですね。それはいいんです。

また、「年間、数回に及ぶ補正もできるわけである」と。この点、原則は、つまり1回しか、予算は1回で済ませろという原則が、むしろ例外となっている実態であるといえるが、やはり予算を組む上での原則は、原則として踏まれるべきものであるということを一言、読み上げておきます。

それから、北郷支所については、今、町長、偉いなあと思ったのは、森林組合やら農協のことまで役場がもりをするような話が出たんですね。

改革の名前で病院が小さくされるとか、いろいろなことが片方でやられながら、片方ではよその支店の耐震にまで気を配るところが、どうも非常に納得はいきませんが、これで終わります。

【議長 山本 文男】

ここで、11時10分に再開することにして、休憩といたします。

(休憩：午前10時58分)

(再開：午前11時08分)

【議長 山本 文男】

全員おそろいのおようですので、休憩前に引き続いて、総括質疑を再開します。
次に、9番 甲斐 秀徳議員の質疑を許可します。

【9番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 山本 文男】

9番、甲斐 秀徳議員。

【9番 甲斐 秀徳】

本日は、6問ほど質問したいと思います。

全体的に大変、積極的な予算編成であるように感じられます。町長の施政方針の冒頭に述べられております町全体で取り組む人口減少という最大の課題に取り組む姿勢の中で、美郷町地区別定住戦略、略して「ちくせん」と言いますけれども、これについて丁寧な説明を、具体的に説明をお願いしたいと思います。

それから、2番目の美郷町過疎地域持続的発展計画の今回、提出議案の多分、議案第15号のことだと思われそうですが、これについての目的・概要についての説明を求めたいと思います。

それから、3番目の施政方針の説明の8ページにありますように、移住・定住促進項目において、「特定地域づくり人材派遣事業を行う」とありますが、団体視察の件か、説明を求めたいと思います。これは説明書の29ページです。

それから、説明書の148ページの4番目、6次産業推進の中で、「産地型商社と実践事業を行う」とありますが、これの説明を求めたいと思います。

それから、地域おこし協力隊活動事業が今回も事業化されており、各部署において活動がなされておりますが、その内容があまり見えておりません。各部署に今のところ、どのくらいいて、どういう活動をしているのかというのを各部署の仕事の内容、人数はどうなってるかの説明をお願いしたいと思います。

それから、説明資料の160ページの⑥ですけれども、今年4月1日の法の改正により成人式が18歳に引き下がり、今後、成人式などをどのような形で行われるのかをお伺いしたいと思います。

【議長 山本 文男】

町長の答弁を許します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

最初的美郷町地区別定住戦略についてであります。

人口減少、高齢化、少子化が進展する本町におきまして、それら諸課題に対峙し克服するため、今後5か年を計画期間とする第2期美郷町まち・ひと・しごと創生総合戦略を一昨年の令和2年4月にスタートさせました。

この総合戦略は人口減少対策に特化した計画で、人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって活力ある美郷町を実現するための施策を掲げているものであります。

美郷町は多くの中山間地域自治体と同様に、人口減少と少子高齢化が加速し、県内でも極めて厳しい状況下にある中、緊急かつ集中的に人口減少対策に取り組むためには、地域との協働による丁寧なボトムアップ型の取組が必要であると考えております。

人口減少という待ったなしの難題に取り組むためには、行政だけの取組では限界を迎えており、「一人の百歩より、百人の一步」をスローガンとして、いかに一人一人の町民の皆様当事者意識を持っていただき、この取組に参画していただけるかが最大のポイントであり本戦略の要であると考えます。

これまでの行政主導による取組では、地域ごとの主体性や地域同士の相互進化など、住民のやる気を引き出す具体的な行動を呼び起こすことはできませんでした。

第2期美郷町まち・ひと・しごと創生総合戦略で掲げる2040年の目標人口を「3,000人の人口維持」とし、子育て世代を主なターゲットに地域に根ざした特色ある人口減少対策の柱の1つを、「地区別定住戦略事業（ちくせん事業）」として実施することといたしております。

これまで、24行政区のうち、令和2年度に6行政区、令和3年度に9行政区のうち、合計15行政区が、徹底した人口分析や地域体制・資源の診断を基に、住民らが話し合い、定住や人口減少対策のための目標や戦略（事業計画）に向けた取組を行ってまいりました。この取組の様子は、これまで広報誌・小組合回覧・きらら放送などあらゆる媒体で周知しております。

令和4年度には、新たに9行政区を含めた24行政区全てがちくせん事業を開始します。

予算関係としましては、内容を大きく3つに分けておるところであります。

まず、視察研修事業としまして、これは、令和4年度から新たに開始する9行政区の代表1名が、先進地の実践地域を訪れ、それぞれの計画策定に生かしていただく内容です。

次に外部専門家アドバイザー招へい事業です。

これは、令和2年度から本町のファシリテーターとして参画いただいている、（一社）持続可能な地域社会総合研究所への委託料です。各行政区の未来会議（ワークショップ）等に関わっていただき、ちくせん策定支援を担っていただきます。

具体的な業務内容は、全行政区の人口分析・予測業務、現地視察・ヒアリング、そして未来会議でのファシリテーターと町内各所での講演となります。

最後にちくせん実践事業です。

これは、個別のちくせん事業の側面的支援事業となり、大きく2つに分かれています。

まず、地区別魅力発信事業です。

これは、全24行政区の魅力を地域内外に発信する「1分間動画」と「ポスター」をそれぞれ24セット作成し、町全体として共同の情報発信効果の実現を狙っています。

もう一つは、役場と地域をつなぎ、地域の役割を担う組織等に対する委託事業等となります。これまで先行してちくせん事業を取り組んできた15行政区に対してのフォローアップや、地域内の総合力を引き上げるためにちくせん活動の伴走者となる役割を担います。

定住実現は、地域の総合力が問われます。

まず、組織や活動を分野ごとに洗い出し、相互の関係性を「見える化（可視化）」することから始まり、その後、未来会議（ワークショップ）を重ねながら、地域の強み弱みを整理し、住民主体のちくせん策定を目指していきます。

また、全地区共通の取組として、地区への転入者向けに地域内の区費や公民館費などの負担や地区内で生活する上でのルールなどをまとめた「暮らしの手引き」をそれぞれ作成していただくほか、定住の窓口役と案内人を設置していただくことを全地区にお願いすることとしています。各地区に定住の窓口役が置かれることで、空き家等の情報を行政との間で共有することで、活用に向けた動きが活発化することが期待され、転入された方にとっても地域との橋渡しとなる方がおられることで、より一層の安心感につながるものと思われまます。

なお、議員の皆様におかれましては、是非、各地区で行われる「未来会議」や「実行委員会」に足をお運びいただき、それぞれの地区の将来人口の推移や各地区ごとの特長や課題の洗い出し、さらには将来にわたって地区を存続させ活性化させるための取組などの話し合いに対して、議員の皆さんがお持ちの広い識見を生かしていただき、一緒になって地区別定住戦略（ちくせん）の策定や実践に向けて参画いただければ幸いです。

この事業の詳細については、予算等審査特別委員会の中で、所管課である企画情報課より詳細にわたり説明させていただきます。

続きまして、美郷町過疎地域持続的発展計画の目的概要について御説明します。

美郷町過疎地域持続的発展計画の目的の概要につきましましては、本計画は、昨年9月開会の第3回定例議会に計画（案）を上程し議決いただいた計画であり、令和3年3月に旧過疎法である過疎地域自立促進特別措置法が期限切れを迎え、令和3年4月から新過疎法である過疎地域持続的発展の支援に関する特別措置法が施行されたことを受け策定したものであります。

この新過疎法では、過疎地域の役割、課題、目指す姿が同法前文で明らかにされるとともに、過疎地域の自立に向けて持続的発展を実現することが重要であるとの認識に立った上で、過疎地域が地域の実情に応じて実施する施策に対し特別措置を講じるために成立したものであります。

新過疎法による支援措置は、基本的に旧過疎法からの継続によるものであり、その中でも過疎対策事業債は、財源充当率100%、元利償還金の70%が交付税措置されるという有利な地方債として本町でも活用しているところでもあります。

なお、本計画の計画期間は今年度、令和3年度から令和7年度までの5か年間となっております。

続きまして、人材派遣事業であります。特定地域づくり事業協同組合制度というものがあまして、人口減少を背景に地域の担い手不足が極めて深刻となっている中、地域の担い手を確保するための新たな取組として令和2年6月に施行された国の制度であります。

本町でも、担い手不足が深刻となっている中、年間を通じた仕事がある事業所は限られていることから、担い手の確保が困難な状況にあります。

そこで、周年雇用の場と繁忙期の人手確保のため、事業者が人材派遣事業を行うために協同組合を設立するものであります。令和4年度は、町内事業者への要望調査や事業として成立するかなどを調査検討する予定であります。

続きまして、産地型商社ということではありますが、株式会社みさと産地型商社は、ふるさと納税業務と併せて町の産業の持続的発展に寄与するために昨年4月に設立され、昨年7月より、ふるさと納税代行業務と商社業務を委託しております。

当面は、確実なふるさと納税代行業務の実施、また、商社業務は、市町村間の寄附獲得競争が激しくなっているため、寄附額向上と安定化を図るための返礼品の確保と魅力ある地場商品開発を実施しています。

会社は、ふるさと納税の寄附額に応じた金額が委託料となっていますので、まずは、寄附額増加による安定経営を目指し、一定の収益が確保された時点におきましては、地域資源を活用した事業の展開を検討していくこととしておるところです。

続きまして、地域おこし協力隊活動事業ではありますが、現在、本町では企画情報課に観光推進で2名、起業支援で1名、農林振興課にジビエ工房業務で1名、有機栽培の普及で1名、政策推進室に村の果菓子屋の加工技術承継で2名、アロマの事業化で1名の合計の8名が地域おこし協力隊員として活動をしているところであります。

続きまして、成人式の話であります。

成人式につきましては、改正民法の施行により、本年4月1日をもって成人年齢が18歳に引き下げられます。したがって令和4年度は18歳、19歳、そして20歳の方々が同時に成人の年を迎えることとなります。

これを受けて、本町においては、町長部局と教育委員会において、成人式の在り方について協議を重ねてまいりました。現時点では、成人となられるお一人お一人が本町が抱える課題を自分自身の課題として捉え、その課題解決に向けて、自ら考え、判断し行動する意欲を育むことを目的とした18歳での成人式にしていきたいと検討しているところであります。

しかしながら、18歳での成人式は従来の成人式の形を大きく変えるものであり、また、全国的には消極的な自治体が多くあるため、当事者やその御家族の方々、またいろいろな方々の意見を聞きながら、慎重に進めていきたい、そういうふうな思うところがございます。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【9番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 山本 文男】

9番、甲斐 秀徳議員。

【9番 甲斐 秀徳】

ちょっと長いもんだから、どこがどこか分からないところがあるので間違ったら

ごめんなさいということになります。

まず、1番の「ちくせん」のことなんですけども、今まで「ちくせん」のワークショップを行ったということなんですけど、この結果をフィードバックをどのようにするのかということ。それは最終的に全体的にまとまった時点でまとめてフィードバックして、それを今後どういうふうにしていくかということの話し合いをするのかなということなんですけども、それについてお伺いしたいと思います。

それから、集落支援の選定ということで、西郷地区は地域おこし協力隊というふうになっておりますが、このように選定したのはどういう内容なのでしょうか。

それから2番目の、美郷町過疎地域持続的発展計画の中で、税制免除であれば当町において該当するものは何件ほどあるかということ。

また、附則に効力の執行があると、これは時限的なものだったからだろうと思うんですけども、附則の4の事項に20の特例があるようなことが書いてあるんですけど、そこの説明をお願いしたいと思います。

それから、3番目の移住定住促進についてですけれども、これは団体視察というものではなかったんですかね。私はそれがあのようなことが書いてあったから、それについてだったと思うんですけど、もし間違ったらすみませんですけど。これについて、もう一回、説明をお願いしたいと思います。

それから4番の6次産業の中で「産地型商社」というのがあるんですけども、ここに書いてあるのが「ふるさと納税の委託料がほとんどである」ということで書いてあって、「寄附総額の約半分が委託料の基本額となる見込み」というふうに書いてあります。これもちょっと詳しく説明をお願いしたいと思います。

それから、地域おこしですけども、これは協力隊の管理は一元で行っているのか、それとも募集した課が管理しているのかということと併せて教えてください。

それから、6番目の成人式なんですけども、今年に限りは20歳、19歳、18歳を一度に行うのか、それとも個別にやるのかということもちょっと疑問なところなんですけど、これは今後は18歳も単独にしていくのか、どういうふうな形が一番ベストなのかということのまだ疑問点があるところでしょうけど、それについても詳しくお願いしたいと思います。

以上です。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

いろいろ言われて頭がこんがらがって、何が質問じゃったかなというのがちょっと分からなくなりましたけど。

まず最初の「ちくせん」関係ですけど、24地区あるということで、やはりその地域ごとの計画をつくっていただくということが、これが最も重要なことであります。ですので、その地域の持っている良さと悪さとかそういうもの、そして将来的に何もせんかったらこんげなりますよという人口予測はできますので、それをどうかしてという話の中で人口減少に歯止めをかけるということでもありますので、それを視察等と通してしっかりとした形に結びつけていただいて、今度はその計画に対して

町がバックアップをしていくことであります。この24地区がそれをまとめてどうのこうのという話じゃなくて、24地区の計画が動き出すという考え方でいいかなと。

それと、それぞれの地区がやはり切磋琢磨していくというか、競争し合うことになると非常にまだ効果が上がるのではなかろうかと。あそこにはこういう人たちが来て非常によくなっているという話になれば、うちはなんでこんげならんちゃろかいという話になれば、そこがまたボトムアップしていくというような考え方でやっていきたいなあと。

ですので、それこそこういうことを初めてやるということは、やはり前も言いましたように何もしないよりかという話の中で、やはり職員が一生懸命、考えた中でこういう人口減少問題に取り組みましょうという話ですので、そういう形でやっていきたいと思っております。

過疎地域持続的発展計画ですけど、これは中身が過疎法は時限立法ということで、頭の中にあるのは最初が昭和45年頃だったと思うんですけど、それが第1回の緊急措置法としてできてきたと。そして10年、10年の議員立法で今まで続いてきたという中で、やはり過疎地域をしっかりと支えていくという話の中で、いろいろな使い勝手がよいような形になってきたと。

企画情報課の課長のほうに説明をさせていただきますけど、やはり過疎の在り方の定義が変わってきたのかなあと。45年前の過疎地域と今の過疎地域の定義が若干、変わっていろいろな考え方ができてきているのではなかろうかというふうに思うところであります。

移住定住の特定地域づくり事業という部分は、なかなかこれは検討していく価値があるということで予算化をしているところですが、これは町だけでやるということではなくて、団体を入れて4団体以上くらいの団体を集めて本当にできるかどうかという部分を。

そしてお金も結局、そこの事業収入と、半分は事業収入で補いなさい、あと半分を国とかそういう部分の補助金が出てくるという形で、結局、そういう話の中でしたときにどうなるかと。本当にそれが人材派遣事業としてなっていくのかということ、令和4年度に計画を、検討していくということでもあります。

地域おこし協力隊は各課が管理しているということではありますが、やはり地域おこし協力隊、Iターンという部分で1つ協議会をつくってくださいという話を私が投げかけたら、やはり美郷の良さとか悪いところとか、いろいろなものの提案をいただきました。ですので、3か月に1回くらいはこういう提案をしてください、また、一緒に話しましょうねという話の中で、まとまってるといえばそこがまとまることになるんですけど、各課が地域おこし協力隊、それぞれ所管課が対応しているという現状であります。

次の成人式ですけど、これは本当にどうしたらいいかという話になります。ですので、結論はそんなに、「そんなに」と言いますか、はやくこうだああと。

ただ、成人の日と成人式はちょっと違うんじゃないかなという気がしております。成人になるということ、18歳の子供たち、子供ではありませんが、もう大人になるわけですので、どう考えるかということをやはりしっかりとした中で、うちのほうとしては教育委員会を通じてそういうパンフレットとかそういうことをして、やはり大人の自覚を持っていくということが大切かなあと、それが成人の日であると。

また、式というのをお祝いをするという話になると、どこでするかという話になりますので、皆さんのまた意見等を聞きながら、成人式の話になると、18歳です

るのか19歳ですのか、二十歳ですのかという話になりますので、そこ辺はもう少し検討をさせていただきたいと。

教育委員会のほうでは、それぞれの地区を分けていろいろな説明をしたり話を聞いたりということによってやっていきたいということになります。

以上です。

【企画情報課長 田常 浩二】

議長。

【企画情報課長 田常 浩二】

企画情報課長。

【企画情報課長 田常 浩二】

お尋ねのございました集落支援員の配置、西郷エリアをなぜ地域おこし協力隊で対応するのかということについて、お答えしたいと思います。

この集落支援員と地域おこし協力隊につきましては、各地区で今後、「ちくせん」を実践に向けて取り組んでいくわけですけれども、そのサポートということでの配置を考えております。

集落支援員の方につきましては、それぞれ南郷、北郷に配置するというように考えておまして、地元の方をできましたら集落支援員として雇用して配置したいというふうに考えております。

なぜ西郷が地域おこし協力隊なのかということなんですけれども、先ほど、町長の説明にありましたように、現在この「ちくせん」の策定ですとかに向けて一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所へ委託をしております。現在、委託ということなんですけれども、いつまでもここに委託をずっと続けていくわけには行きませんので、できましたらそういった専門的な資金を有した方が地域おこし協力隊として入ってきていただくことを1つ望んでおりますし、地域おこし協力隊卒業後、3年後には、できましたらその方が独立して、そのような業務を担っていただくようなことができればということで、1人は地域おこし協力隊ということでの雇用を考えたところでございます。

それから、2点目の過疎計画についてなんですけれども、内容については町長から説明があったとおりであります。旧過疎法から新過疎法に変わったということでの策定替えということなんですけれども、進捗管理につきましては、旧過疎法の時代から個別事業計画というのが定められておまして、それに基づきまして計画の進捗管理を各課に照会した上で、毎年度ごとに進捗管理を行っております。

今回も新過疎法の下でもそういった個別の事業計画というのが定められておりますので、その事業計画に基づいて毎年度ごとの進捗管理を行っていくということになろうかというふうに思います。

私のほうからは、以上です。

【政策推進室長 沖田 修一】

議長。

【議長 山本 文男】

政策推進室長。

【政策推進室長 沖田 修一】

④の産地型商社の委託料の件の質問だったと思うんですけども、今、寄附の受付につきましては14サイトあります。1つのさとふるのサイトが大体、半分以上、半分くらいを大体、占めるんですけども、そこにつきましては寄附募集の画面の作成とか、あと返礼品の受発注の業務はそのさとふるが全部やっております。

その残りの13はうちのほうでやるということで、産地型商社に代行業務として頼んでおるということで、大体約半分くらいになりますので、そういうことで説明をしております。

以上です。

【教育長 大坪 隆昭】

議長。

【議長 山本 文男】

教育長。

【教育長 大坪 隆昭】

成人式のことにつきまして質問をいただきましたけれども、検討に入っている趣旨につきましては、先ほど、町長のほうから御説明があったとおりであります。議員からの質問については令和4年度、この3年代といえますか、3学年をどう対応するかという質問だったと思います。

来週の15、16、17日で西郷、南郷、北郷に分けてそれぞれの対象となる子供さん、それから保護者の方、参加できる方なんですけれども、を集めての意見交換をしようかと思っているところです。

そこでの意見を集約してまとめていきたいと思いますが、そのときのたたき台となるような形で現在考えているところでは、令和4年の8月、お盆の時期に18歳と19歳をやりまして、そして二十歳の方については救急ではありますので、もう既に晴れ着の予約とかもしている方々もいると思います。

したがって、令和5年1月3日、通常やっている、ここでやることを考えておりまして、そういう説明会を来週にわたってやっていこうと思っております。そこでいろいろな意見を聞いていこうかなと思っております。

令和4年は3世代をやっていかなければいけないという状況になっております。以上です。

【議長 山本 文男】

説明が終わりました。

【9番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 山本 文男】

9番、甲斐 秀徳議員。

【9番 甲斐 秀徳】

いろいろと言って私もごちゃごちゃになって私自身も分からなくなってきたところがありますけど。

1番の「ちくせん」の件ですけれども、本当に総額的に1,500万円ほどの予算組みをしてありまして、その中で、15地区を今回どうのこうのと書いてありますが、単純に計算して1地区49万円くらいになるのかな。それはそのくらいのところではいろいろな、町長が言われたように使ってもらったらいんじゃないかということです。私も、花水流地区の話を知ったら、いいあれだなあと思ってます。

ただ、やはり温度差が結構あるんですね、高齢者の方々と中間の方々と、今、実際、活躍している方々とか、若い人たちの温度差が結構あるもんだから、この金の使い道も非常に厳しいところもあるんじゃないかなというふうに思ってます。

ただ、やはり実践的にやっているのが、我々の時代よりもちょっと若い方か、花水流で言えば我々の代しかいないんですけども、そういう方々が一生懸命になって取り組んでいるから、その人たちを中心にと。その地区でもそうだろうと思うんですけども、その地区をどういうふうにして盛り上げていくかということを実践的に取り組んでいるところが結構、多いです。

また半面、「ちくせん」をやるときに、面倒くさいなあというような人も結構、いるような感じが、話はぼろぼろ聞くんですけど。そういういろいろな悩みも結構あるんじゃないかなと思いますけど、最終的には美郷をどういうふうにしていくかという1つの目標だから、これはやはりやっていかなきゃいけないんじゃないかなというふうに思います。

この手法については、町長が言われたようにその地区のいろいろな金に充てるということではよろしいでしょうか、再度、お伺いしたいと思います。

それから、地域おこし協力隊ですけども、何かあるとすぐ「協力隊」という形になってるんですけども、やはりその人たちがこちらに住んで、実質的にいろいろな活動をしていると思うんですけども、その内容があまりみんなに伝わってこないところありますので、今後そういうことをびしゃっとしていただいて、今こういうことをやっている。

私の頭にあるのは、北郷で備長炭の方々が一生懸命、それを習いながら自分たちもやっている。樫の木の伐採から全部やっているというような形の状況しか頭にないもんですから、そういうところをちょっとはつきりさせていただければと。

この前も言われましたように、6次産業化のところでお菓子製造のところでは若干、問題があったような感じがしておりますので、今後そういうことをびしゃっとしていただきたいなあというふうに思っております。

それから、6番目の、それこそ先ほど、教育長が言われましたように、今年は3世代の成人ということで大変、苦慮されているんじゃないかというふうに思っております。

例えば、18歳がちょうど1月頃になると受験シーズンでなかなかそれに対処し切れないということと、やはり18歳で振袖というのもちょっと疑問なところもあるもんですから、やはりお盆辺りが本当に一番いいのかなというふうな気もしておりますけど。それは子供たちとその保護者が話し合って決める場所だろうと思っておりますので、その場所をしっかりといただきたいなあというふうに思っております。

1番のところだけでも結構ですので、お願いいたします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

最初の地区別定住戦略の中で、花水流区の例をとって。「温度差がある」という話ではありますが、この地区別定住戦略は、人口減少をいかにとどめるか、そして増加の傾向をというか、そちらのほうに持っていくかということの主眼に置いてるということです。そういう計画をつくっていただきたいと。

ですので、その地域のインフラとかいろいろなことは役場がやらないかん部分は当然、出てきますので、そういう部分とこの戦略に関わる費用というか、それは別に考えたほうがいいのかなあというふうには私は思っておりますし、そういう形でしていくと、使いやすさという部分じゃありませんけど、それで地域が活性化していければいいのではなかろうかと。ですので、全て町民がその地域の人たちが主体となってやっていくということが大切かなあと思っております。

昔、旧西郷村のときに11地区あって、産業振興計画をつくったことがあります、職員を張りつけて。結局、それが今になってるというふうには思っておりますので、今、その地域、地域ごとにいろいろな形をつくっていただいて、それを実践してくれば、それこそ2040年3,600人という話ではありますが、それより多く残ってるのではなかろうかと。それが一番の目的でありますので、3,600以上ということになれば、本当にこれが非常に功を奏するような形にもっていきたいなというふうには思っております。

ですので、それこそそれぞれの地域の特徴を生かした政策というか計画ができるというふうには思うところです。

あと地域おこし協力隊の3か年間、協力隊として頑張っていたいただいて、あとはそこに根を張っていただくという話で進める、これがこの事業でありますので、そういうふうにしっかりとした中で、各課そういう指導をしながら根を張っていただきたいなというふうには思っております。

ですので、地域おこし協力隊としてこちらが募集し入ってきたからには、そういう気構えで頑張っていたいただきたいということを再度、やはりしっかりと相手方というか協力隊に言う必要もあると思っております。

確かに議員おっしゃるように、炭焼きのほうで頑張っている人たちもいますので、そういう形につながれば、本当にこの地域おこし協力隊、この事業が本当に成功しているというふうには思いますので、町としてもそういう方向性で頑張りたいと思っておりますので、今後とも御協力をよろしくお願いしたいというふうには思います。以上です。

【議長 山本 文男】

次に、2番 早川 節夫議員の質疑を許可します。

【2番 早川 節夫】

議長。

【議長 山本 文男】

2番、早川 節夫議員。

【2番 早川 節夫】

質疑を行いたいと思います。

施政方針の中で、10番目、保健・福祉の充実という項目を掲げておられます。その中で、②の社会福祉の充実で、「民間福祉団体と協働・連携しながら、福祉の町として環境づくりを進めていく」とありますが、具体的にお考えがあれば、お聞かせ願いたいと思います。

また、質問の2番目ですが、13番に掲げてあるかと思いますが、消防・救急体制の充実を掲げられております。

その中で、「消防施設の充実、団員確保、活動環境の整備など消防力の向上に取り組む」とありますが、それも具体的なお考えがあればお伺いしたいと思います。よろしくお願ひします。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

議員の最初の質問であります、10番の健康・福祉の充実の中の社会福祉の充実ということになります。

本町における民間福祉団体の担う役割は、今後さらに重要になってくるのではなかろうかと考えております。

そこで、社会福祉団体の組織体制と経営基盤の強化を図るとともに、行政をはじめ社会福祉協議会、社会福祉等法人、民生委員・児童委員、ボランティア団体及び福祉・保健・医療等関係機関・団体等との連携をより一層緊密にし、誰もが安全で安心して暮らすことのできるまちづくりを進めていきたいと思っております。

具体的には、社会福祉団体の組織体制と経営基盤の強化のための運営費の助成、各種社会福祉施設の管理委託、活動の積極的な支援、災害慶弔金制度や災害ボランティア制度といった社会福祉制度の充実を図っていきたいと思っております。

続きまして、13番の消防・救急体制の充実の中で消防関係ということになります。

令和4年度当初予算にも盛り込んでございますが、現有の消防設備・装備品・車両等、老朽化しているものにつきまして随時、または計画的に更新・修繕を行い、消防力の確保に努めているところでございます。

具体的な新年度予算の内容としまして、消防用軽トラック2台・小型動力ポンプ2台の購入、消防機庫や防火水槽の修繕を計上させていただいております。

消防団員の確保につきましては、平成26年度より消防団員の定年年齢を引き上げ、一般団員としては45歳、定年後の再入団団員となります2班団員につきましては60歳としており、消防団員総数としては減少は見られないものの、新規入団者は減少しておるのが現状であります。この傾向は本町のみだけでなく近隣自治体や全国的な傾向と同様となっております。

これを受けまして消防団員確保のため、消防庁から全国の消防団員に対する処遇

の改善を行うよう依頼がなされております。これを受けまして、本町においては具体的に、消防団員に対する団員報酬や出動手当の引き上げを含めて検討してまいりたいと考えているところであります。

また、団員確保のために、具体的な取組としましては、転入者Uターン者に対して、各部の積極的な呼びかけを実施し、また、移住者Iターン者に対し、随時、相談等をし消防団加入いただくというような形で団員の確保を図っていきたいと、そういうふうに思っておるところであります。

以上です。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【2番 早川 節夫】

議長。

【議長 山本 文男】

2番、早川 節夫議員。

【2番 早川 節夫】

「民間福祉団体」という文言が上がっておりますけども、これは西郷、南郷、北郷にあります施設も入るのかなあと思っております。

私は去年の8月1日から令和4年1月10日まで、福祉介護の仕事をしてまいりました。5か月という短い時間だったんですけども、本当に耳に聞くと「大変ですよ、大変ですよ」と言われておりましたけど、実際、本当に中に入りましたら、想像を絶するものでした。

また、その中で見たこと、聞いたこと、体験したこといろいろあるんですが、いろいろな問題を抱えております。介護職員の不足、介護看護師の不足、また、賃金格差等とかいろいろな問題を抱えております。

その中で、少ない中で本当に一生懸命、働く姿を見たときに、本当に頭の下がる思いでした。いろいろな問題、町として助成とか、できることは幅は狭くなっていくかとは思いますが、そういうところに少しでも手助けができればいいのかなと思いましたので述べさせていただきます。

福祉団体、施設の職場の環境がよくなれば、また町民も安心して暮らせるまちづくりにもつながっていくのかなと思っております。そこら辺のところをちょっと伺いたいと思います。

そして、消防ですが、消防も私、実は40年ほど消防活動に携わっております。うち13年ほどは幹部として勤めてきましたけども、やはり一番の問題は新入団員の確保、これが一番頭の痛いことではないかなというふうに感じております。

先ほど、町長がおっしゃっていましたが、手当を上げるとかそういうことを言っておられました、報酬とか。ぜひ、そういう取組をやっていただきたいなと思います。それをすることで、やはり今の団員、活動意欲を持って活動するというふうに変ってくるのかなと思っております。

また、活動環境が変われば、そのように取り組むこともよくなるのかなと思っておりますので、ぜひ、その件は前向きに考えてほしいなと思います。

もともと美郷町というのは高齢化が進んで、若者が少ない。また、Uターンで帰

ってくる若い世代も少ない。どうしたら若い者がこっちに来るか。いろいろな施策で取り組んでおられます。

例えば、空家対策とか移住定住とか、そういうものに取り組んでいただいておりますが、そういう中で、若い者を美郷町に呼んで定住をさせ、また、仕事も安定させ、それから消防につなげていけばいいのかなというふうに感じております。

町としてもそういう施策の中で、若い者を美郷町に呼んでいただければなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

介護施設での経験ということで、本当に大変な職場であるというふうには認識をしております。

介護職員、看護もなんですけど、足りてるとい部分ではないんですけど、やはりどうしても高齢化をしてきてるといことが問題かな。そしてその後に若い子が入ってこないといことが非常に問題だと思っております。

その後の消防のほうも、やはり人口減といことの中で、若い人たちがいないとい話で、定年制をどんどん引き上げて同じことかなとい話であります。それはたちごっこみたいなものでありますので、何かとい話の中で、この三日間いろいろな話をさせていただきましたが、やはり人口を増やすと、これに尽きるとい話になってきます。全てがその根っこはこの人口とい話になってきますので、議員と一致団結して、何か突破口を見つけて、いろいろな政策を上げて検討していきますけど、どれがいいのかといのははっきりまだ分かっておりません。

ですので、検討なんですけど、これでいこうといものが決まったら、それでやっていって、人口を食い止めていきたい。

その「ちくせん」といのも1つの方法でありますけど、今度は町が計画する部分はまた別物でありますので、そういう形の中で御協力をいただきたいといふうに思っております。

福祉については、福祉基金がありますが、これを少し使い勝手がいいといか、がんじがらめにしておりましたので、少しそこ辺の中でいろいろな団体等々がこういことが協力できないかとい話になったら、皆さんにお諮りしながら、やはり福祉の向上といわれますので、そういう部分で出していくといことで、しっかりと手当をしていくといことにしていきたいといふうに思っております。

本当に人口減少をいかに止めるか、そして増やしていくかと、これに全て美郷町の将来はかかってきてるといことでありますので、どうか皆さんとともに知恵を出し合って、町長発信で、この議場の中で、そしてまたこの議会外で陳情活動、いろいろな形で頑張りたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

【議長 山本 文男】

町長の答弁が終わりました。

【2番 早川 節夫】

議長。

【議長 山本 文男】

2番、早川 節夫議員。

【2番 早川 節夫】

まだまだ本当は質問したいことはいっぱいあるんですけども、なかなか言葉に出ません。初めての経験でしたので、聞き苦しかったことをおわび申し上げまして、質疑を終わらせていただきます。

【議長 山本 文男】

ほかに質疑はありませんか。

(「なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

質疑なしと認めます。

これで、総括質疑を終わります。

【議長 山本 文男】

お諮りします。

議案第2号から議案第9号、議案第14号から議案第20号、議案第29号から議案第36号までの23件について、議長を除く10名の委員をもって構成する令和4年度予算等審査特別委員会を設置し、会議規則第39条の規定により、お手元に配付しております議案付託表のとおりこれに付託の上、審議したいと思います。

これに御異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

異議なしと認めます。

したがいまして、議案第2号から議案第9号、議案第14号から議案第20号、議案第29号から議案第36号までの23件については、議長を除く10名の委員会をもって構成する令和4年度予算等審査特別委員会を設置し、お手元に配付しております議案付託表のとおりこれに付託の上、審議することに決定しました。

【議長 山本 文男】

引き続き、特別委員の選任を行います。

お諮りします。

特別委員の選任については、委員会条例第8条第4項の規定によって、お手元に配付しました名簿のとおり指名したいと思います。

これに御異議ございませんか

(「異議なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

異議なしと認めます。

したがいまして、特別委員は、お手元に配付しました名簿のとおり選任することに決定しました。

【議長 山本 文男】

ここで、委員長及び副委員長の報告を行います。

令和4年度予算等審査特別委員会の正・副委員長については、申合せ事項のとおり委員長に副議長の川村 嘉彦議員、副委員長に総務厚生常任委員長の中嶋 奈良雄議員。

以上のとおりであります。よろしく願いいたします。

なお、特別委員長及び副委員長の任期は今定例会の会期中とします。付託した23件につきましては、令和4年度予算等審査特別委員長は、よろしく願いします。

【議長 山本 文男】

以上で、本日の日程は、全部終了しました。

会議を閉じます。

本日は、これで散会いたします。

【事務局長 小田 広美】

「一同・起立・礼」・・・お疲れさまでした・・・。

(散会：午前11時58分)

令和4年第1回定例会

美郷町議会会議録(第5号)

令和4年3月22日

美郷町議会

令和4年1回美郷町議会定例会会議録（第5日）

令和4年3月22日（火曜日）

◎開会日時 令和4年3月22日 午前10時00分 開会
◎閉会日時 令和4年3月22日 午後11時00分 閉会

◎出席議員（11名）

1番	若杉 伸児君	2番	早川 節夫君
3番	中田 武満君	4番	兒玉 鋼士君
5番	中嶋 奈良雄君	6番	川村 義幸君
7番	那須 富重君	8番	小路 文喜君
9番	甲斐 秀徳君	10番	川村 嘉彦君
11番	山本 文男君		

◎欠席議員 なし

◎欠員 なし

◎会議録署名議員 7番 那須 富重君 8番 小路 文喜君

◎事務局職員氏名 事務局長 小田 広美君 書記 森川 晴君

◎説明のための出席者職氏名

町長	田中 秀俊君	副町長	藤本 茂君
教育長	大坪 隆昭君	会計管理者	三榎 治君
総務課長	下田 光君	税務課長	甲斐 武彦君
企画情報課長	田常 浩二君	町民生活課長	田村 靖君
健康福祉課長	黒田 和幸君	建設課長	林田 貴美生君
農林振興課長	松下 文治君	政策推進室長	沖田 修一君
教育課長	石田 隆二君	地域包括医療局事務長	黒木 博文君
南郷地域課長	川野 一郎君	北郷地域課長	泉田 浩文君

◎会議の経過 別紙のとおり

令和4年第1回美郷町議会定例会 議事日程（第5）

令和4年3月22日
午前10時開議

- 日程第1 委員会審査報告（令和4年度予算等審査特別委員長報告）
- 議案第2号 公の施設の指定管理者の指定について
（田代保育所）
- 議案第3号 公の施設の指定管理者の指定について
（うなま保育所）
- 議案第4号 公の施設の指定管理者の指定について
（みかど保育所）
- 議案第5号 公の施設の指定管理者の指定について
（南郷歯科診療所）
- 議案第6号 公の施設の指定管理者の指定について
（地蔵の里）
- 議案第7号 公の施設の指定管理者の指定について
（北の郷）
- 議案第8号 小黒木辺地総合整備計画の策定について
- 議案第9号 第2次美郷町総合計画後期基本計画の策定について
- 議案第14号 美郷町移住定住促進空き家活用住宅の管理に関する条例
- 議案第15号 美郷町過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法の適用に伴う固定資産税の課税免除に関する条例
- 議案第16号 職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第17号 美郷町議会の議員の報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第18号 町長等の給料及び旅費に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第19号 一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第20号 美郷町第1号会計年度任用職員の報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例

- 議案第 29 号 令和 4 年度美郷町一般会計予算
議案第 30 号 令和 4 年度美郷町国民健康保険事業特別会計予算
議案第 31 号 令和 4 年度美郷町介護保険事業特別会計予算
議案第 32 号 令和 4 年度美郷町後期高齢者医療事業特別会計予算
議案第 33 号 令和 4 年度美郷町簡易水道事業特別会計予算
議案第 34 号 令和 4 年度美郷町農業集落排水事業特別会計予算
議案第 35 号 令和 4 年度美郷町国民健康保険診療所事業特別会計予算
議案第 36 号 令和 4 年度美郷町国民健康保険病院事業会計予算

委員長報告、討論、個別採決

日程第 2 閉会中の審査等の申し出について（所管事務等）

日程第 3 議員派遣について

令和 4 年 第 1 回 美 郷 町 議 会 定 例 会
追 加 議 事 日 程 (第 5 の 追 加 1)

令和 4 年 3 月 2 2 日

追加日程第 1 議案第 37 号 職員の育児休業等に関する条例の
一部を改正する条例
提案理由、質疑、討論、採決

会 議 録

令和4年3月22日
午前10時開議

【事務局長 小田 広美】

「一同起立・礼」・・・こんにちは・・・御着席ください。

【議長 山本 文男】

ただいまの出席議員は11名であります。

これから、本日の会議を開きます。

【議長 山本 文男】

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程表のとおりであります。

【議長 山本 文男】

日程第1 委員会審査報告を行います。

【議長 山本 文男】

- 議案第 2 号 公の施設の指定管理者の指定について(田代保育所)
- 議案第 3 号 公の施設の指定管理者の指定について(うなま保育所)
- 議案第 4 号 公の施設の指定管理者の指定について(みかど保育所)
- 議案第 5 号 公の施設の指定管理者の指定について(南郷歯科診療所)
- 議案第 6 号 公の施設の指定管理者の指定について(地蔵の里)
- 議案第 7 号 公の施設の指定管理者の指定について(北の郷)
- 議案第 8 号 小黒木辺地総合整備計画の策定について
- 議案第 9 号 第2次美郷町総合計画後期基本計画の策定について
- 議案第14号 美郷町移住定住促進空き家活用住宅の管理に関する条例
- 議案第15号 美郷町過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法の適用に伴う固定資産税の課税免除に関する条例
- 議案第16号 職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第17号 美郷町議会の議員の報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第18号 町長等の給料及び旅費に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第19号 一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第20号 美郷町第1号会計年度任用職員の報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第29号 令和4年度美郷町一般会計予算
- 議案第30号 令和4年度美郷町国民健康保険事業特別会計予算
- 議案第31号 令和4年度美郷町介護保険事業特別会計予算
- 議案第32号 令和4年度美郷町後期高齢者医療事業特別会計予算
- 議案第33号 令和4年度美郷町簡易水道事業特別会計予算
- 議案第34号 令和4年度美郷町農業集落排水事業特別会計予算
- 議案第35号 令和4年度美郷町国民健康保険診療所事業特別会計予算

議案第36号 令和4年度美郷町国民健康保険病院事業会計予算

【議長 山本 文男】

お諮りします。

議案第2号から議案第9号、議案第14号から議案第20号、議案第29号から議案第36号までの23件について一括議題とし、本案に対する令和4年度予算等審査特別委員長の審査報告を求めたいと思います。

これに御異議ありませんか。

(「異議なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

異議なしと認めます。

したがって、23件を一括議題とし、委員長の審査報告を求めます。

【令和4年度予算等審査特別委員長 川村 嘉彦】

議長。

【議長 山本 文男】

令和4年度予算等審査特別委員長 川村 嘉彦議員。

【令和4年度予算等審査特別委員長 川村 嘉彦】

委員長審査報告

それでは、私のほうから令和4年3月11日、令和4年予算等審査特別委員会に付託されました議案第2号から議案第9号、議案第14号から議案第20号、議案第29号から議案第36号までの23件について、会議規則第77条の規定に基づき審査報告を行います。

お手元に配付の委員会審査報告書より報告をいたします。

委員会審査報告書

令和4年3月11日、本委員会に付託された下記の議案は、審査の結果、下記のとおり決定したので、会議規則第77条の規定により報告いたします。

1. 付託議案

- 議案第2号 公の施設の指定管理者の指定について(田代保育所)
- 議案第3号 公の施設の指定管理者の指定について(うなま保育所)
- 議案第4号 公の施設の指定管理者の指定について(みかど保育所)
- 議案第5号 公の施設の指定管理者の指定について(南郷歯科診療所)
- 議案第6号 公の施設の指定管理者の指定について(地蔵の里)
- 議案第7号 公の施設の指定管理者の指定について(北の郷)
- 議案第8号 小黒木辺地総合整備計画の策定について
- 議案第9号 第2次美郷町総合計画後期基本計画の策定について
- 議案第14号 美郷町移住定住促進空き家活用住宅の管理に関する条例
- 議案第15号 美郷町過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法の適用に伴う固定資産税の課税免除に関する条例
- 議案第16号 職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例

- 議案第17号 美郷町議会の議員の報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第18号 町長等の給料及び旅費に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第19号 一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第20号 美郷町第1号会計年度任用職員の報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例
- 議案第29号 令和4年度美郷町一般会計予算
- 議案第30号 令和4年度美郷町国民健康保険事業特別会計予算
- 議案第31号 令和4年度美郷町介護保険事業特別会計予算
- 議案第32号 令和4年度美郷町後期高齢者医療事業特別会計予算
- 議案第33号 令和4年度美郷町簡易水道事業特別会計予算
- 議案第34号 令和4年度美郷町農業集落排水事業特別会計予算
- 議案第35号 令和4年度美郷町国民健康保険診療所事業特別会計予算
- 議案第36号 令和4年度美郷町国民健康保険病院事業会計予算

2. 審査の経過

令和4年3月11日、14日、15日、16日、17日の5日間、本委員会を開催して、副町長、教育長、以下各課長、各支所長、担当係員の出席を求め、各課長等の説明を受けた後、審議を行い、慎重に審査を行った。

3. 審査の結果

本委員会に付託された上記議案23件について、議案第29号 令和4年度美郷町一般会計予算1件については否決とし、除く22件は原案のとおり可決すべきものと決定した。

4. 付記事項

1. 移住定住対策及び空き家対策について、人口減の町にとっては喫緊の課題であるから十分な対策を行うこと。
2. 南郷地区の労災患者の治療は、患者に配慮し、南郷診療所での治療を望む。
3. 令和3年産米ヒノヒカリが3年連続の特Aを獲得したことについて、生産者及び関係各位に敬意を表す。また、今後も価格向上に尽力することを望む

(口頭による付記)

1. ふるさと納税については、担当課の努力により確実に成果を上げている。このことについては感謝をするとともに、さらなる活用をしながら伸ばしてほしい。
2. 近年の地籍調査については、担当課の努力により事業が着実に進捗していることについて敬意を表したい。

以上、令和4年度予算等審査特別委員会の審査報告を終わります。

【議長 山本 文男】

委員長報告が終わりました。

【議長 山本 文男】

お諮りします。

23件を一括して質疑を省略し、一括して討論を行いたいと思います。
これに、御異議ありませんか。

(「異議なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

異議なしと認めます。

したがって、23件を一括して討論を行うことに決定しました。

【議長 山本 文男】

これから、23件を一括して討論を行います。
討論はありませんか。

【8番 小路 文喜】

議長。

【議長 山本 文男】

8番、小路 文喜議員。

【8番 小路 文喜】

議案第19号 一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例に対する反対討論であります。

人勧は、昨年8月頃に行われたというふうに聞いております。この間、政府は首相を先頭に、経営者に賃上げを要請しております。御承知のとおり日本の賃金は、OECDの中で唯一、上っておりません。経済成長でも、日本はほとんど横ばいがあります。一方で、大企業の内部留保は大幅に増えております。

そんな中、ロシアのウクライナ侵略で物価の値上がりがどんどん進んでおります。この状況で、賃金の引下げを行うのはますます日本経済を悪化させるものだというふうに思います。賃上げすることで、世の中全体にお金が回れば経済も成長すると思います。加えて、職員のやる気も刺激することになると思います。

よって、賃下げを行います本案には反対をいたします。

それから、議案第9号 第2次美郷町総合計画後期基本計画の策定について、議案第29号 令和4年度美郷町一般会計予算、議案第35号 令和4年度美郷町国民健康保険診療所事業特別会計予算、議案第36号 令和4年度美郷町国民健康保険病院事業会計予算、この4件について、一括をして反対討論を行います。

この間、委員会審査の中で個別施策の説明を受けてきました。これらは基本的には積極的であり、具体的な成果を期待したいと思います。単身者住宅建設は、人口減の歯止めになるものとして期待をしておりました、南郷地区としても大歓迎をするものであります。

しかし、これらを全体で見れば、合併合意に反するまちづくりをベースとしております。診療所の入院停止、医療縮小や支所の廃止は町長の選挙公約にはありませんでした。私には、これは当選後、思いついたものだろうとしか考えられません。

この際、指摘をしておきたいのは、住民は町長に選挙を通じて白紙委任をしたも

のではないということでもあります。合併から12年の間、合併合意を下にまちづくりが行われてきたと考えております。

御承知のように、合併した旧3村は1889年5月1日、町村制施行に伴い発足したもので、114年の長い歴史を持っております。その3村が涙を飲んで合併を選択をせざるを得ない中で、将来を見据えて決めたのが合意文書であります。言わばまちづくりの基本文書です。これが町長が代わるたびにまちづくりの方向が変わっては、この町の発展は非常に危ういものになると、そういうことが危惧されます。10年、20年先を見据えた改革を標榜されておりますが、10年、20年先に誰が検証をするのか。そのとき「失敗だった」と言われても、南郷地区住民はもとより、恐らく北郷地区住民の皆さんも誰に文句を、苦情を言えばいいのでしょうか。かつての失敗を悔やむしかない、そういうふうに思います。

ただ、北郷診療所は、当初、閉鎖の方向だったと聞きましたが、住民の力で今、隔日、午前中という短時間診療ではあります。成果を得ておるところであります。恐らく不十分だと思いますが、10年、20年先を見据えた改革も数か月で変わることが明らかになったというふうに思っております。南郷地区住民も何度も頑張れば変わるのかなど、期待をしているところでもあります。何しろ、南郷地区には生身の人間が住んでいて、10年、20年先のことよりも、今、入院を必要としているからであります。

この予算にも、人口減少対策として定住化施策に多額の予算が組まれております。私も、南郷地区住民の一人として1人でも人口が増えるように努力したいと考えていますが、定住化を図る上で医療の充実は大きなウエートを占めております。医療縮小は人口減少に拍車をかけると、そういうふうに思っております。

また、南郷地区の定住化促進に南郷支所の人的充実、南郷地区の振興を図るセンターとしての役割からしても極めて重要であるし急がれると、そう思っております。

よって、議案第9号、議案第29号、議案第35号及び議案第36号は、一体不可分のものとして一括して反対することを申し上げて、反対討論を終わります。

以上です。

【議長 山本 文男】

他に討論はありませんか。

【9番 甲斐 秀徳】

議長。

【議長 山本 文男】

9番、甲斐 秀徳議員。

【9番 甲斐 秀徳】

反対討論がないので、賛成討論を行いたいと思います。

委員会報告中、議案第29号について、賛成討論を行います。

コロナ禍でありました令和3年度、職員全体でコロナ感染防止に取り組んでいただきました。特に、医療関係者の皆様方の御努力には感謝を申し上げます。

新年度一般会計予算で私が一般質問いたしました全内容が全て網羅されており、特に、建設課においても町民の要望に応えるべく町道整備予算の充実、また、企画・

政策推進室では、今後の美郷町人口減少に対する問題をいかに対処していくか。その問題を町民とともに考えるための予算も組まれております。

美郷町総合計画を基本として、移住定住空き家対策事業を促進し、1人でも美郷町に定住し、その良さに触れ合っていただき、まちづくり事業、定住戦略実践事業、ひいては地域おこし協力隊の皆様が未来の美郷町の産業の一躍を担っていただくような施策予算でもあると考えます。

また、商工会、コロナウイルス各種対策事業など町民の衣食住に直結した商工業の活性化を図る事業、一方、税務課の地籍調査事業の成果に基づいた町内一律の固定資産税実測課税に移行するための準備の予算も組まれております。

農林振興課に対し、他町村にない米流通拡大事業、また、スマート農業促進、そして、アシストスーツ等導入支援事業等、農業次世代人材投資事業に新規就農者支援にも対応した予算であり、教育課においては、青少年交流事業も企画されており、給食無料化もあり、今回は、限られた中での予算ではありますが、積極的な予算であると、私は考えます。ここにとどまるか、後退するか、前に進むか、美郷町の未来が決まります。私は、前進しかないと考えます。

よって、この予算に対し、賛成いたします。

以上で、私の賛成討論を終わります。

【議長 山本 文男】

他に討論はありませんか。

【6番、川村 義幸】

議長。

【議長 山本 文男】

6番、川村 義幸議員。

【6番、川村 義幸】

私も議案第29号の賛成討論を行います。

私もそうありますが、田中町政にとって2期目の船出であります。美郷丸も新年度に向かってようやく出航しようというところです。この船出は非常に大事な船出だと思っております。今この船出を止めると、令和4年度全ての事業が止まってしまいます。人口減少を食い止めるための空き家対策事業、多くの町民が待ち望んでいる新型コロナウイルスワクチンの予防接種、町道の維持管理、未来ある子供たちのための給食施設運営管理、そして最も大事な学校教育事業など、新年度早々に取り組むべき事業の予算であります。

今、新型コロナウイルス感染症のために全国的に経済が冷え込んでおります。特に、商工業にとって厳しい時代であり、本町でも同じであります。この冷え込んでいる商工業、商店街を活気づけて一日も早く景気の回復を願わずにはおれません。

特に、建設業や建築業にとっては、ここで予算を決定させて、次年度早々から稼働できる体制を整えてやるべきだと思っております。そうすることで、美郷町全体が活性化していくことと思っております。

美郷町も合併して16年が経過しました。本当に美郷町が1つになるには、前に進めることが大事であります。逆戻りをさせたいいけないと思っております。そのためにも、この予算執行を決定すべきだと思っております。

総務課をはじめ税務、教育、社会福祉、町民生活、企画情報、政策推進室、財務、包括医療と全ての部署の課長はじめ職員が新年度に向かって取り組んでいくための予算提起であります。この予算に対して私は賛成をしたいと思って討論します。
以上です。

【議長 山本 文男】

他に討論はありませんか。

(「討論なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

討論なしと認めます。

これで、討論を終わります。

【議長 山本 文男】

これから、議案第2号 公の施設の指定管理者の指定について(田代保育所)の採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長報告は、原案可決であります。

それでは、原案について採決します。

【議長 山本 文男】

議案第2号 公の施設の指定管理者の指定について(田代保育所)は、原案のとおり決定することに、賛成の諸君の起立を求めます。

(起立全員)

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがいまして、議案第2号 公の施設の指定管理者の指定について(田代保育所)は、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

次に、議案第3号 公の施設の指定管理者の指定について(うなま保育所)の採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長報告は、原案可決であります。

それでは、原案について採決します。

【議長 山本 文男】

議案第3号 公の施設の指定管理者の指定について(うなま保育所)は、原案のとおり決定することに、賛成の諸君の起立を求めます。

(起立全員)

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがいまして、議案第3号 公の施設の指定管理者の指定について（うなま保育所）は、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

次に、議案第4号 公の施設の指定管理者の指定について（みかど保育所）の採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長報告は、原案可決であります。

それでは、原案について採決します。

【議長 山本 文男】

議案第4号 公の施設の指定管理者の指定について（みかど保育所）は、原案のとおり決定することに、賛成の諸君の起立を求めます。

（ 起立全員 ）

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがいまして、議案第4号 公の施設の指定管理者の指定について（みかど保育所）は、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

次に、議案第5号 公の施設の指定管理者の指定について（南郷歯科診療所）の採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長報告は、原案可決であります。

それでは、原案について採決します。

【議長 山本 文男】

議案第5号 公の施設の指定管理者の指定について（南郷歯科診療所）は、原案のとおり決定することに、賛成の諸君の起立を求めます。

（ 起立全員 ）

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがいまして、議案第5号 公の施設の指定管理者の指定について（南郷歯科診療所）は、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

次に、議案第6号 公の施設の指定管理者の指定について（地藏の里）の採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長報告は、原案可決であります。
それでは、原案について採決します。

【議長 山本 文男】

議案第6号 公の施設の指定管理者の指定について（地蔵の里）は、原案のとおり決定することに、賛成の諸君の起立を求めます。

（ 起立全員 ）

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがいまして、議案第6号 公の施設の指定管理者の指定について（地蔵の里）は、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

次に、議案第7号 公の施設の指定管理者の指定について（北の郷）の採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長報告は、原案可決であります。

それでは、原案について採決します。

【議長 山本 文男】

議案第7号 公の施設の指定管理者の指定について（北の郷）は、原案のとおり決定することに、賛成の諸君の起立を求めます。

（ 起立全員 ）

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがいまして、議案第7号 公の施設の指定管理者の指定について（北の郷）は、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

次に、議案第8号 小黒木辺地総合整備計画の策定についての採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長報告は、原案可決であります。

それでは、原案について採決します。

【議長 山本 文男】

議案第8号 小黒木辺地総合整備計画の策定については、原案のとおり決定することに、賛成の諸君の起立を求めます。

（ 起立全員 ）

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがいまして、議案第 8 号 小黒木辺地総合整備計画の策定については、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

次に、議案第 9 号 第 2 次美郷町総合計画後期基本計画の策定についての採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長報告は、原案可決であります。

それでは、原案について採決します。

【議長 山本 文男】

議案第 9 号 第 2 次美郷町総合計画後期基本計画の策定については、原案のとおり決定することに、賛成の諸君の起立を求めます。

(起立多数)

【議長 山本 文男】

起立多数であります。

したがいまして、議案第 9 号 第 2 次美郷町総合計画後期基本計画の策定については、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

次に、議案第 1 4 号 美郷町移住定住促進空き家活用住宅の管理に関する条例の採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長報告は、原案可決であります。

それでは、原案について採決します。

【議長 山本 文男】

議案第 1 4 号 美郷町移住定住促進空き家活用住宅の管理に関する条例は、原案のとおり決定することに、賛成の諸君の起立を求めます。

(起立全員)

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがいまして、議案第 1 4 号 美郷町移住定住促進空き家活用住宅の管理に関する条例は、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

次に、議案第 1 5 号 美郷町過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法の適用に伴う固定資産税の課税免除に関する条例の採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長報告は、原案可決であります。

それでは、原案について採決します。

【議長 山本 文男】

議案第15号 美郷町過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法の適用に伴う固定資産税の課税免除に関する条例は、原案のとおり決定することに、賛成の諸君の起立を求めます。

(起立全員)

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがいまして、議案第15号 美郷町過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法の適用に伴う固定資産税の課税免除に関する条例は、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

次に、議案第16号 職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例の採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長報告は、原案可決であります。

それでは、原案について採決します。

【議長 山本 文男】

議案第16号 職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例は、原案のとおり決定することに、賛成の諸君の起立を求めます。

(起立全員)

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがいまして、議案第16号 職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例は、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

次に、議案第17号 美郷町議会の議員の報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正する条例の採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長報告は、原案可決であります。

それでは、原案について採決します。

【議長 山本 文男】

議案第17号 美郷町議会の議員の報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正する条例は、原案のとおり決定することに、賛成の諸君の起立を求めます。

(起立全員)

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがいまして、議案第17号 美郷町議会の議員の報酬、費用弁償及び期末手当に関する条例の一部を改正する条例は、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

次に、議案第18号 町長等の給料及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長報告は、原案可決であります。

それでは、原案について採決します。

【議長 山本 文男】

議案第18号 町長等の給料及び旅費に関する条例の一部を改正する条例は、原案のとおり決定することに、賛成の諸君の起立を求めます。

(起立全員)

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがいまして、議案第18号 町長等の給料及び旅費に関する条例の一部を改正する条例は、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

次に、議案第19号 一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長報告は、原案可決であります。

それでは、原案について採決します。

【議長 山本 文男】

議案第19号 一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例は、原案のとおり決定することに、賛成の諸君の起立を求めます。

(起立多数)

【議長 山本 文男】

起立多数であります。

したがいまして、議案第19号 一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例は、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

次に、議案第20号 美郷町第1号会計年度任用職員の報酬、期末手当及び費用

弁償に関する条例の一部を改正する条例の採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長報告は、原案可決であります。

それでは、原案について採決します。

【議長 山本 文男】

議案第20号 美郷町第1号会計年度任用職員の報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例は、原案のとおり決定することに、賛成の諸君の起立を求めます。

(起立全員)

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがいまして、議案第20号 美郷町第1号会計年度任用職員の報酬、期末手当及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例は、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

これから、議案第29号 令和4年度美郷町一般会計予算の採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長報告は、否決であります。議案第29号 令和4年度美郷町一般会計予算は、原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(起立多数)

【議長 山本 文男】

起立多数であります。

したがいまして、議案第29号 令和4年度美郷町一般会計予算は、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

次に、議案第30号 令和4年度美郷町国民健康保険事業特別会計予算の採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長報告は、原案可決であります。

それでは、原案について採決します。

【議長 山本 文男】

議案第30号 令和4年度美郷町国民健康保険事業特別会計予算は、原案のとおり決定することに、賛成の諸君の起立を求めます。

(起立全員)

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがいまして、議案第30号 令和4年度美郷町国民健康保険事業特別会計予算は、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

次に、議案第31号 令和4年度美郷町介護保険事業特別会計予算の採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長報告は、原案可決であります。

それでは、原案について採決します。

【議長 山本 文男】

議案第31号 令和4年度美郷町介護保険事業特別会計予算は、原案のとおり決定することに、賛成の諸君の起立を求めます。

(起立全員)

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがいまして、議案第31号 令和4年度美郷町介護保険事業特別会計予算は、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

次に、議案第32号 令和4年度美郷町後期高齢者医療事業特別会計予算の採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長報告は、原案可決であります。

それでは、原案について採決します。

【議長 山本 文男】

議案第32号 令和4年度美郷町後期高齢者医療事業特別会計予算は、原案のとおり決定することに、賛成の諸君の起立を求めます。

(起立全員)

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがいまして、議案第32号 令和4年度美郷町後期高齢者医療事業特別会計予算は、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

次に、議案第33号 令和4年度美郷町簡易水道事業特別会計予算の採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長報告は、原案可決であります。

それでは、原案について採決します。

【議長 山本 文男】

議案第33号 令和4年度美郷町簡易水道事業特別会計予算は、原案のとおり決定することに、賛成の諸君の起立を求めます。

(起立全員)

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがいまして、議案第33号 令和4年度美郷町簡易水道事業特別会計予算は、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

次に、議案第34号 令和4年度美郷町農業集落排水事業特別会計予算の採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長報告は、原案可決であります。

それでは、原案について採決します。

【議長 山本 文男】

議案第34号 令和4年度美郷町農業集落排水事業特別会計予算は、原案のとおり決定することに、賛成の諸君の起立を求めます。

(起立全員)

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがいまして、議案第34号 令和4年度美郷町農業集落排水事業特別会計予算は、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

次に、議案第35号 令和4年度美郷町国民健康保険診療所事業特別会計予算の採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長報告は、原案可決であります。

それでは、原案について採決します。

【議長 山本 文男】

議案第35号 令和4年度美郷町国民健康保険診療所事業特別会計予算は、原案のとおり決定することに、賛成の諸君の起立を求めます。

(起立多数)

【議長 山本 文男】

起立多数であります。

したがいまして、議案第35号 令和4年度美郷町国民健康保険診療所事業特別会計予算は、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

次に、議案第36号 令和4年度美郷町国民健康保険病院事業会計予算の採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案に対する委員長報告は、原案可決であります。

それでは、原案について採決します。

【議長 山本 文男】

議案第36号 令和4年度美郷町国民健康保険病院事業会計予算は、原案のとおり決定することに、賛成の諸君の起立を求めます。

(起立多数)

【議長 山本 文男】

起立多数であります。

したがいまして、議案第36号 令和4年度美郷町国民健康保険病院事業会計予算は、原案のとおり可決されました。

【議長 山本 文男】

お諮りします。

お手元に配付しておりますとおり、議案第37号 職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例についてが提出されました。

これを日程に追加し、追加議事日程（第5の追加1）として、議題にしたいと思います。

これに御異議はありませんか。

(「異議なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

異議なしと認めます。

したがいまして、議案第37号 職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例についてを追加し、追加議事日程（第5の追加1）として、議題とすることに決定しました。

【議長 山本 文男】

追加日程を議題とします。

【議長 山本 文男】

追加日程第1 議案第37号 職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例についてを議題とします。

本案について、町長より提案理由の説明を求めます。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

それでは、議案第37号 職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の提案理由を申し上げます。

本案は、非常勤職員の育児休業等の取得要件の緩和等について、国の取扱いに準じて所要の改正を行うものであります。

内容につきましては、非常勤職員の育児休業等の取得要件のうち、「引き続き在職した期間が1年以上」との要件を廃止し、取得要件を緩和するとともに、育児休業を取得しやすい勤務環境を整備するため、「妊娠・出産等を申し出た職員に対する個別の周知・意向確認」、「育児休業等に関する研修の実施や相談体制の確立などの勤務環境の整備」、「育児休業等の取得状況の公表」の措置を講じるものであります。

以上で説明を終わります。

【議長 山本 文男】

提案理由の説明が終わりました。

これから、質疑を行います。

質疑を許します。

質疑はありませんか。

(「なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

【議長 山本 文男】

これから討論を行います。

討論はありませんか。

(「なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

討論なしと認め、これで討論を終わります。

【議長 山本 文男】

これから、議案第37号 職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例についての採決を行います。

この採決は起立によって行います。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の諸君の起立を求めます。

(起立全員)

【議長 山本 文男】

起立全員であります。

したがいまして、議案第37号 職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例については、原案のとおり可決されました。

以上で、追加議事日程は終わります。

【議長 山本 文男】

日程第2 議員派遣についてを議題といたします。

【議長 山本 文男】

会議規則第129条第1項の規定により、議員を派遣しようとするときは、「議会の議決でこれを決定する」となっております。

本定例会以降、令和4年6月までの議会を代表する各種委員につきましては、お手元に配付しました名簿のとおり選任したいと思います。

なお、日時、場所等については、議長に一任願いたいと思いますが、これに御異議はありませんか。

(「異議なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

異議なしと認めます。

したがいまして、議会を代表する各種委員は、別紙のとおり選任することに決定しました。

【議長 山本 文男】

日程第3 閉会中の審査等の申出についてを、議題とします。

お手元に配付のとおり、議会運営委員長、総務厚生常任委員長、文教産業常任委員長からそれぞれ申出が提出されております。

【議長 山本 文男】

お諮りします。

会議規則第75条の規定により、閉会中の審査等の申出がありました。

申出のとおり決定することに御異議ありませんか。

(「異議なし」との声あり)

【議長 山本 文男】

異議なしと認めます。

よって、閉会中の審査等については、申出のとおり決定しました。

【議長 山本 文男】

ここで、町長から発言の申出がありましたので、これを許します。

【町長 田中 秀俊】

議長。

【議長 山本 文男】

町長。

【町長 田中 秀俊】

それでは、貴重な時間をお借りしまして、3月議会定例会のお礼を一言申し上げます。

この定例会で報告1件、諮問2件、同意2件、議案35件、そして本日、1件の追加議案を提出し、合計41件の議案を審議していただきました。3月8日から本日までの15日間でありましたが、議員の皆様、真剣に討議をいただき、感謝を申し上げます。全議案可決をいただきました。ありがとうございます。

が、しかしながらという話になりますが、予算等審査特別委員会報告では、「議案第29号 令和4年度美郷町一般会計予算」が否決であります。このことを非常に重く受け止めております。

ですので今後、何が足らざるかという部分を皆様とともに真剣に協議してまいりたいと思っております。

一般質問では、6名の議員の皆様から質問をいただきました。一般質問の答弁のとおり、しっかりと対処してまいります。全力を尽くすのは当たり前であります。政治は結果だと言いますので、結果を求めてまいります。また、私にとりまして2期目の始まりですので、この定例会から新たな気持ちで取り組んでまいります。

会期中に、西北中山間地域が3年連続して食味ランキング特Aを受賞したといううれしいニュースが出てきました。2019年産、2020年産、そして2021年産、同じ神門の地区であります。そこから出た米が特A3年連続ということがあります。どうかして生産者のほうにお金がといますか、キックバックできるような体制を作り、応援していきたいと、このように思うところがあります。

それから、コロナウイルス感染症対策では、県では感染拡大緊急警報を3月末までに延長して、3月をリバウンド防止強化月間としております。3回目のワクチンを接種しておるところであります。完全に消滅したとは言い難いという状況でありますので、今後、予防の徹底がますます必要であろうと思っておりますので、いろいろなメディア、媒体を利用して、周知徹底を図っていきたいというふうに思っております。

また、3月16日には、午後11時36分ありますが、福島県沖を震源とする震度6の地震が発生をいたしました。ちょうど東日本大震災から11年ということで、その地震と重ね合わせて恐怖を抱いた方々が多くいたのではなかろうかと御推察するところでありますが、いっどこで、どんな災害が発生するか予測はできませんが、常在危機意識を持って対処してまいりたいと、そのように改めて再認識をしたところでございます。

話は変わりますが、同じ3月16日に、町内各学校の卒業式が挙行をされております。卒業生は南郷中学校で6名、美郷北義務教育学校で7名、西郷義務教育学校で11名であります。私の記憶に間違いがなければ、私ごとであります。51年前に卒業したときに、同級生は124名だったと思っております。待ったなしの状況だなあというふうに、改めて感じております。

ですので、人口対策というものを議員皆様としっかりと協議をしながら、どうす

ればいいかという部分で喧々諤々でやっていきたいというふうに思っております。

結びに、「春は名のみ 風の寒さや」と早春賦にあります。まだまだ寒いときもあろうかと思っておりますので、お体には御自愛いただきまして、議員活動をこれから頑張らせていただければと思っております。

また、執行部もしっかりとした体制の中でやっていきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

この、3月定例会、ありがとうございました。

【議長 山本 文男】

続きまして、令和4年第1回 美郷町議会定例会の閉会に当たり、議長として、一言、御挨拶いたします。

3月8日から15日間という長丁場でしたが、今定例会は、新人の議員は初めての定例会であり、予算等審査特別委員会をはじめ、各常任委員会、各特別委員会と非常に、忙しい3月議会でありました。

執行部の皆様には、審議の過程で、質疑への詳細な説明など真摯に対応していただきました。改めまして皆様へ感謝を申し上げたいと思っております。

本日は、24件の議案の採決が行われました。議会と執行部、立場は違っても目指すところは同じだと思います。共に切磋琢磨して、よりよい美郷町にしていくことが、ここにいる私たちの務めだと再認識しているところです。

議会としても、今後、議会改革に積極的に取り組み、議会力、議員力を上げながら、住民に寄り添った議会を目指して活動していきたいと考えます。

議員各位におかれましては、本定例会での審議の結果はもちろんですが、審議の過程なども含め、地域へ帰り住民の皆様へも説明をお願いしたいと思います。

以上簡単ではありますが、令和4年第1回美郷町議会定例会の終わりに当たって、私からの御挨拶とさせていただきます。

お疲れさまでした。

【議長 山本 文男】

これで、本日の日程は、全部終了しました。

会議を閉じます。

以上をもちまして、令和4年第1回美郷町議会定例会を閉会いたします。

【事務局長 小田 広美】

「一同・起立・礼」・・・お疲れさまでした。

(閉会：午前11時00分)